「実験医学雑誌」22巻 189-196 1938

22巻 189 1938

雑　　報

北支防疫調査團ノ使命ニ就イテ

人類ハ機會均等ノ原則ニ則ツテ生キ．國家ハ平等ノ存立權ノ下ニ立ツテ行クコトガ誠ニ人道デアリ國際ノ正義デアル。然ルニ孫文ニヨツテ樹立セラレタ國民政府ハ蔣介石ノ繼承スルニ及ンデ英米佛蘇ニ依存シ．排日抗日侮日ヲ以テ國是トナシ國民教育ノ根幹トナシ．事毎ニ日本國日本國民ニ迫害ヲ與ヘテ止マナイコト正ニ20有5年ニ及ンダ。實ニ人類生存ノ原則ニ悖リ．國際正義ヲ蹂躙スルコト之レヨリ甚シイモノハ無ク兩國間ニ何事カ起ラナカツタナラバ不思議ナ位デアツタ。然カモ事アレカシト祈ツテ居ル英米佛蘇ガ背後ニ居ルカラニハ今回ノ事變ノ招來ハ正ニ必至ノ狀勢デデモアツタコトハ何人モ首肯シ得ル處デアラウ。犬ハ養ハルヽコト3日ニシテ終生其恩顧ヲ忘レナイト言ハレテ居ル．國民政府ノ樹立者孫文蔣介石ハ共ニ彼等ガ清國政府ニ反旗ヲ飜ヘシタル當時ハ屢ヽ慘憺タル打擊ヲ蒙リ．命カラガラ吾日本ニ亡命シ有志ノ庇護ニヨツテ再擧ヲ計ツタモノデアツタ。特ニ蔣介石ノ如キハ日本ノ士官學校ニ於テ軍學ノ教養スラ受ケタモノデアツタ。然ルニ彼等ガ一朝其地位ニ就キ稍ヽ安定ノ域ニ達スルヤ忽チ鋒ヲ逆ニシテ恩人ニ刃向ハントスルニ至ツテハ忘恩モ甚ダシク人道ノ大敵デアリ天人共ニ許スコトノ出來ナイモノト言ツテヨイ．況ンヤ之レヲ助長シコノ非道ヲ正義人道化セントスル英佛蘇ノアルニ於テヲヤデアツテ．誠ニ言語道斷ト申サネバナラナイ。吾國ノ國是ト徹底的ニ背反スル共産主義ノ蘇國．之レト殆ンド變ラザル佛國ノ如キハ暫ク措キ常ニ口ニ正義人道ヲ唱フル英國ニツイテ一言ヲ費シ度イ。彼等ノ所謂人道ハ白人ニノミ通用スルモノデアツテ異人種ニハ適用シナイモノデアルコトハ印度人ニ對スル英人．「アメリカインデイアン」ニ對スル米人ノ態度ニ於テ明ラカデアル。然カモ彼等ハ自己ノ野心ヲ神聖化シ．之レヲ發表スル時ニハ常ニ宗教的道德的言辭ヲ以テシ．思慮淺薄ナ阿蒙ヲ眩惑シテ終フ．尙目的ヲ達シ得ナカツタナラバ莫大ナル黃白ヲスラ撒ラマキ冷靜ナル判斷ヲ麻痺サセルコトニモ妙ヲ得テ居ル。ソシテ一旦發表シタ目的ハ何處迄モ貫徹シナケレバ止マナイ。强盜掠奪ニ等シイ行爲迄モナスガ．尙口ニハ正義人道ヲ以テスル。ソシテ獨立ト自由トヲ宣傳シツヽ世界ノ大半ヲ殖民地トナシ其利益ヲ壟斷シ之レヲ自己目的ノ遂行ニ惡用シテ居ル。然カモ尨大ナル地域ノ門戸ヲ閉鎖シテ黃人ノ如キヲ絕對ニ入レヤウトシナイ。機會均等生存ノ平等ガ何處ニアラウ。國際正義ノ破壞ハ正ニ「アングロサクソン」ノ此種ノ行爲ヲ措イテ他ニナイト申シテヨイ。然ルニ國民政府ノ當路者達ハ愚カニモ口ニノミ呼ブ正義人道ノ響ニ惑ハサレテ徹底的錯誤ヲ敢テシツヽ來ツタコト四半世紀デアル。吾日本ハ天ニ代ツテ此不義ヲ打タナケレバナラナイ事ニ立チ至ツタノデアル然ラズンバ世界ノ平和ハ保タレナイ。

今ヤ賢明ナル北支ノ民衆ハ此誤レル國是ト完全ニ絕緣シ始メテ明朗ナル眞ニ正義人

道ニ遵フタル自治ヲ宣言シ同文同血ノ大和民族ト握手セラルヽニ至ツタ。至慶此上モナシト言ツテヨイ。吾日本國民ハ誤レル國民政府ヲ懲懲スルガ爲メニ鋒ヲ取ツテ立ツタノデアルガ．支那四億ノ民衆ニハ何等ノ怨恨ハナイ。常ニ血ハ水ヨリモ濃シト考ヘテ手ヲ差シ伸ベテ提携セントシテ居ルノデアル。

黎明曉ヲ告ゲントスル北支ニ寒心ニ耐ヘナイノハ戰後ニ於ケル各種惡疫ノ流行デアル。然カモ近年稀ニ見ル黄河ノ氾濫ハ一層其厄ヲ大ナラシメルモノガアラウト確信スル。吾等一行ハ此明朗北支ニ對スル一大惡魔ヲ退治スベク諸公ト協力センガ爲メニ茲ニ一團ノ團員ト共ニ來ツタモノデアル。北支ノ諸公ノ協力ガ無カツタナラバソノ果ハ結バレナイ。願ハクバ吾等ノ誠意ヲ酌マレンコトヲ。

昭和十二年十一月

宮川米次

昭和十三年元旦式辭

昭和十三年ノ元旦ニ當リマシテ．一同ト共ニ聖壽ノ萬歲ヲ壽キ．祈リ奉ルト共ニ日本帝國ノ彌々益々發展シ行カンコトヲ希フモノデアリマス。

現在ハ眞ニ非常時デアリマス。

屢ゝ非常時ナル言葉ガ用ヒラレマスガ．ソレハ時ニハ亂用デハナイカト思ハルヽヤウナ事ガアリマスガ．然ルニ現在ハ誠ニ吾國ニトリマシテハ眞ニ非常時デアルト言フテ差支ヘナイト存ジマス．此時ニ當リマシテ．各方面ニ活動シテ居リマス國民ハ精神的ニ完全ニ一致シテ．吾國ノ目的達成ニ努力シナケレバナリマセヌ．吾傳研ニ於テハ全所員打ツテ一丸トナリ．本所ノ使命ヲ完全ニ遂行スルトイフコトガ卽チ吾等ノ本分ヲ全フスル所以デアリ．此非常時ヲ乘リ切ル唯一ノ方法デアルノデアリマス。世ノ百事百般ノ事業ヲ行フニ當リマシテ．百「パーセント」ノ一致ヲ見ルト言フコトハ．殆ンド不可能ノ樣ニ思ハレマスガ．然シ吾傳研ノ所員ガ本所使命ノ達成上ニハ．ドウカ百「パーセント」ノ一致ヲ見タイト切望スルモノデアリマス．ソレハ例外的ノ要求デハアリマスガ．私ハ敢ヘテ至難ノ業デハナイト確信スルモノデアリマス．人生ハ努力ニヨツテ珠ヲ生ミマス。和アツテコソ全キヲ爲スコトガ出來ルノデアリマス。

昭和十二年ノ回顧

多クノ期待ト希望トヲ以テ迎ヘタノデアリマシタ．ソシテ誠ニ文字通リ極メテ多事ノ1年デアリマシタ．先ヅ吾傳研ニオキマシテハ．六月一日ヲ紀念日ト致シマシテ．年中行事ノ一ト致シマシタ。研究ノ方面ニ於テハ豫定通リニ遂行セラレマシテ．腦炎「カラアザール」等ニ於キマシテハ諸方面ニ研究團ヲ送ツテ相當認メ得ベキ成績ヲ擧ゲツヽアリマス．其他ノ研究ニ於テモ．アラユル方面ニ進境シツヽアリマシテ愉快ニ堪ヘマセヌ．然ルニ此研究中ニオキマシテ．山田信一郎君ガ支那ニ於テ終ニ永眠セラレマシタ事ハ返ヘス返ヘスモ殘念デアリマス．特ニ北支ノ狀況ガ變化シテ參リマシテ．吾等ガ驥足ヲ伸シテ活動シ得ル域ニ達シマシタ今日．同君ノ死ハ一層痛切ニ惜マルヽノデアリマス。

眼ヲ傳研外ニ轉ジマスト。

七月七日龍王廟事件ニ端ヲ發シ．終ニ蘆溝橋．一文字山等ノ激戰ニ展開シテ後モ．吾國ハ彼ノ內容極メテ貧弱ナル現地協定ニ滿足シテ事變不擴大ニ終ラシメ樣ト努力シタノデアリマシタガ．支那ハ吾ガ 5•15。2•26 事件等々．其他頻々トシテ起ル政變等ニヨッテ．我レヲ見縊ツテ居リマシタ．然カモ蔣介石ノ排日抗日教育ハ極メテ徹底シ．今日20歲前後ノモノニハ心魂ニ徹シテ行キ廻ツテ居タノデアリマシタカラ．爲メニ慢心シテ來テ居リマシタ．ソシテ總テガ計劃的デアリ日本ヲ膺懲スル絕好ノ機會ナリト迄確信シテ居タノデアリマシタ．ソレハ通州事變ニ於ケル保安隊ノ襲擊振リヲ見テモ．天津．北京．上海ニ於ケル彼等ノ用意ノ周到サニ見テモ．誠ニ首肯セラルヽ節ハ澤山ニアル樣ニ思ヒマス．世ニハヤヽトモスルト．今回ノ事變ハ日本ヨリ仕掛ケタノデハナイカナドトノ觀察ヲスル向キガナイデモナイ樣デアリマスガ．一度現地ニ參リ其實狀ヲ親シク見タモノニハ．其觀察ガ全然覆ヘルノデアリマス．今回ノ事變ニ限リ．全ク吾日本ハ受ケ身デテリマス．堂々ト橫綱振リヲ發揮シテ．支那ノ挑戰ニ向ツテ．受ケテ立ツタモノデアリマス。ソノ證據ニハ．彼ノ時雲霞ノ如ク集ツテ來ル支那ノ大軍ヲ迎ヘ擊ツ程ノ大ナル用意ガ皇軍ノ現地ニハナカツタノデアリマス．百分ノ1．千分ノ1ニモ滿タナイ少數ノ將士ヲ以テ激戰奮鬪シテ居ラレタノデアリマス。內地ヨリ彌々出兵スルトナリマシテモ御承知ノ如ク．最短時間ニ一軍ヲ現地ニ送ルノニ尙2週間ヲ要シマス．本當ニ日本ガ戰爭ヲ始メタノハ實ニ八月ニ這入ツテカラデアリマスコトハ皆樣ガヨク御承知ノ通リデアリマス．驕ル者ハ終ニ久シカラズト言ハルヽ樣ニ支那人．特ニ蔣介石ノ慢心ハ忽チ．天誅ヲ受ケタ事ハ．當然トハ申シナガラ．此新春ニ當リマシテ．サゾ寢覺メノ惡ルイ事デアラウト想像セラルヽノデアリマス。

日支事變ト傳研。

一寸變ニ聞ヘマスガ．玆ニ3個ノ重大ナル事柄ガアルノデアリマス．其一ハ血淸ノ製造デアリマス．特ニ瓦斯壞疽．破傷風血淸ハ事變前ヨリ本所カラハ製造賑賣シテ居タノデアリマシテ．相當多量ノ製品モ所有シテ居タノデアリマスガ．極メテ多額ノ要求ガアリマシテ．破傷風其他ノ血淸製造ト共ニ大車輪ノ活動ヲ爲シ．コノ相當廣イ傳研內ハ寸地モ殘サナイ程ニ廐舍ヲ建タ事デモ御解リノ事ト存ジマス．隨ツテ作業上ニハ極メテ多忙デアルノデアリマスガ．幸ニ全所員ガ完全ニ協力和心シテ其事ニ當ツテ頂イテ居リマスカラ．次第ニ成績ヲ擧ゲツヽアルコトハ喜ニ耐ヘマセヌ。

次ハ所員ノ出征デアリマス．石井信太郎君ヲ始メ．今日迄ニ約30名ノ出征者ヲ出シテ居リマスコトハ意ヲ强フスル所デアリマス．然カモ何レモ第一線ニ於テ活躍シテ居ラレ．今日迄幸ニ皆無事デ居ラレマスコトハ同君等ノ爲メ．邦家ノ爲メ慶賀ニ耐ヘマセヌ．吾等ハ此新春ニ當リマシテハ玆ニ改メテ出征者諸君ノ武運長久ヲ祈リタイト思フモノデアリマス。

出征者諸君ノ御勞苦ハ察スルニ餘リアルモノガアリマスガ．吾傳研トシテハ作業．研究ノ最モ旺盛デアリマス是等30有餘ノ所員ガ一時ニ本所ヲ離レラレマシタ事ハ．本所ノ作業上ニハ一大痛棒デアリマスコトハ申ス迄モアリマセヌ．今日迄ハ出來得ル

限リサシ繰リシテ來テ居リマスガ．諸君ノ負擔ハ相當ニ多ク且ツ重クナツテ來テ居リマスコトハ，私モ善ク承知シテ居リマス．之レガ非常時デアルノデアリマスカラ，一層ノ奮勵努力ヲ願ヒタイノデアリマス。

其三ハ北支衞生開發ノ事業デアリマス。昨年暮，私ハ佐藤，小島兩君等ト共ニ外務省ノ依屬ヲ受ケ．陸軍ト協力シテ．北支ノ衞生開發ヲ如何ニスベキヤニ就イテ．意見ヲ求メラレマシタノデ．現地ニ參リマシタ。幸ニ陸軍滿鐵等ノ責任者ト協議シテ．一個ノ結論ヲ得マシテ．當局ニ進達シテオキマシタ．其結果新春匆々カラ．先ヅ佐藤君ヲ團長トシテ．傳研カラ相當數ノ諸君ノ出張ヲ願ヒマシテ．北支ノ衞生開發ノ實際ニ當ツテ頂キタイト思ツテ居リマス．先キニモ申シマシタ通リ．多クノ出征者ガアリマス上ニ．又北支衞生開發ニ相當數ノ所員ノ出張ヲ爲スガ如キハ一面無謀ノ樣デモアリマスガ．全ク國家的一大事業デアリマスシ．傳研以外ニ吾國ニハ澤山ノ醫學研究機關ガアリマスガ．吾傳研人ニ命ガ下ツタ以上ハ出來ナイト御斷リスルコトモ如何カト考ヘ，誠ニ大ナル負擔デハアリマスガ．幸ニ諸君ノ衷心ヨリノ諒解ト協讚トヲ得マシテ．此大使命ニ當ツテ見タイト思フテ居リマス。由來人間ノ要求スル第一ハ食デアル．食ヲニ事缺カヌ場合ニ要求スルモノハ健康デアリマス．住フニハ貸家デモヨロシイ。著ルニハ貸衣デモヨロシイ．然シ食物ト健康トハ他人ノソレデ滿足スルコトハ出來ナイ．此意味カラシテ．北支ニ於テモ治安維持ガ出來．住民ニ食ヲ與フルコトガ出來ル樣ニナツタ後ニハ住民ノ健康ヲ考ヘナケレバナラナイノハ當然デアリ．吾國政府ニ於テ此點ニ着意セラレテ事業ヲ開始セラルヽ事ハ誠ニ吾意ヲ得タ事ト申サネバナリマセヌ。北支ノ衞生開發ノ事業ハ極メテ六ケ敷イ事柄デアリマスカラ獨リ傳研人ノ力ニヨツテノミデハ決シテ完フスルコトハ出來マセヌコトハ火ヲ睹ルヨリ明ラカデアリマスガ．先ヅ傳研人ニヨツテ何ニガシカノ仕事ヲ始メルコトガ出來ル樣ニナツタ場合ハ．其事業ニモ恒久性ガ現ハレ．待遇給與等ニモ見通シガ付ク樣ニナリマセウ．其場合ハ廣ク天下ニ人材ヲ求メル樣ニシタイト考ヘテ居リマス。今春コノ事業ノ開始ニハ傳研人トシテ．彼地ニ赴キ．外務省文化事業部ノ仕事ヲ軍ノ隷下ニ於テ行フト言フ形ニナルノデアリマス．此樣ナ過渡的態形ハ勿論一時的ノモノデアリマスガ．現在ハソレヨリ外．ヨイ方法ガ見當リマセヌ．然シ時相ノ變化ト共ニ此態形ハ變化スベキモノト考ヘテ居リマス。

以上ガ今回ノ事變ト吾ガ傳研トノ關係デアリマス．吾國ノ文化施設ノ內デハ恐ラク最モ深イ關係ノアルモノト言フテヨイ樣ニ思ヒマス．又ソノ作業上．非常時豫算ヲ與ヘラレタノモ恐ラク本所ノミト存ジマス．此點諸君ノ認識ヲ深メテ頂キタイト同時ニ．吾等ノ活動スル範圍ガ非常ニ廣クナリマシタ．隨ツテ責任ガ一層重クナツタ事ハ申ス迄モアリマセヌ．諸君ハ此樣ナル使命ノ傳研ニ御活動下サルヽコトヲ無上ノ光榮ト思フテ頂キタイ．又一層緊張シテ．世界ニ大傳研ノ威力ヲ示シテ頂キタイト祈ルモノデアリマス。

厚生省ノ開設．公衆衞生院ノ開所，

多年望ンデ居タ保健衞生ノ中樞機關タル厚生省モ彌々本年開設セラルヽ事ニナリマ

シタ．兎角衞生行政ノ統制ガ亂レ勝チデアリマシタモノガ．茲ニ渾然一機構ノ許ニ統制セラルヽ樣ニナツタ事ハ北支ニ於ケル衞生開發ト相俟ツテ誠ニ慶賀ニ耐ヘマセヌ。之レト同時ニ多クノ苦心ガ拂ハレマシタ公衆衞生院モ本所ト文字通ノ姉妹關係ニ於テ．近ク開所セラルヽ事ニナリマシタ．感概無量デアリマス．誠ニ事ハ成ル時ニナルニアラズシテ．ソノ來ル所ヤ遠シデアリマス。諸君此公衆衞生院ガ傳研內ニ茲ニ巍然トシテ建立セラレタノハ決シテ一朝一夕ノ苦心ノ結果デハナイト言フコトヲ御承知願ヒタイシ．又本所ト完全ニ姉妹關係タリ得ルカ否ヤハ．全ク今後之レニ携ハル人ニヨルノデアリマス．私ハ本所ノ使命上．徹底的ニ協調．一心同體ノ意氣ヲ以テ．日本ノ衞生開發ニ向ツテ．努力シタイト念願シテ居ルモノデアリマス．何卒諸君ニオカレテモ公衆衞生院ト傳研トノ關係ヲ充分念頭ニオカレ．アラユル關心ヲ拂ヒ．本所ト共ニ新施設ノ圓滿ナル發達ニ協力シテ頂キタイト思フモノデアリマス。

日本人ト支那人トハ同文同種カ

私ハ支那人ハ吾等ト同文同種カヲ疑フモノデアリマス．ソレハ六ケ敷イ人類學．考古學ヤ何ニカノ立場カラ言フノデハアリマセヌ．現在ノ支那人ハ日本人トハ全ク違フ樣ニ思ハレルノデアリマス．ソレハ風俗．習慣．物ノ考ヘ方等々徹底的ニ違ツテ居ルカラデアリマス．吾等ハ漢字ヲ使用スルガ．支那人ノソレトハ凡ソ距離ノアル使用方法デアリマス．誰レデアツタカ．日本語ト支那語トノ相違ハ英語ト獨逸語トノ相違ヨリモ甚ダシイト言ハレタガ．一面眞理ガアル樣ニ思ヒマス．由來日本人ハ死屍ニ鞭ツコトヲ非常ナル恥トシテ武士道上ヨリ排斥シテ居リマス．然ルニ支那人ハ死骸カラ魂ガ出テ來テ仇ヲ爲ス惧レガアルカラト言フテ死屍ヲ徹底的ニサイナム習慣ガアリマス．彼ノ通州事變ノ慘虐サガ其現レデアルノデアリマス。

支那人ハ義ニ動カズ．利ニ走ルトイフコトハ古今ノ歷史ニ非常ニ多クノ類例ガアリマス．常ニ極メテ巧言令辭デハアリマスガ．內心ハ何ヲ考ヘテ居ルカ解ラヌノガ．支那人ノ通弊デアリマス．今回ノ事變ニ直接携ツタ所謂要人連ニ．日本人ガイヽ樣ニ飜弄セラレタノモ全ク彼等ノ令辭ニ惑ハサレタ爲メデアツタコトハ申ス迄モアリマセヌ．其所ヘユクト大多數ノ日本人ハ非常ニ單純デアリ．馬鹿正直デアルコトガ痛感セラレマス．義ヲ見テ爲サザルハ勇ナキナリトハ吾等ノ生命デアリマシテ日本軍ニハ背後ニ所謂督戰隊アル必要ハ全クナイガ如キガ非常ナル相違ダト思ヒマス。

支那人ニ敬神ノ氣アリヤ。

日本人ニハ驚クベキ程ニ神ヲ崇メル氣分ガアリマス．內地ハ申スニ及バズ．滿洲．朝鮮．臺灣ニ迄．實ニ立派ナ神社ガ．日本人ノ住ム所ニハ必ズアリマス。支那ニハ立派ナ神社ナドハ非常ニ少イ．近時．中山陵ノ如キガアルガ．之レハ寧ロ政治的意味ガ非常ニ多イモノデアリマシテ．本邦ノ神社トハ趣キガ違ヒマス．孔子廟．漢帝廟．高祖廟等々ノ如キモノモ．自ラ相違ガアリマス．佛閣ノ如キモ支那ニハナイデハナイガ．本邦ニ於ケルソレトハ非常ナル相違ガアリマス．皮相觀カハ知リマセヌガ私ハ支那人ニ敬神ノ氣ガアルカ否ヤヲ疑フモノデアル。

風俗習慣ノ相違，

支那人ノソレト日本人トハ徹底的ニ風俗上相違ガアリマス．支那ノ下層民特ニ婦人ハ一生入浴シナイモノガ非常ニ多イ．水ヲ惧ルヽコトハ大變ナモノデアリマス。支那ニ若シ日本ニアル程ニ溫泉ガアツタトシテモ．到底繁昌シマスマイ．其證據ハ北京近郊ノ湯山ノ如キガソレデアリマス。

支那ノ家屋ニハ普通ハ便所ガアリマセヌ．日々ノ用便ハ想像ノ限リデアリマス。

支那人ハ松ヲ不淨ノ樹トナシ．松ノアル所ハ必ズ墓地デアリマス．ソレヲ新春ノ祝ニ使用スル日本人ノ氣ガ知レヌト言ハレタノモ尤モデアリマス。之レト同樣ニ龜ハ淫亂ノ表徵動物トシテ居テ非常ニ嫌フ．(最モ日本ニモ出齒龜ノ如キガアリマシタガ)．此邊私ニモ何レニ眞理ガアルノカ解リマセヌガ．結婚式ニ鶴龜ノ曲ナドヲ歌フコトハ．支那人ニハ一大禁物デアルラシイノデアリマス．此樣ナ事例ヲ求メタラ數限リナク澤山アリマス．要スルニ支那人ヲ吾等ト直チニ同文同種ノモノトシテ．簡單ニ片付ケルコトニハ私ハ却々ニ贊成ガ出來マセヌ．今後日支間ハ益々緊密ノ度ヲ加ヘナクテハナリマセヌ．少トモ吾々ハ今春ヨリ直接ソレニ携ハル事ニナツテ來マシタカラ．新春初頭ニ於テ支那人ナルモノヲ善ク御了解シテオイテ頂クコトガ非常ニ大切ト存ジマス。

以上ヲ以テ聊カ新年ノ式辭ト致シマス。

昭和十三年元旦

宮川 米次

佐藤，小島兩所員歸朝

先般來北支方面ヘ出張中デアツタ佐藤所員ハ舊臘12月26日(日)午後3時25分．小島所員ハ同12月25日(土)午後5時20分夫々東京驛着無事歸朝セラレタ。

新年祝賀式擧行

本所ニ於テハ例年1月4日ニ新年祝賀式ヲ擧行シテキタガ．本年ハ國民精神總動員ノ趣旨ヲ體シ．1月1日午前10時ヨリ講堂ニ於テ新年祝賀式ヲ擧行シタ。先ヅ君ケ代2唱ノ後．所長ガ式辭ヲ述ベラレ．最後ニ所長ノ發聲ノ下ニ天皇陛下萬歲ヲ3唱シ奉ツテ閉式シタ。

續イテ食堂ニ於テ春秋會ノ新年祝賀會ヲ開催シタ。

其後ノ應召者

其後ノ本所關係應召者ハ次ノ如クデアル。

寺山廣喜氏(採血室勤務)

學友會ヘ寄附

金29圓04錢也　齋藤　堯夫君
金13圓50錢也　山岸　精實君
金7圓56錢也　岡西順二郎君
金392圓24錢也　前田　幸雄君
金28圓48錢也　關屋　重德君
金29圓52錢也　田中　芳雄君
金8圓22錢也　長谷川秀治君
金7圓46錢也　石井信太郎君
金54圓32錢也　塚原　國雄君
金3圓95錢也　鐵本　總吾君
金45圓50錢也　木口　三郎君

人事異動報告　昭13.1.8現在

發令月日	辭令	官職	氏名
12. 10	傳染病研究所業務ヲ囑託ス(醫局)		金子　讓
〃 24	任傳染病研究所技手	囑託	森　和雄
〃	同	同	細井　輝彦
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託ス(第七研究部)		佐藤　三郎

〃 27 願ニ依リ研究生退學(化學)

國重　太郎

訂正　實驗醫學雜誌第21卷第12號ノ森下論文「青島產鉤頭蟲類ノ研究」中下記ノ4ヶ所ヲ訂正ス。

	誤	正
1911頁下ヨリ6行目	205	155
1912頁下ヨリ3行目	183.0	155.0
1913頁13行目	2倍	1.5倍
1913頁24行目	205.15mm	155.15mm

前田論文正誤表(第21卷第10及ビ第11號)

	頁	行	誤	正
第10號ノ部	1310	下11	Kristensen u. Bojlén 氏 (1929) 培地	Kristensen u. Bojlén 氏 (1929)[43] 培地
	1314	上14	Gärtner 傳研等ハ菌株	Gärtner 傳研等ノ菌株
	1329	上11	m-Fator ヲ	m-Faktor ヲ
	1332	下14	Moscow (Koch Inst.)	Moscow (Kauffmann)
	1340	下 8	供試菌ハ gram 陰性	供試菌ハ Gram 陰性
	1345	上 8	4菌株 S. ent. var. moscow	4菌株ハ S. ent. var. moscow
	〃	下 7	點ニヲ區別	點ニテ區別
第11號ノ部	1733	下 2	及スブ，其形線狀ヲ呈ルモノ	及ブ，其形線狀ヲ呈スルモノ
	1751	下 9	Moscow (Kost Inst.)	Moscow (Koch Inst.)
	1758	上 9	生物學性狀	生物學的性狀
	1761	下14	標準蓚酸液ヲ適下シ	標準蓚酸液ヲ滴下シ
	1762	上 6	Aar-Agar	Agar-Agar
	1763	下 6	次一溶菌價	次ニ溶菌價
	1765	下15	Ph. Chaco蘭間α, Ph. Chaco蘭間β	Ph. chaco 蘭間α. Ph. chaco 蘭間β
	〃	下13	Ph. Chaco 田崎人工, Ph. Chaco 岡部人工	Ph. chaco 田崎人工, Ph. chaco 岡部人工
	1766	下10	直徑 2—3 m.m. シテ	直徑 2—3 m.m. ニシテ
	1768	下 6	Danysz 442	Danysz(R. G. A.)
	1782	下11	Phagekolonie	Phagenkolonie
	1785	下 8	今野兩氏	金野兩氏

人ニマカトイフニ。コレハ臭化反應ニ際シコノ環ガ毀サレルト考ヘラルトイフ。

尙 Histidin ニモ臭化作用ガアラハレルコトハ「ヒスチヂン」ガ Bromcasein ノ燐「ウオルフラム」酸ノ濾液ニ變化シテアラハレルコトカラ推定シテキル。　（中村）

雜　　報

學術集談會

去ル1月27日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタガ，演題ハ次ノ如クデアツタ。

演　題

1. 日本流行性腦炎病毒ニヨル不顯性感染ニツイテ
昭和12年12月岡山市ニ於テ採取サレタ健康人ノ血液及ビ口腔液内ノ病毒ノ證明　三田村篤志郎君　北岡　正見君　森　和雄君　大久保　薫君　天神　智君

2. 日本流行性腦炎病毒ノ靜脈内注射ニヨツテ惹起サレタ山羊ノ腦炎ニツイテ　三田村篤志郎君　北岡　正見君　大久保　薫君

3. 化學藥品及ビ血清ノ鼻腔内注入ガ二十日鼠ニ於ケル日本流行性腦炎病毒ノ經鼻感染ニ及ボス影響ニツイテ　三田村篤志郎君　北岡　正見君

4. 傲毒血清診斷ニ就イテ
特ニBrowning 法，獨逸國法(Sachs 法)及ビ Kolmer 法ニ據ル三種 Wassermann 反應ノ比較
(第一報)　羽里彦左衛門君　中村　茂一君　清水　萬之助君　田中　芳雄君

5. 「カラアザール診療研究團作製16ミリ映畫供覽

學友會ヘ寄附金

金8圓45錢　須賀井忠男君
金31圓06錢　永井　吉郎君

人事異動報告　昭13．2．4現在

發令月日	辭令	官職	氏名
1．10	免兼官	技師	勝俣　稔
〃	同	同	野邊地慶三
〃	兼任厚生技師(官制改正ニヨリ辭令ヲ用ヒス)	教授	佐藤　秀三
〃	兼任防疫官自然消滅(內務省防疫官廢官ノ爲)	同	高木　逸磨
〃	同	同	小島　三郎
〃 11	依願解囑		齋藤　堯夫
〃 14	任東京帝國大學教授敍高等官三等	臺北帝大教授 兼東大教授	細谷　省吾
〃	補傳染病研究所所員	東大教授	細谷　省吾
〃 15	北海道ヘ出張ヲ命ス(學術上取調ノ爲)	技師	城井　尙義
〃 17	依願免本官	技手	後藤　敏夫
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		後藤　敏夫
〃 20	依願免本官	技手	大久保　薫
〃 22	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		大久保　薫

22巻 (3号) 1938

免疫シタ家兎ノソレヲ使用シ病毒接種1日前2日間，1耳宛2回腹腔內ニ注射シタ。對照70匹ノ二十日鼠ハ悉ク罹患斃死シタガ，受働免疫ノ行ハレタ70匹ノ43%ハ3週間生存シタ。山羊ノ免疫血清ノ注射ヲ受ケタ二十日鼠ハ悉ク斃死シタガ其ノ潛伏期ガ延ビタ。

(北)

雜　報

學術集談會

去ル2月17日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタガ，演題ハ次ノ如クデアツタ。

演　題

1. Sulfhydryl 基ヲ有スル化合物ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ　柳澤　謙君・須賀井忠男君
2. 無機酸化劑ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ　柳澤　謙君・大林　容二君・高野　正男君
3. 結核菌ノ培養並ニ「ツベルクリン產生ニ對スル各種グリセリン」ノ比較　柳澤　謙君
4. 沈降反應ノ研究(1)　沈降反應ニ於ケル種々ノ「最適點」トソノ意義　緒方　富雄君・松林　暸君・鈴木　邦夫君
5. 沈降反應ノ研究(2)　「反應ノ場」ノ形トソノ意義　緒方　富雄君・松林　暸君
6. 沈降反應ノ研究(3)　「二重輪現象」ノ成立機轉トソノ意義　緒方　富雄君・鈴木　邦夫君
7. 沈降反應ノ研究(4)　沈降反應ト補體結合反應トノ關係ニ關スル知見補遺　緒方　富雄君・松林　暸君
8. 其後ニ於ケル鼠鼠淋巴肉芽腫症ノ病原體ニ關スル內外人ニ依ル研究所見(綜說)　宮川　米次君

北川，高野兩氏應召ス

醫局技手北川安信氏，第七研究部高野正男氏ハ臨時召集セラレ去ル3月1日東京驛發某地ニ向ツタ。

金澤氏出征ス

昨年來高崎步兵第15聯隊ニ應召中デアツタ金澤謙一氏ハ去ル3月8日○○ニ向ケ東京驛ヲ出發シタ。

石井所員凱旋ス

カネテ應召中デアツタ所員石井信太郎博士ハ去ル3月8日品川驛着凱旋原隊ヘ歸還セラレタ。

學友會ヘ寄附金

金100圓28錢也	齋藤　南君
金26圓43錢也	山岸　精實君
金7圓28錢也	鈴木餘四郎君・藤本三郎君
金16圓06錢也	內野豐生君・保坂一郎君
金41圓46錢也	小栗　一好君
金23圓68錢也	栗本珍彥君

22巻 711 1938

「実験医学雑誌」22 711-712 1938
(4号)

雜　　報

學術集談會

去ル3月17日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。コノ3月デ停年制ニヨツテ勇退サレルコトエナツタ城井・西澤兩先生ニトツテ現役トシテ最後ノ集談會デアツタカラ，聊カ演壇ヲ飾ツテ敬意ヲ表シ，且講說ガ終ツテカラ宮川所長カラ挨拶ガアツタ。

尙當日ノ演題ハ次ノ樣デアツタ。

1) 2種ノ鉤頭蟲ニ關スル知見補遺　森下哲夫・福井玉夫

2) 「トリコモナス」ニ關スル研究 (第三報)牛ノ生殖器「トリコモナス」ノ生體染色及ビ酸化並ニ還元能ニ就テ　森下哲夫

3) 東京市內在住健康人ノ糞尿ヨリノ「サルモネラ」屬菌ノ檢出成績　小島三郎・中込亘・八田貞義・大橋久治

4) 「コツホ・ウキークス」菌ニ就テ　西澤行藏・寺田雄之助・高橋市五郎

5) 再ビ馬ノ流行性腦脊髓炎ノ無症狀感染ニ就テ　城井尙義・佐藤久藏・安藤啓三郎・山田誠

第10回日本醫學會

4月1日カラ5日間京都ニ於テ第10回日本醫學會ガ開催サレタ。38ノ分科ヲ數ヘ頗ル盛大ニ行ハレ，本所カラノ參加者出演者モ多カツタ。

5日ノ最終總會デ次ノ第11回日本醫學會ハ東京デ開カレルコトニナリ，會頭ニ長與又郎博士・副會頭ニ宮川米次博士ガ推薦サレタ。

尙微生物學會評議員會ハ來年ハ7月中旬ヲ期シ，北大中村豐教授ヲ會長トシ，札幌ニ開催スルコトヲ決定シタ。又 The International Society of Microbiology ガ今度 The International Association of Microbiologist ト改稱サレルコトニナツタガ，本邦微生物學者團體トシテ之ニ參加スルコトヽナリ，常任委員トシテ志賀潔博士ヲ推シ，微生物學會ノ年次會長ガ幹事トシテ會務ヲ處理スルコトニ決シタ。

又コノ學會開催ヲ機ニ4日午後6時カラ都「ホテル」デ傳研學友會懇親會ヲ催シタ。會スルモノ約60名，幹事ノ挨拶ニ次イデ宮川所長立ツテ傳研ノ近況ヲ詳述シ，阿部・中村(豐)・武田・黑屋・北野・德原・城井氏等ノ「テーブル・スピーチ」デ舊懇ヲ溫メ，遠藤氏ノ幹盃デ午後10時盛會裡ニ閉會シタ。

石光・中込氏赴任ス

曩ニ陸軍技師ニ任ゼラレタ兩氏ハ夫々次ノ汽車デ東京驛發赴任ノ途ニ着カレタ。

中込氏　3月31日午後零時15分發

石光氏　4月2日午前9時發

學友會へ寄附

一金19圓08錢也　森下哲夫君

〃 22圓18錢也　齋藤南君

〃 49圓72錢也　城井尙義君

人事異動報告　昭13. 4. 9 現在

發令月日	辭令	官職	氏名
2. 16	依願解囑		大村重光
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		利部光四郎
2. 28	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		阿部康男
〃	依願解囑		木村次郎

,, 研究生退學 明田川 弘
3. 8 任臺北帝國大學助教授兼
臺北帝國大學附屬醫學專
門部教授 傳研技手 栗本 珍彥
敍高等官六等
3. 10 任陸軍技師 技 手 中込 亘
敍高等官六等
,, 任陸軍技師 技 手 安藤啓三郎
敍高等官七等
3. 10 研究生退學 石光 薫
3. 22 兼任傳染病研究所技師
厚生技師 加藤 源三
,, 敍高等官三等
厚生技師 勝俣 稔
,, 厚生技師 野邊地慶三
,, 依願解囑 新見 正喜
3. 31 研究生退學 下田 亮
,, 依願免本官 技 師 城井 尙義
,, 依願解囑 西澤 行藏
,, 依願解囑 眞忠 勤
3. 3 兼任臺灣總督府中央研究所技師
東大教授兼臺北帝大教授 細谷 省吾
敍高等官三等
4. 6 敍勳四等授瑞寶章
正五位 小 島 三 郎
4. 7 任傳染病研究所技師
東京高等齒科醫學校教授正六位
長谷川秀治
敍高等官四等

「実験医学誌」22巻 841-851, 1938

22巻 841 1938

雜　　報

西澤・城井兩博士退職記念會

去ル4月28日(木曜日)講堂ニ於テ西澤.城井兩先生ノ退職記念會ガ下記ノ式次ニヨツテ擧行サレ.式後食堂デ祝宴ガ催サレタ。在京ノ知友門下生ハ勿論遠ク滿洲九州カラモ出席サレ.會場ニ溢レル盛況デアツタ。

式　次

1. 開式(午後2時)	司會者	横手千代之助
1. 開會ノ辭		三田村　篤志郎
1. 式　辭	委員長	宮川米次
1. 挨　拶	東京帝國大學總長	長與又郎
	友人總代	二木謙三
	門弟總代	田邊文四郎
	門弟總代	笠井久雄
1. 記念品贈呈		石原喜久太郎
1. 答　辭		西澤行藏
		城井尚義

尚祝宴ニ於テハ三田村委員「デーブルマスター」トナリ.先ヅ長與又郎先生ノ發聲デ西澤.城井兩博士ノ萬歳ヲ三唱シ.次イデ今村荒男.葛井勝彌.田宮猛雄.佐藤秀三.太田原豐一.川島清.西澤行藏.城井尚義氏等相次イデ立ツテ「テーブルスピーチ」ニ花ヲ咲カセタ。午後5時過ギ林春雄先生ノ發聲デ傳染病研究所ノ萬歳ヲ三唱シ.三田村委員ノ閉會ノ辭デ盛會裡ニ散會シタ。

又當日多數ノ祝電ガ寄セラレタ。

開　會　ノ　辭

三田村　篤志郎

多數ノ各位ノ熱烈ナル御贊同ヲ得マシテ西澤城井兩博士ノ退職記念會ノ企ハ無事ニ進渉致シ今日カクモ多數ノ而モ近クカラノミナラズ遠方カラノ同學ノ士ノ御參列ノ下ニ茲ニ愈〻記念會ヲ開催スルニ到リマシタコトハ慶賀ノ至リニ堪ヘマセヌ。友ヲ送ルハ名殘惜シク且ツ淋シイモノデアリマス。西澤城井兩博士ノ場合ニモサウデアリマス。然シ兩博士ハ今後モ所内ニ於テ研學ニ從事サレルコトニナツテ居リマス。古人ノ言ニ「之ヲ知ル者ハ之ヲ好ムモノニ如カズ.之ヲ好ム者ハ之ヲ樂シムモノニ如カズ」ト申シマス。西澤.城井兩博士ノ研學ノ態度ハ正ニサウデ.我々ハ博士等ガ今後モ所期ノ如ク學ビテ厭ハズ.人ヲ誨ヘテ倦マズ.終始學ニ忠ナランコトヲ信ジテ疑ヒマセ

ン。コノ意味ニ於テ今日ノ會ハ單ニ兩博士ヲ送ル會デナク兩博士ノ新シキ生活ヘノ門出ヲ祝フ會デアリマス。嘗テ齡六十ヲ過ギテ狂犬病ノ豫防劑ヲ發見シタ「パストウル」ノ例ニ習ツテ兩博士ノ將來ノ多幸ニシテ光輝アランコトヲ切望シテ止ミマセン。

本會ニ關スル事務的ノ報告ハ後日改メテ各位ノ御手許ニ差上ゲルコトニナツテヲリマスカラ以上ヲ以テ開會ノ辭ト致シマス。

式 辭

傳染病研究所長 宮 川 米 次

醫學博士西澤行藏君．獸醫學博士城井尚義君ハ申シ合セニヨラレマシテ去ル3月末日．吾ガ傳染病研究所ヲ御退職ニナラレマシタ．多年ノ御交誼ヲ忝フシマシタ私等ハ玆ニ傳染病研究所ノ名ニ於テ厚ク感謝ノ意ヲ表シタイノデアリマス．又御兩所ハ丁度還曆ニ達セラレタノデアリマシテ併セテ御祝詞ヲ申シ述ベンタメニ玆ニ聊カ退職記念會ヲ催シマシタ所兩主賓ハ勿論．斯ク多數諸君ノ御參會ヲ忝フシマシタコトハ誠ニ感謝感激ニ耐ヘマセヌ．此機會ニオキマシテ聊カ過去ヲ追憶シ多少ノ感想ヲ述ベサセテ頂キ兩博士ニ對スル御禮ノ言葉ニ代ヘタイシ又本所々員諸君ガ本所ノ歷史ニ對シテ認識ヲ新ラタニシテ頂キタイトモ思フモノデアリマス。

兩博士ガ傳染病研究所ニ御奉職ニナリマシタノハ丁度同時デ大正3年11月ノ始メデアリマシテ．吾研究所ガ內務省ヨリ文部省ニ移管ニナツタ當時デ今カラ25年前ニナルノデアリマス．此4半世紀ヲ私ハ夢ノ樣ニ暮シマシタガ顧ミマスト非常ナル變遷ガアルノデアリマス．世上ノ一般ノ事ハ暫ク措キマシテ吾傳研其物ノミニ就キマシテモ驚クベキモノガアリマス．卽チ本所ノ內容竝ニ外觀ハ文字通リニ完全一變致シタト申シテヨイト存ジマス．移管當時本所ノ主腦者トシテ活動セラレマシタ．靑山胤通先生ヲ始メトシテ芳我石雄．八木澤正雄君ハ物故セラレマシタ．橫手千代之助．林春雄．長與又郎．眞鍋嘉一郎先生等ハ御都合ニヨツテ本所ヲ御引退ニナリ．先年停年退職セラレマシタ二木謙三．石原喜久太郎先生ニ加フルニ今回ノ兩博士ヲ以テシマスト殆ンド總テノ主腦ノ方々ガ本所ヲ去ラレテ居ルノデアリマス．移管ノ際ニ立會ヒマシタモノヽ中デ．本所ニ止ツテ居リマスノハ誠ニ高木逸磨教授ト私ノミトナリマシタ私モ彌々老境ニ這入ツタカト思フト寂寥ノ感ニ打タレザルヲ得ナイノデアリマス。物故セラレマシタ三先輩以外ノ方々ハ今日尙非常ニ御壯健デ世上ニ御活躍ニナリ．壯者ヲ凌グ慨ガアリ重職ニ其責ヲ完フシテ居ラルヽ方モアリマスコトハ愉快ニ耐ヘマセヌ．之レト同時ニ今回御退職ノ兩博士モ羨シイ計リニ御壯健デアリ御元氣デアリ．退職後ハ雜務ヲ離レヒタスラ醫學研究ニ精進セラルヽト申シテ居ラルヽコトハ心强イ限リデアリマス．吾々ハ豫メ設ケテアリマス特別研究室ニ請ジテ御研讃ヲ願フ積リデアルノデモアリマス。

玆ニ少シク移管當時ノ事ヲ語ルヲ許シテ頂キタイノデアリマス．大正3年靑山先生ガ本所ヲ主宰セラルヽニ當リマシタ際其傘下ニ馳モ參ジマシタノハ申ス迄モナク東大醫學部ノ人々ガ大半デアツタノデアリマス．學問ノ蘊奧ヲ極メル帝國大學ノ象牙ノ塔

ニ居タ人々ガ主デアリマシタカラ．醫學ノ研究ニハ何等懸念モナク遜色モナク此點ニ於テハ人モ許シ吾モ亦許シテ居タノデアリマシタガ．血清「ワクチン」ノ大量ノ生產．供給ノ如キ事項ハ全ク初對面デアリ．一抹ノ不安ガナイデハナカツタラウト想像セラレマス又世間ノ杞憂臆測モ此點ニアツタ樣ニ思ハレマシタガ．宛カモ此時陸軍醫務局長森林太郎閣下ハ靑山先生ノ莫逆ノ友デアリマシテ．兩者ノ相談ノ結果ハ此方面ニ既ニ相當ノ造詣アリトセラレテ居タ西澤行藏少佐．八木澤正雄大尉ニ血清「ワクチン」製造ノ業務ヲ擔當セシムベク命令ガ下ツタノデアリマシタ．痘苗ノ製造擔當者トシテハ當時陸軍獸醫學ノ總師武藤喜一郎博士ノ推擧ニヨツテ城井尙義少佐ガ其任ニ當ルコトヽナツタノデアリマス．今ヨリ丁度25年前ノ秋．眞ニ紅顏ノ靑年三將校ガ轟々タル世論ノ眞唯中デ此注視ノ的トナツテ居ル作業ヲ進ンデ擔當セラルヽニ至ツタノニハ相當ノ決心ト覺悟ト亦正ニ心臟ノ强サトガ必要デアツタノニ相違アリマセヌ．正ニ那須與市ガ扇ノ的トイフ一段デアツタノデアリマス．加フルニ世ノ風雲ハ益々險惡ニナリ「ヂフテリア」及ビ破傷風ノ血清ハ其免疫價ヲ國家的檢定ニヨツテ「インチキ」物ヲ除外セントスル法案ガ新ラタニ制定セラレ「ヂフテリア」ハ五百單位、破傷風ハ十單位トイフ極メテ免疫價ノ高イ．其當時ニ於テハ世界無比ト迄ハ言ハナイガ餘リ多クノ類例ノナイ程ノ高價ノモノヲ標準價ト定メラレタノデアリマス．西澤．八木澤兩君ノ奮鬪ハ思ヒヤルダニ悲壯ナモノガアリマシタガ果セルカナ製出セラルヽ血清ハ常ニ見事ニ合格シテ製造作業ニ寸毫ノ懸念モナクナリ．識者ヲシテ安堵ノ思ヲ爲サシメタモノデアツタノデアリマス．斯クシテ歲月ヲ經ルニ從ヒ．本所以外ニモ雨後ノ筍ノ如ク血清「ワクチン」製造業者ガ現ハレテ參リマシタガ．本所ノ製品ニ對スル世上ノ信用ハイヤガ上ニモ高マリ世ノ總テノ需要ノ6割以上ヲ供給スルトイフ程ニ迄ナツテ來テ居ルノデアリマス。西澤君ハ軍部ニ於ケル本官ノ業務ガ極メテ多忙デアラレ．傍ラ東京帝國大學教授ニモ任官セラレルト同時ニ幸ニモ優秀ナル後繼者ヲ得マシタノデ．血清製造作業ハ他ニ讓ラレタノデアリマシタガ．「ワクチン」製造業務ハ始終一貫20有5年ノ間之レニ當ラレタノデアリマス諸種新製品ニ加フルニアラユル改良ヲ斷行セラレテ．本所ヨリ發賣セラレマス種類ハ約3倍ノ多キニ達シ60種ニモ垂ントスル次第デ厚キ世ノ信用ヲ博シ多々益々多クノ需要ニ應ジテ居ルノモ決シテ偶然デハナイト信ジマス．往年軍醫中將ニ榮進セラレ．豫備役ニ編入セラレマシタガ．本所ノ研究作業ハ25年1日ノ如クニ御精勵ニナリマシテ今日ニ及ンダノデアリマス．實ニ感謝ニ耐ヘマセヌ。

城井博士ハ本所ノ業務ヲ囑託セラルヽト同時ニ軍職ヲ離レラレ．技師トナリ痘苗製造作業ニ從事セラレタノデアリマス．同君ノ研究モ作業モ擧テ濾過性病原體ノソレニ始終シテ居リ．多クノ優秀ナル業績ノ發表ヲ見テ居リマス．同君ガ本所ニ奉職セラルヽヤ新進氣銳ノ靑年技師トシテ溢ルヽ計リノ元氣ヲ以テ痘苗ノ改良ニ浮身ヲヤツシ苦心慘憺セラレテヨリヨキモノ．ヨリ强キモノヲ世ニ提供シヤウト努力セラレマシタ結果ハ珠ヲ生マネバ置カナカツタノデアリマス．卽チ從來使用セラレテ居タ痘原體ハ偶々牛ニ發見セラレタ痘胞ノ病原體ヲ使用シ之ヲ累代牛ニ接種シテ作ツタモノデ純牛性

痘苗トイハレテ居タモノデアリマスガ同君ガ努力改良シタモノハ之レハ全然相違シテ居ルノデアリマス．即チ人體ニ發病シタ天然痘膿疱ニ痘原ヲ求メタノデアリマス然シ奇態ニモ此材料ヲ用ヒテ直チニ牛體ニ接種シテ殆ンド發痘シナイノガ原則ト申シテヨイノデアリマス．如何ニカシテ之レヲ牛體ニ感染サセ．所謂牛痘化サセヤウト苦心ガ拂ハレタノデアリマシタ．百方努力ノ結果數代猿．又ハ家兎ノ睾丸ヲ通過セシムルコトニヨツテ人性痘原體ハ動物化シ特ニ牛體ニモヨク發痘シテ此目的ヲ達スルコトガ出來タノデアリマス．同君ノ卓拔セル業績ハ誠ニ此處ニアルノデアリマス．之ガ今日本所ヨリ世ニ提供シテ居ル所謂牛化天然痘苗ト言ハル、モノデアリマシテ人ニ接種シテ非常ニ强力デアルノモ其ノ種ガ人性ノモノデアルコトニ想到スルト決シテ偶然デナイト思ハレルノデアリマス．斯クシテ同君ノヨリヨイモノ．ヨリ强イモノトノ要求ハ實際ト完全ニ合致スルコトモ出來タノデアリマス。又他方同君ハ弱力ナル痘苗ヲ如何ニシテ簡易ニ鑑別スルカトイフコトヲ熱心ニ研究シ簡單ニシテ優秀ナル方法ノ探索ニ努メ終ニ牛體ヲ半バ免疫スル．換言スルト多少ノ抵抗力ヲ得サシテオイテ試驗材料ヲ用ヒテ皮膚ニ接種シ發痘力ノ如何ヲ檢シ以テ其ノ善惡．威力ノ大小ヲ決定スル方法ヲ發見シタノデアリマス．事實此方法ハ理論的ニモ正シイシ．實際ノ應用上ニハ極メテ優秀ナルモノガアリマシテ．斯クシテ弱力品ノ世上ヘノ供給ヲ絕對ニ排シテ居リマスカラ本所ノ痘苗ガ常ニ威力ガ衰ヘナイ所以デアリマス．又實際痘苗製造ニ當ツテ痘原體ノ威力ガ稍〻減退シタト思フ時ニハ直チニ新ラタニ人體ヨリノ材料ヲ使用シ此缺點ヲ補フテ居ルノデアリマス．此方法ノ發見ニヨリ同君ガ學位ヲ授與セラレタノモ誠ニ當然デアリ．本所ノ痘苗ノ聲價ガ彌々高ク本邦需要ノ大半ヲ充タシテ居ルコトモ決シテ偶然デハアリマスマイト信ジマス．同君ガ往年勅任技師ヲ以テ待遇セラル、ニ至ツタノモ宜ナルカナト思ハル、位ニ吾等一同ハ等シク感謝ノ念ニ滿チテ居リマス。

此機會ニ於キマシテ兩博士ニツイテ今少シク語ルコトヲ御許シ願ヒタイノデアリマス．然シ御招待申シテ置イテ．其人トナリ等ニツイテ兎ヤ角申シマスコトハ禮ヲ失スルコト、ハ存ジマスガ再ビ此種ノ時ガ到來シナイヤモ知レヌト存ジマスノデ重ネテ御宥恕ヲ願ツテ置ク次第デアリマス。

城井．西澤兩博士ハ色々ナ點ニ於テ似タ所ガアリマスト同時ニ又正反對ノ反面モ亦可ナリアリマス御兩所共ニ相當夫々顯著ナル特徵ヲ持シテ本所內ニ對立シテ居ラレマシタ．ソレニツイテ少シバカリ語ラシテ頂キタイノデアリマス。家庭的ニハ失禮ナガラ御兩所共ニ惠マレテ居ラレマセン．共ニ糟糠ノ夫人ニ先立タレテ．今日ハ獨身デ居ラレマス．又愛兒ヲスラ失ハレタ苦イ經驗ノ所有者デモアラレマス．又此方面デハ禪僧デモアルカノ樣ニ思ハレル場合モナイデハアリマセン．御兩所ノ性格ノ表現ニハ可ナリ相違ガアリマス．城井君ハ一旦自己ノ主張ヲ述ベントスルニ當ツテハ其事ノ大小ヲ問ハズ大聲疾呼シテ相手ヲ凹マセネバ滿足ガ出來ナイトイフ風デアリマス．此ノ解ヲ知ラナイモノハ恐ラク惧レヲ懷クコトモアルデアラウトスラ思ヒマス斯カル場合ニ見ラル、風貌ハ薩摩隼人デデモアルカノ樣デアリマスガ同君ハ實ハ大和ノ古都法隆寺

ノ產デアラレマス．然シ父君就職ノ關係デ九州ニハ可ナリ緣故ガアツタ樣ニモ承ツテ居リマス。之レニ反シテ西澤君ハ姫路白鷺城々下ニ生レテ東大卒業後軍籍ニ身ヲ委ネタノニ拘ラズ．一度モ東京ヲ離レタ事モナク殆ンド常ニ研究室裡ニ始終シテ居ラレタノデアリマス．言ハヾ極メテ溫室育デアラレルノデ．意志ヲ發表セラルヽ時ニモ言葉丁寧ニ諄々ト說キ來リ說キ去リ膝ヲ進メテ相手方ヲ說服シナケレバ止マナイ熱心ト執着サトヲ持ツテ居ラレマス．此樣ニ其主張ニ堅ク却々ニ他ニ耳ヲ傾ケナイ點ニ於テハ共通デアリマス．本所ノ業務ヲ囑託セラレマシタ時ハ共ニ紅顏．容姿端麗ナル青年デ元氣旺盛ノ少佐デアラレマシタガ．其態度其研究振リ等ニハ可ナリ興味アル對象ヲ爲シテ居タモノデアリマシタ．一ハ多血質ノ佛人「タイプ」他ハ粘液質ノ英人「タイプ」トデモ言ヒタイ所デアリマス．今日ハ共ニ白髮ヲ交ヘ物腰態度モ自然ニ寬容デ老境ニ這入ツタナト思ハルヽ節ガ見ヘマスガ偶々本所幹部ノ忘年會等ニ於キマシテ．微薰ヲ帶ンデ參リマスト忽チ昔ノ元氣ハ潑剌トシテ現ハレ若返ヘルノヲ常トシマシテ．一同ニ心强サヲ思ハセルコトガ一再デアリマセヌ．最モ御兩所共ニ決シテ豪酒家トカ愛酒家トカ言フノデハアリマセヌ．爲メニ僅カニ數盞ヲ傾ケルト旣ニ天下泰平ニナラルヽノデアリマシテ此點ハ可ナリ共通シテ居ラルヽノデアリマス．西澤君ハ獨逸ニ留學セラレ．城井君ハ佛國ニ學ビ人モ許シ吾モ亦許シテ居ル醫學衞生ノフランス通デアラレルノデアリマス．ソシテ其學問的專門ハ共ニ細菌免疫學デアリマスガ．西澤君ハ形態學的細菌學トデモ言フ樣ナ方面ガ極メテ得意デ本所ニ於テハ新進ノ猛者連モ此方面ニ於テハ常ニ同君ノ敎ヲ乞フテ居タノデアリマシタ今ヤ同君ノ去ツタ後ハ此方面極メテ寂寞ノ感ガナイデハアリマセヌ．卽チ同君ノ學位論文タル僞性結核症菌ニ關スル研究ヲ始メトシ健康保菌者ニ關スル檢索，「チフス」「パラチフス」ニ關スル業績．近クハ鞭毛染色ニ關スル新法等ノ如キ二十有餘編ノ論文ハ誠ニ專門家等シク感嘆シテ居ル所デアリマス．城井君ハ天然痘．痘苗等ニ關スル方面ガ專門デアルガ故ニ所謂濾過性病原體ニ關スル造詣ハ一頭地ヲ拔イテ居ルノデアリマシテ天然痘．痘苗ニ關スルモノハ申ス迄モナク古クハ馬ノ傳染性貧血ニ關スル研究．近クハ馬ノ腦炎ニ關スル研究ノ如キハ極メテ注目ニ價スルノデアリマシテ．Borna 氏病トノ異同ハ勿論．人畜ノ腦炎ニ關スル病原的研究ニ有力ナル指針ヲ與ヘタル卓越セル研究デアルト申スコトヲ憚リマセヌ。

同博士等ハ多クノ研究業績ノ發表ト共ニ子弟ノ薰育指導ニモ並大抵ナラザル力ヲ注ガレマシタコトモ特筆スベキ功績ト申サネバナリマセヌ．城井君ノ門下ニハ笠井君ノ如キ駿足ガ居ラレマス．西澤君ノ門下ニハ特ニ多クノ逸材ガ輩出シテ居リマス．卽チ田邊．梶塚．松浦．平野．北野．島津．田中．家原．早川氏等々ノ如キハ現在陸軍細菌學界ノ中堅デアリ．誠ニ軍陣細菌學界ハ西澤門下ニヨツテ形作ラレテ居ルト申シテモ過言デハアリマスマイ．誠ニ偉大ナル功績ト申シテヨイト存ジマス。

終リニ臨ミマシテ御兩所ノ嗜味等ヲ一言サシテ頂キマス．吾ガ西澤博士ハ所謂道樂トイフモノガ何レデアラレルヤヲ知リマセヌ．恐ラクハ讀書シ．研究シ．指導シ．研

究室裡ニ沒頭シ．神聖ナル職場ニ劍禪一如ノ雰圍氣ニ浸ツテ居ラルヽノガ最大ノ樂ミデアラルヽノデハアリマスマイカト存ジマス．同君ノ人格ノ閃キハ誠ニ玆ニアリ．多クノ立派ナル子弟ノ輩出シタノモ決シテ偶然デハナイト存ジマス。

城井博士ハ何事ニツイテモ極メテ凝リ性デアラレ一物一事モ忽セニセラレマセヌ．熱スレバ鐵ヲモ溶カサン意氣ト心魂ヲ徹シテ遂行セントスル努力ト同時ニ又手先キガ器用デアラレル．其現ハレノ一．二ヲ申スナラバ古クハ石油「ランプ」ヲ利用シテ孵卵器ヲ考案セラレタリ．眞空ヲ應用シテ痘苗ヲ毛細管ニ封入スル器械ヲ考案シタリシテ居リマス．中年ヨリハ寫眞ニ多大ノ興味ヲ持タレテ今日ニ及ンデ居リマス．寫眞ノ次ギニハ何ニガ參リマスコトデアリマシヤウカ．刮目ニ價スルト思ヒマス．此嗜味此道樂ガ寂寥ナル彼氏ノ家庭ニ於テ．少シモ滅氣ナイ原因デアルト思ヒマス．同君ハ學校教育ハ比較的惠マレテ居ナカツタノデアリマスガ．押シモ押サレモセヌ．大學者トナツタコトハ天禀ノ英才ニ加フルニ全ク此種ノ意氣努力ノ賜デアルト信ジ Pasteur ノ天才ハ努力ニヨツテ生ルト言ハレタ金言ヲ如實ニ見ルノ思ヒガ致シマシテ吾等後進子弟ノ學ブベキ點ト確ク信ジ敢ヘテ玆ニ一言スル次第デアリマス。

兩博士ノ如キ偉大ナル研究者．功勞者又圓熟セル人格ノ所有者ヲ今回申シ合セトハ言ヒナガラ吾傳研ヨリ送リ出シマシタコトハ非常ナル損失ト存ジマスガ．何時迄モ御心配ヲ願ツテ居ルト言フ譯ニモ參リマセヌノデ玆ニ涙ヲ振ツテ御別スル次第デアリマス．然シ御兩所共ニ尙矍鑠トシテ壯者ヲ凌グ元氣デアラレマスノデ．常ニ本所ニ御出ヲ願ツテ御鞭撻御指導ヲ願ヒ本所ノ爲メ．學界ノ爲メ幾久シク御盡粹アランコトヲ希望シテ止マナイノデアリマス。

昭和13年4月28日

挨拶（要旨）

長與又郎

西澤．城井兩君ノ傳染病研究所ニ於ケル功績．我ガ醫學界・獸醫學界ニ遺シタ業績ニ關シテハ先刻宮川所長カラ話ガアツタカラ省クガ．西澤君ハ Akademiker「タイプ」ノ人デアリ．城井君ハ天才的研究家「タイプ」ノ人デアル。

傳研ニ來テ第一ニ頭ニ浮ブコトハヤハリ移管當時ノコトデアル．移管ハ偶然ノ出來事デアツテ．ソレニ政治的ノコト社會的ノコト等ガ結ビツイテ大騷ギトナツタ。青山先生ガ惡者ノ樣ニ思ハレタノモ氣ノ毒デアツタガ．北里先生モ氣ノ毒デアツタ。然シ今日ニシテ考ヘルト．コノ移管モ決シテ無意義デハナカツタ。ソノ爲メニ傳研モ良クナリ．又北里研究所モ設立サレタシ．更ニソレガ因トナツテ慶應ノ醫學部モ出來タ。

移管ニ就テハ．大正3年10月14日ニ勅令ガ出．ソノ19日ニ北里先生ガ辭職サレタ。ソシテ新ニ技師ガ任命サレタノハ11月4日デアツタ。當時ノ5人ノ技師ハ今ハ皆ヤメタ。其頃西澤・城井兩君ガ入所サレタ。移管直後デ製造作業ノコトガ一般社會カラモ危ブマレ．本所トシテモ心配デアツタ。特ニ「ヂフテリア」・「テタヌス」ノ血清・痘苗ノ製造ヲ心配シタ。西澤君ガ「ヂフテリア」ヲヤリ．八木澤君ガ「テタヌス」ヲヤリ．

城井君ガ痘苗ヲヤツタ。尙「コレラ」・赤痢ヲ二木君ガ.「ペスト」ヲ石原君ガヤツタ。世間デハ今ニ困ルダラウト云ツテヰタガ. コノ三君ガ主ニ中心トナツテソレヲ切リ拔ケテクレタ。今デ云ヘバソレ程ムヅカシイコトデハ無イ樣ニ思ハレルガ. 當時デハ大シタコトデアツタ。カクシテ研究所モ顏ヲツブサナイデ無事ニヤツテノケルコトガ出來タ。八木澤君モ良ク働イタ。當時ノ Staff トシテハ殘ツテヰタ兩君ヲ今送ルコトニヨツテ皆豫備ニナツテシマツタ。

特ニ此ノ點ニ就テ感謝ヲ以テ送リタイト思フ。

ドウカ兩君トモ御壯健デアル樣ニ. 又長老トシテ將來モ傳研ノ者ヲ指導シテホシイ。(文責在筆者)

挨拶（要旨）

二木謙三

友人總代トシテ兩君ニ云フコトハ. 色々ノ點デ色々澤山教ヘラレタトイフコトデアル。我々ノ小サナ仕事モ働キモ兩君ノ御陰デ爲サレタシ. 又人格的ニモ兩君ニ教ヘラレタコトガ少クナイ。此ノ點兩君ニ御禮申シ上ゲタイト思フ。

學問上ノコトハ委員長ノ話ガアツタカラ. ソレニ委セ. 友人トシテ話スカラニハ何カ擧ゲ足ヲトルトカ. 又ハ「シツパヌキ」ヲヤリタイガ. ソンナコトガ何モ無イ。聞ケバ西澤君ノ趣味ハ活動寫眞ダト云フ. 先刻西澤君ニ活動ハ面白イカトキイテ. 又教ヘラレタ。ドウシテドウシテ近頃ノ「ニュース」映畫ハ接ギ剝ギシテ造ツタモノト違ツテ. 危險ヲ冒シ. 命ヲ賭シテ戰爭ノ有樣ヲ撮ツタモノデアルト教ヘラレタ。城井君ニ君ハ多趣味ダト云フガ何ウカト聞クト. 何モ無イト云フ。寫眞ハドウカトキクト. 機械ヲイジルコトガ好キナダケダト云フ。ソンナワケデ兩君ニ就テ何モ云フコトガ無イ。

兩君ハイヨイヨ職ヲ離レラレルガ. 今後モ益々研究スルト云フ. 結構ナコトデアル。

兩君トモ壯健デアルガ. 西澤君ニ身體ノコトヲキクト. 別ニ病氣ハ無イガ多少 Verstopfung ガアルト云フカラ. 二木流ニ今日カラ玄米ヲ食フト良イト云ツタ。

(文責在筆者)

挨拶

田邊文四郎

本日當研究所ニ於テ西澤. 城井兩先生ノ御退職記念ノ式ヲ擧行セラレマシテ. 不肖私ガ西澤閣下ノ永年ニ亙ル御薰育ヲ受ケタ數多キ門下生ノ中ヨリ門弟代表トシテ謝恩ノ辭ヲ述ベサセテ頂ク事ハ甚ダ僭越デモアリ一面無上ノ光榮トモ存スル次第デアリマス。

顧レバ西澤閣下ガ明治45年獨逸駐在ヨリ御歸朝遊サレ. 我ガ陸軍々醫學校防疫學教官トシテ孜々トシテ十數年ニ亙ル青年軍醫ノ御薰陶ニ兼ヌルニ. 大正3年以來當傳染病研究所ノ囑託トシテ. 幾多後輩ノ指導薰育ニ御奮勵御努力下サツタ事ニ對シマシテ. 我々門弟一同ノモノハ衷心感謝措ク能ハザル處デアリマス。鳥滸ガマシイ申シ分

カハ知リマセヌガ.今日國ヲ擧ゲテノ非常時局ニ當リマシテモ.軍部ノ防疫ノ要衝ニ當テ居リマス者ハ殆ド閣下ノ御薫陶ヲ仰ガナカツタ者ハナイト云フ實情デアリマシテ.閣下ノ御指導御教育ノ力ガ國家非常時ノ軍防疫ノ實蹟ニ現ハレテ.戰地ニ於テモ內地ニ於テモ戰時ニ起リ易イ色々ノ傳染病ニ罹ラナイデスンデ居ル日東健兒ガ幾ラアルカモ分リマセヌ。閣下陰德ノ功績ハ圖リ知レヌ底力トナツテ陰然タル働キヲシテ居リマス。之ハ閣下ノ御滿足ノ一端デモアル實情ヲ知ル吾々ヨリ見マスレバ.吾々子弟ノ一團ノミナラズ廣ク國民一般ノ感謝スベキ點ダト思フノデアリマス。

折モ折.現下ノ非常時局ニ方リマシテ.閣下ニ對シテカヽル意味ニ於ケル謝意ヲ呈シ得ル機會ヲ御與ヘ下サツタ此傳染病研究所ノ本日ノ御企ニ對シテモ併セテ厚ク御禮申上ゲマス。

閣下此度當所ヲ御退職遊サレマシテモ.矍鑠タル御元氣デアラセラレマスノデ.今後モ陰ニ陽ニ吾々門弟ノモノヲ不相變御鞭撻下サイマシテ.イヤマス奉公ノ誠ト學ニイソシム樣ニ御指導ニ預リタイノデアリマス。

終リニ臨ミ門弟一同ヲ代表シ切ニ閣下ノ御健祥ヲ祈リテ熄ミマセン。

挨拶（要旨）

笠井久雄

城井先生ノ門下生中最モ永ク御仕ヘシ.又最モ年長ノ者トシテ御挨拶スルコトヲ光榮ト思フ。世話人一同ニ門下生トシテ厚ク御禮ヲ申シ述ベルト同時ニ.城井先生ノ矍鑠壯者ヲ凌グ御姿ヲ拜シ.又御令息ヲ伴ツテ來ラレテ.門下生一同嬉シク思フ。

先生ハ色々ノ業務ニ携ハレ.門下生モ澤山アルガ.御仕事ガ主ニ製造作業デアツタ關係上.學問上ノ仕事ヲスルニハ幼稚ナ頭ノ持主ガ多ク集リ.從テ先生モソノ指導ニ骨ガ折レタモノト思フ。ソレニモ拘ラズ豐富ナ御經驗ト堪能ナ御技術トヲ以テ手ヲトツテ敎ヘラレタ。ソレ故準備知識ノ足リナイ門下生モ大シタ落度モ無ク働クコトガ出來タ。中ニハ無理ヲ云ツタ門下生モ有ツタガ.先生ハ寬大デ諄々ト說イテ正シイ方ヘ導カレタ。工手・女工手ガ仕事ヲスル時.特ニ忙シクテ何モ知ラナイ者ガ臨時雇トシテ入ツテ來タ時等.是等ニ對シテ一々手ヲトツテ敎ヘラレタ.ソシテ仕事ガヒマニナルトカヤウニ敎ヘ込ンダモノヽ中成績ノ良イ者ハ他ノ室ヘ採用シテモラウ樣ニマハサレタ。之ハ實ニ骨ノ折レル仕事デアツタト思フガ.先生ハ始終「イロハ」カラ良ク敎ヘラレタ。我々門下生一同ハ此ノ點ヲ深ク先生ニ感謝スル。

御擔任ノ仕事ノ上デ色々ノ業績ヲ擧ゲラレ.痘苗ノ1例デ云ヘバ牛化人痘苗ノ使用ハ先生ガ傳研ニ來ラレテ間モナク始メラレタコトデアツタ。之ハ痘苗ニ一新紀元ヲ劃サレタ立派ナ仕事デアル。ソノ他 Stamm ノ保存.手數ノ省略等先生ノ御考ヘニ成ルモノガ多ク.利益スル所ガ少クナイ。之ヲ手傳ツタ我々ハ先生ノ手トナリ.足トナツテ働イタワケデアルガ至ラナイコトガ多々アツタコトヽ思フ。先生ハ精確ナ狙ヒノ下ニ正シクヤラレタ.ソノ爲メ仕事ハスラスラト運ンダ。樂ニ仕事ガ出來タガ.決シテ偶然デナク.周到ナ計劃ノ下ニ正シイ狙ヒヲツケテヤラレタカラダト思フ。

顧ミマスレバ．足懸ケ25年ノ長イ間．先ヅ大過ナク勤務ノ出來マシタノハ之レ偏ニ代々ノ總長．所長ノ御指導御寛容．同僚竝ニ學友各位ノ直接間接ノ御支援ノ賜ニ外ナラナイノデアリマス。研究業績ニ就キマシテ先刻來宮川所長．長與總長．笠井博士カラ色々ト御披露下サイマシタガ．25年ノ產物トシテハ其量ニ於テ．其質ニ於テ誠ニ御羞シイ次第デアリマシテ汗顏ノ至リデアリマス．然カモコレコソ特ニ同僚各位ノ御援助ニ負フ所多大デアリマス。パスカルダカモ謂ツタ樣ニ虛僞ノ謙讓ハ一種ノ傲慢ナリト謂フ樣ナコトモアリマスガ．私ノハ決シテ左樣ナ虛僞ノ謙讓デモ何デモナク．全ク眞實デアリマシテ．例ヘバ先刻ノ笠井博士ノ痘苗ノ製造法ノ件ニツキマシテモ私ト殆ンド同時ニ就任サレマシタ笠井．河崎兩君等ノ獻身的ノ然カモ少シモ表ニ顯ハレナイ．所謂椽ノ下ノ力持チ的協力ニ由ツテ漸ク出來タノデアリマス。然ルニ本日ハ時節柄ニモ不拘．斯クモ盛大ニ．而シテ遠方ノ方ニモ多數御來集下サレ此記念式ヲ御擧行下サレ．剩ヘ色々ト記念ノ品ヲ戴キマシテ全ク身ニ餘ル光榮デ感謝ノ辭ヲ知ラザル次第デアリマス。殊ニ此大禮服ヲ着ケタ肖像畫ハ色々ナ意味ニ於テ私ニハ絕好ノ記念品デアリマス。永ク子々孫々ニツタエルベク背面ニ書キノコシテ置ク積リデアリマス。幸ニ身體丈ケハ年ノ割合ニマダ相當丈夫ナ積リデアリマスノデ學術ノ研究ハ尙今後モ繼續致シマシテ例ヘ兎ノ毛ノ先程デモ學問ノ進步ニ貢獻致シタイト思ツテ居リマスノデ今後ノ業績デ從來ノ不足ヲ補ヒ以テ皆樣ノ今日ノ御厚情ニ酬イタイト思ヒマスカラ何卒舊ニ倍シテ御援助ト御懇情ヲ賜ハランコトヲ御願致シマス。終リニ臨ミマシテ重ネテ本日ノ盛大御丁重ナル記念式御擧行ニ對シ滿腔ノ御禮ヲ申シ上ゲマス。

西澤先生ノ「テーブルスピーチ」

本日ハ私ノ終生ニトリテ實ニ忘ルヽコト能ハザル喜ノ感激ヲ覺エタ日デアリマス。年老イテハ憂鬱ナルコト多キモ今日トイフ今日ハ誠ニ愉悅ヲ感ジマシタ．之レガ老ノ日ノ感激トデモ申スベキカト思ヒマス。

玆ニ傳染病研究所ヲ退クニ當リ．私ノ尊敬セシ恩師靑山先生ヲ追懷シ一言述ベサセテ戴キタイノデアリマス。

大正5年ノ頃林博士ハ靑山先生ニ代リテ所長トナラレ．研究所ハ漸次整備スルニ至リマシタ然ルニ翌6年靑山先生ガ大病ニ罹ラレタト聞イタ時一同ハ愕然トシテ憂愁ニ鎖サレマシタ。私ハ輕井澤ノ轉地先ニ御見舞狀ヲ差上ゲマシタ處．御病床中態々御返事ヲ下サイマシタ。誠ニ恐縮ニ存ジタノデアリマス。コレガ先生ヨリノ約20年前ノ御手紙デアリマス(書狀ヲ示ス)．此內ニハ研究所ノ研究業績ガアガリツヽアルコト．血淸類ノ製造モ段々好調ニ向ツテ居ルコトヲ喜バレテ居リマス。丁度二木博士．石原博士等ノ鼠咬症病原ノ發見．長與．宮川．三田村．田宮博士等ノ恙蟲病赤蟲ノ研究等知名ノ作業ガ續々出來上ツタ頃デアリマス。然ルニ先生ノ病ハ其後愈々增進スルバカリデアリマシタ。私ハ1日八木澤君ト共ニ本鄕弓町ノ御宅ニ參リ御見舞致シマシタ處．先生ハ私等ヲ病床近ク呼ビ寄セ．御自分ハ床ノ上ニテ向キ直ラレテ研究所ノ仕事ニツキ激勵且ツ懇々ト依囑サレマシタ。私等ハ誠ニ悲シキ思ヒデアリマシタ。實ニ今

ニ忘レヌ感激ニ打タレタノデアリマス．サウシテ私等ハ一層ノ緊張ト努力ヲセネバナラヌコトヲ覺悟シタノデアリマス。私ハアノ時ノ光景ヲ筆紙ニ盡スコトガ出來マセヌ．唯々御想像ニ任セマス。自分ニハ之レガ先生トノ最後ノ對面デアリマシタ。私ハ本日ノ光榮ニ浴シタル機會ニ於テ先生ヲ想ヒ20年ノ昔ニハ私ノ身ニコンナコトガアッタ．カヽル感激ノ日ガアツタトイフコトヲ其當時ヲ御存知ナキ方々ニ申上ゲタ次第デアリマス。

城井先生ノ「テーブルスピーチ」(要旨)

今回退職シマシタガ．ヤメタ樣ナ氣ガシマセン。トイフノハ近頃モ時々來テヰマス．尤モ唯食堂ヘハアマリ出マセンガ．私ノ室モマダソノ儘ニナツテヰルト云フ樣ナ爲メデセウ。

併シ今日．ホントニヤメタ樣ナ氣ガシマス。重ネテ此處デマタ皆樣ノ御厚情ニ感謝シマス。(文責在筆者)

學術集談會

去ル4月25日(月)午後1時カラ講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレタ。演題ハ次ノ樣デアツタ。

1. 東京府下ニ於ケル腸「チフス」流行ノ統計學的研究　山岸　精實君
2. 腸「チフス」菌ノO血清難凝集性並ニ Vi 抗元ニ關スル實驗的研究(其ノ二)　木口　三郎
3. 免疫血清加熱ニヨツテ生ズル凝集阻止物質ニ就テ　小栗　一好君・吉水元三郎君
4. 過敏症ニ關スル實驗的研究
   (1)d-Arginin ノ過敏性並ニ Histamin 性腸管反應ニ及ボス影響
   (2)過敏性並ニ Histamin 性腸管收縮ニ對スル Atropin ノ影響ト後來ノ Physostigmin ニ對スル反應トノ關係ニ就テ
   (其他)　中村　敬三君・大須賀謙一君
5. 痘苗ノ保存ニ資スベキ物質ニ就テ　矢追　秀武君・荒川　清二君

學友會ヘ寄附金

金8圓13錢	田宮　貞亮君 田中　芳雄君
金7圓32錢	緒方　富雄君
金19圓10錢	北川　安信君
金162圓01錢	北條　圓了君
金161圓68錢	明田川　弘君
金19圓80錢	柳澤　謙君・須賀井忠男君
金6圓02錢	柳澤　謙君・續木　正大君
金20圓32錢	柳澤　謙君・大林　容二君・高野　正男君

人事異動報告 昭13.5.4現在

發令月日	辭令	官職	氏名
4.19	依願解囑		木村　政長
〃 20	依願解囑		相良　貞直
〃	同上		中川錦一郎
〃 23	中華國ヘ出張ヲ命ズ	教授	高木　逸麿
〃	同上	助教授	石井信太郎
〃 30	研究生退學		濱野　基齊

22巻 1075-1097 1938

「実験医学雑誌」 22巻 (6号) 1075-1097, 1938

雜　　報

傳染病研究所創立四十周年記念日式辭

宮　川　米　次

本日茲ニ吾ガ傳染病研究所創立四十周年ノ記念日ノ祝典ヲ擧グルニ當リマシテ，所懷ヲ述ベマスルコトハ私ノ欣快ニ堪ヘナイ所デアリマス。私ハ諸君ト共ニ畏クモ，天皇陛下ノ萬歲ヲ壽ギ奉ルト共ニ，皇軍ノ武運長久ヲ祈リ，邦家ノ益々發展シ行カンコトヲ欲シ，此非常時ヲ萬全ヲ以テ乘リ切ランコトヲ希フモノデアリマス，之ト共ニ，本所ハ彌々發展シ名實共ニ，世界ニ於ケル大傳研タル謂ヒニ添ヒタイト祈ツテ止マナイモノデアリマス。

昨年始メテ本所ニ記念日ヲ創設シマシテ，本日ヲ以テ祝典ヲ擧グルコト、致シマシタ，本年ハ創立四十周年，移管後二十五年目ニナリマスシ，本所ノ內容，外觀ハ文字通リ完全ニ一變致シマシタシ，吾ガ構內ニ設立セラレマシタ公衆衞生院モ，去ル3月末日ニ官創發布ニナリ，近ク堂々ト其業務ヲ開始セラル、運ビトナリ，多年ノ苦心ガ，茲ニ實ヲ結ビマシテ，本所トノ姉妹關係ガ如實ニ現ハル、時ニ際會致シテ居リマス，本所ハ，其官制ノ命ズル如ク，益々研究ニ邁進シ，醫學界ノ謎ヲ開クベク努力致シマスシ，公衆衞生院ハ是等ノ研究結果ヲ實地ニ應用スベキ衞生技術官ノ養成ニ專念スルコト、ナリマシヨウ，斯クシテコソ，吾ガ醫學衞生保健ノ增進ニ寄與シ得ラル、事，一層大ナルモノガアルト期待スル次第デアリマス，斯ノ如キ時期デアリマスカラ，本年ハ，盛大ナル式典ヲ擧ゲル豫定デアリマシタガ，圖ラズモ日支事變ノ勃發ニヨリマシテ，其種ノ御祭リハ，遠慮スベキガ當然ト心得マシテ，ヤハリ，心バカリノ，然カモ精神的ノ式典ヲ行フコトニ止メタ次第デアリマス。

1ケ年間ノ回顧

去年ノ記念日ヨリノ1ケ年間ヲ回顧シテ見マスト，如何ニモ世相ノ變化ノ大キイノニ，驚カザルヲ得ナイノデアリマス，少クトモ吾等日本人ニトツテハ，稀ニ見ル1年間デアツタト存ジマスト同時ニ吾傳研人ニモ，記錄スベキ時デアツタト申シテヨイト存ジマス，私ハ茲ニ世界一般ノ事ヲ述ベル暇ガアリマセヌ，又吾日本ニ於ケルソレモ，吾等ト關係ノ最モ大ナルモノ、ミヲ聊カ列擧シテ見ルニ止メマス。

人事移動

本所移管以來，本所ノ主腦者トシテ，御活動下サイマシタ，西澤，城井兩博士ハ停年制ノ申シ合セニヨリマシテ，去ル3月末日ヲ以テ本所ヲ御退職ニナリマシタ，其記念會ヲ4月末日ニ，嚴肅ニ擧行致シマシテ，兩博士ニ感謝ノ辭ヲ呈シマシタ。西澤君ノ後任トシテ，長谷川秀治博士ガ4月ヨリ本所ニ御就任ニナリ，新進氣銳ノ元氣ヲ以

テ．大ニ努力奮鬪ヲ開始シテ居ラレマスコトハ心强イ限リデアリマス．其他ニモ數々ノ變動ハアリマシタガ．主腦者ニ於ケルモノハ以上ノミデアリマス．近ク城井君ノ後任者ガ決定致シマシヨウカラ．玆ニ陣容ヲ整ヘ力ヲ新ラタニスルコトガ出來．本所ノ使命達成ニ邁進シタイト庶幾フモノデアリマス。

日支事變ト吾ガ傳研

昨年7月7日蘆溝橋事件ニ端ヲ發シマシタ．日支事變ハ．當初ノ豫想ノ如ク．玆ニ長期抗戰ノ時期ニ這入ウトシテ居リマス．此長期戰ハ．吾ガ日本人ノ性格ニハ不得手ノ所ガナイデハナイノデアリマス。速戰．卽決ヲ要望シテ居ル大臣ノアルノモ．最モノ樣ニ思ヒマスガ．一方的ニ定メル譯ニモ參リマセヌ．首相ノ言ハル、通リ．此際ハ唯ダ前進アルノミデアリマス．現地ヨリ一歩モ退クコトハ絕對ニナイノデアリマス。平素．私ガ持論ノ樣ニ申シマシタ局面ガ展開シテ參リマシタ卽チ戰局ハ彌々發展シテ楊子江以北ハ完全ニ日本勢力下ニ入リ．南支ノ利權ノ總テハ．英米佛ノ手ニ入リマシタ．地圖ノ色コソ變リマスマイガ．內實ハ彼等ノ完全ナル支配下ニ入ルコトハ火ヲ睹ルヨリ明ラカデアリマシテ．支那ニ對スル英米佛ノ援助ハ南支ニ於ケル利權ノアル間ハ續キマシヨウ．戰爭モ亦ソレ迄繼クノデアリマス。蔣介石ハ結局．西藏ヘデモ遁走スルカ．地下ヘ進軍スルカノ2ツヨリ外アリマスマイ．蔣政權ガ1日長引ケバ．1日損害ガ多クナルノデアリマス。氣ノ毒ナノハ支那4億ノ民衆ト申サネバナリマセヌ．世上デヨク申シマス樣ニ馬鹿ヨリ氣違ヒノ方ガ餘程始末ガ惡イト．之ヲ如實ニ見ル樣ナ氣ガ致シマス。

事變以來．吾ガ傳研ノ同胞中．親シク應召致シマシタ人ガ．今日迄所員計リデハ23名デアリマシテ．內2．3ノ人々ハ芽出度凱旋シタ方スラアリマスガ．其大半ハ尙戰塵ノ巷ニ御活動ヲ願ツテ居ルノデアリマス．私ハ此機會ニ是等將士ニ衷心ヨリ感謝スルト共ニ．武運長久ヲ祈ツテ止マナイモノデアリマス。幸ニシテ20有餘名ノ諸君ハ何レモ御壯健デ．御活躍ニナツテ居ラル、コトハ欣快ノ至リデアリマスガ．唯ダ玆ニ一ツ悲シイ事ニハ元傳研所員デアリマシタ．渡會陸二博士ハ南京ニ於テ肺炎ニ侵カサレ．去ル2月23日終ニ陣歿セラレタコトデアリマス．同君ハ北支．津浦線戰線デ非常ニ活躍セラレ．後ニ中支ニ赴カレタノデアリマス。同君ハ資性極メテ鋭敏活達．縱橫ノ才ニ富ミ．然カモ熱血兒デアリマシタノデ．上長官等ニ非常ニ惜マレマシタノデアリマシテ．鍬柄部隊長大佐．井土猛軍醫中佐等ヨリ鄭重ナル悔狀ヲ親シク頂戴シテ居ル次第デアリマシタ．臨終ニ際シテモ．皇軍ノ萬歲ヲ唱ヘ．立派ニ遺言シ．感謝シツ、瞑目シタトイフコトデアリマス。私ハ玆ニ聊カ其狀況ヲ諸君ニ御傳ヘシ．同君ノ英靈ヲ慰メタイノデアリマス．同君ノ人德ハ豐橋病院副院長トシテ在任8ケ年．殆ンド病院ヲ負ツテ立ツテ居タカノ觀ガアリマシタ．本春2月ニ於テ同君ノ訃音ハ．君ヲ知ルト知ラザルトニ論ナク一樣ニ暗涙ヲ禁ゼシメナカツタトイフノモ全ク故アルカナト信ジマス。

血淸「ワクチン」製造ニ忙殺セラル。

今回ノ事變ニ際シ．皇軍ノ將士トシテ本所員ガ出征致シマシタ外ニ．本所ハ血淸

「ワクチン」製造作業ガ．非常ニ多忙ニナツテ來タノデアリマス．御承知ノ通リ．現在此廣イ傳研內ニ寸地ヲ餘サナイ狀態デアルノデアリマシテ．諸君ト共ニ極メテ多忙ノ日々ヲ送ツテ居ルノデアリマス。從ツテ所要經費モ非常ニ嵩ミマシテ．昨年度ハ2回モ追加豫算ヲ頂戴シタ樣ナ次第デアリマス．如何ニ忙シクテモ．吾々ノ作業ガ直接ニ御國ノ役ニ立ツト共ニ．出征シテ居リマス吾等ノ同胞ニ對シ．銃後ノ御奉公ヲ爲シテ居ルト思フト愉快ニ耐ヘマセヌ。

北支．中支ノ防疫事業

昨年私ハ外務省．陸軍省ノ囑託ヲ受ケマシテ佐藤．小島兩教授等ト共ニ北支滿洲ニ出張致シマシテ．北支防疫事業ヲ如何ニスベキヤニ就イテ親シク調査シテ意見ヲ答申致シマシタ．ソノ內ニ南京モ吾軍ノ手ニ入リマシテ．茲ニ上海．南京ヲ中心トスル地域ニ對シマシテモ．防疫ハ非常ニ重大ナル要求トナツテ現ハレテ參リマシタノデ．外務省ハ．同仁會ニ其事業ヲ實行サセルコトニナリマシタ．私ハ同會ノ副會長タルノ故ヲ以テ．其掌ニ當ラナケレバナラナイ次第デアリマス。同會ハ北支中支ニ既ニ八班ノ治療班ヲ送ツテ．支那民衆ノ治療的宣撫ニ當リ．相當ニ效果ヲ納メテ居リマス．其上ニ茲ニ防疫事業延ヒテハ醫事衞生開發ニ當ルコトヽナツタノデ．從來ノ同會機構デハ到底其目的ヲ達スルコトガ出來マセンノデ．廣ク天下ノ醫家ニ協力ヲ求メマシタ．又本所カラハ．高木．石井兩博士ガ．北支防疫事業ノ主腦者トナル爲メニ4月20日東京ヲ出發セラレマシタ．高木教授ハ一旦御歸京ニナリ．萬端ノ用意ヲ整ヘ一隊ヲ率ヰテ．渡支セラレ．先發ノ石井君等ト合體セラルヽ事ニナツテ居リマス。中支ノ方ハ阪大ノ谷口腆二教授．北大ノ井上善十郎教授ガ4月26日ニ大阪ヲ出立．奧地ニ赴カレ．北支ニ於ケルト同樣ノ段取リニヨツテ．防疫事業ノ衝ニ當ルコトニナツテ居ルノデアリマス．由來防疫ハ治療ノソレト相違シテ實行ガ相當ニ困難デアリ．又其結果ガ目立ナイ．極メテ地味ナ性質ノモノデハアリマスガ．現地ニ於ケル．日支ノ官民ハ丁度干天ニ慈雨ヲ迎ヘタカノ如キ．非常ナル歡迎デアルト同時ニ．大ニ安堵ノ思ヲ爲シツヽアルトノ報道ヲ得マシテ陰カニ喜ンデ居ル次第デアリマス。高木．谷口兩君ハ．何レモ此種ノ事業ニハ既ニ試驗濟ミノ經驗家デアラレマス．卽チ高木君ノ朝鮮ニ於ケル數年間．谷口君ノ內務省衞生局ニ於ケル數年間ガソレヲ物語ツテ居リ．共ニ細菌學ノ大家デアリ．傍ラ臨牀家トシテ．押シモ押サレモセヌ腕ノ所有者デモアリマス．日本ニ醫家ハ多シト雖モ此ノ右ニ出ヅル人ハ恐ラクアリマスマイト存ジ適材ノ適所ナルヲ思フト．會心ノ笑ノ禁ジ難イモノガアルノデアリマス。將來ハ北支中支共ニ防疫研究所ガ設立セラレ．延ヒテハ醫育ノ方面ニ於イテモ．日本政府ノ關スル限リ．此機構ヲ通ジテ行ハルヽ事ト．外務省ハ腹ヲ決メテ居ラルヽノモ．醫事．衞生事業ノ一元化ヲ考ヘル時ニ．當然シカアルベシト思フ次第デアリマス。日本內地ノ數倍ノ地域ニ於テ．文化四千年ノ支那本土ヲ吾等ノ手ニヨツテ衞生開發ヲ一手ニ爲ストイフコトハ．其事タルヤ極メテ大ナルモノガアリマスト同時ニ．本邦內地醫家諸賢ガ打ツテ一丸トナツテ．其事ニ當ル必要ガアリマス．況ンヤ．本所ノ人々モ．此事業ニツイテ．充分ノ御了解ヲ持ツテ頂キタイシ．又人的ニモ御協力ヲ願ヒタイト思フモノデアリマス。

厚生省ノ新設

日本內地ノ衞生保健ノ向上．體力ノ增進ノ爲メノ機關ニハ．從來殆ンド統制ヲ得ナカツタガ．此ノ衞生行政ノ主務官廳トシテ．本年1月厚生省ガ新設セラレマシタ事ハ慶賀ニ耐ヘマセヌガ．其構成竝ニ人的配置ヲ見マスト．遺憾ノ點ガナイデハアリマセヌ．ヤハリ行政官ノハケ口ヲ增シタニ止ツタ樣ナ觀ガナイデハアリマセヌト同時ニ．厚生省ニ於ケル醫家出身者ノ態度ニモ面白カラヌ風評ヲ耳ニスルコトハ遺憾千萬デアリマス．折角新設セラレタ厚生省ガ眞ノ力ヲ發揮スルノニハ借スニ數年ヲ以テシナケレバナリマスマイガ．今日ノ狀態デアルト．近衞首相ガ國內政策ノ第一トシテ實施セラレタ期待ニ完全ニ添ヒ得ルヤ否ヤ．聊カ懸念ガナイトハ言ハレナイ氣ガスルト心配シテ居ル老人ノアルノモ無理カラヌ事ダト思ハレナイ節ガナイデハアリマセヌ．私等モ衞生行政ニ關スル限リ厚生大臣ノ指揮監督ヲ受ケテ居ルモノデアリマス以上ハ．玆ニ一層緊褌其職ニ當ラナケレバナラナイト存ジマス。

世界ニ於ケル醫學研究ノ展望

私ハ昨年ノ記念日ニ於キマシテ．世界ニ於ケル醫學界ノ展望竝ニ醫學研究所ノ概況ヲ述ベマシタ．本年ハ其後．私ノ目ニ止マツタ．コレハト思フ業績ヲ聊カ玆ニ御紹介シ．又吾等ガ研究ノ一助ト致シタイト存ズルノデアリマス。申ス迄モナク私ガ暇ノアル折々ニ讀ミ．書キ止メテオイタモノデアリマシテ．此內ニハ私ノ專門以外ノ事項モ相當ニ多イノデ私ノ判斷ガ妥當ヲ缺クコトガナイトモ限リマセヌコトヲ豫メ御斷リシテオキマス。

强力抗元 Virulence Antigen, Vi Antigen,

本抗元ハ Felix & Pitt (J. Path. & Bact. 1934, Lancet 1934) ガ認メ．命名シタモノデ．Kauffmann & Dyachenko (1936), Hargam (1936), Robertson & Yu (1936), 伊川 (1937) 等ニヨツテ承認セラレ．「チフス」菌．「パラチフス」C菌．「サルモネラ」菌簇等ニ認メラレ．之ヲ有シテ居ル「ワクチン」デナケレバ豫防效力ハナイト迄言ハレテ居リ．細菌免疫學界ニ於ケル正ニ一寵兒ト言フテモヨイモノデアル。本年ノ聯合微生物學會ニ於テモ．此强力抗元ニ關スル研究業績ノ發表ハ五題程見受ケラレル．此種ノ抗元ニ就イテ．古ク邦人ノ研究ガアリマス．ソレハ昭和3年安住氏 (細菌學雜誌 384, 390) ノX抗元．昭和6年杉野氏 (熊本醫學7) ノY抗元ハ恐ラク異名．同物デアルヤニ思ハルヽトイフコトデアリマス．不幸ニシテ世ノ注意ヲ喚起スルニ至ラズ．又同氏等ノ研究ニ徹底ヲ缺ク嫌ガアツタカモ知レナイガ．然シ此種ノ事實ヲ認メラレタコトハ特筆シ置クベキ事柄ト信ズル。

强力抗元ニツイテ一言シテ置キタイ．菌體ニハ諸種ノ抗元ガアル O. H. Vi. 等々ノ如キガ今日最モ注目セラレテ居ルモノデアツテ．菌株ニヨツテ夫々特有デアル．ソシテ變異ノ研究ガ進ンダ爲メニ．是等ヲ生ズル菌株ハ互ニ變異スルコトガ出來ルト言ハレテ居ル．Kauffmann (Z. f. Hyg. 1935) ハ Vi 抗元ヲ有スルモノヲV型．之ヲ有シナイモノヲW型ト稱シテ居ル。Vi 抗元ヲ有シ．尙O免疫血淸ニ易凝性ノモノヲV-W 型トイフテ居ル V→W ニ容易ニ變異スルガ逆ハ不可能デアル．「チフス」菌ノ

變異ハ H→O. S→R ガ常ニ行ハレルコトハ古クヨリ知ラレタコトデ. 玆ニ又 V→W 變異ノアルコトガ認ラルヽニ至ツタ。此樣ニ抗元ノ性狀ガ復雜デ多岐ニナツテ來タト同時ニ. 抗體トノ關係モ大ニ注意セラルニ至ツタ. 卽チ「チフス」菌ニ於テハ免疫上重要ナルモノハ. O抗元及ビ其抗體デアリ. 之レガ免疫ヲ附與スルモノデアツテ. H抗元及ビ抗體ハ. 感染防禦ニハ何等關係ハナイト言ハレテ居ル。

然ルニ玆ニ重要ナル發見ガ Felix & Pitt (1934) ニヨツテ爲サレタ. 人體ヨリ分離シタ多クノS型菌ニツイテO血淸(百度加熱菌デ作ツタモノ)ニヨリ凝集反應ヲ檢査シテ見ルト.凝集度ガ菌株ニヨツテ相違ガアル.又易凝性ノモノハ「マウス」ニ毒力ガ非常ニ弱イ. 難凝性ノモノ. 又ハ全然抵抗スルモノハ毒力ガ著ルシク强イトイフコトヲ認メ. 然カモ此後者ヲ 60 度 30 分間加熱スルト. 初メテ易凝性ニ變ハリ. 又「マウス」ニ對スル毒力モ減退スルコトヲ知リ. 此菌株ニハ特種ノ抗元ガアルニ相違ナイトノ見解ノモトニ. 免疫血淸ヲ作ツテ見ルト. O. H凝集素ノ外ニ此强毒菌ヲ凝集セシメル抗體ノ產生アルコトヲ認メタノデアル. 氏等ハ之レニ Virulence Antigen & Antiserum 强力抗元. 抗體ト名付ケタ. 一般ニ Vi 抗元. 抗體ト言ハルヽモノガ之レデアル. 此抗元ハ上記ノ如ク 60 度 30 分間加熱スルコトニヨツテ破壞セラレル. 又此抗元ガ眞ニ感染防禦ノ免疫元デアルトスルト. 世ニ一般ニ販賣セラレテ居ル. 加熱「ワクチン」ノ感染防禦ニ對スル免疫元性デ疑義ヲ生ジテ來ル譯デアリ. 「ワクチン」改良ノ必要ハ此點ニモ存スルノデアル。此外本抗元性ハ藥劑ノ作用. 石炭酸加寒天培地. 又ハ普通寒天培地デ, 繼代培養化スル事等ニヨツテモ消失スルコトハ. O血淸ニ易凝性ニナリ「マウス」ニ對スル毒力ノ減弱スルコトニヨツテモ知ラルヽノデアル。

本抗元又ハ抗體ノ存在ヲ血淸學的ニ知ルニハO血淸ニ非凝集性ノ「マウス」ニ對スル强毒菌ヲ. 生菌ノマヽ. 又ハ「ホルマリン」デ殺シテ. 家兎ヲ免疫シ. 其血淸カラ. S型生菌デO及ビH抗體ヲ吸收シ去ルト純粹ノ Vi 抗體ノミガ得ラレ. Vi 生菌ニヨク凝集反應ヲ現ハサセルコトガ出來ル。

此抗元ノ意義ハ可檢材料ヨリ菌ヲ分離スル時ニO血淸ノミヲ用フルト. 見落サレルカラ. 診斷用血淸ニハ. 必ズ Vi 抗元ヲ有スル菌ニヨツテ作ツタモノデナクテハナラナイコトガ其一デアル。

患者血淸ニ於ケル Widal 反應檢査ニ於テモ. 此菌ヲ用フル必要アルコトハ申ス迄モナイコトガ其二デアル。

感染防禦ノ爲メニ. 免疫操作スル際ニ. 此種ノ强毒菌ヲ用フル必要アルコトハ上述シタ所デアツテ. 60 度 30 分間加熱シタ「チフス」菌「ワクチン」ハ此抗元ガ破壞セラレテ居ルカラ. 改良ヲ要スルコトガ其三デアル。

上述ノ樣ニ「チフス」菌. C型「パラチフス」菌. 「サルモネラ」菌族ニ認メラレタ特種ノ抗元ノ存在ハ. 免疫學上. 抗元ノ多岐性ヲ示スト共ニ. 他種ノ菌ニモ此種ノ事實ガ認メラルヽヤ否ヤ. 又豫防接種ノ效果ガ果シテ. 「マウス」ニ於ケル事實ト同一ノ現象ナリヤ否ヤ. 「マウス」ニ强毒ナルモノガ. 果シテ常ニ人體ニモ强毒ナリヤ否ヤ. 凝集素ノ性狀ガ. 然カク感染. 防禦力ト併行スルモノナリヤ否ヤノ點等ハ大ニ研究スベキ

事柄ト信ズル。近時「チフス」菌ヨリ毒素ガ分離セラレ(細谷省吾．黒屋政彦氏等)．之ガ人體免疫上ニ應用セラレントスル機運ニ向ヒツヽアル際．Vi抗元ト夫等分離毒素トノ關係ノ如キ講究スベキ點ト信ズル。

無症(狀)感染

多クノ病原體ニヨツテ．人體竝ニ動物體ガ侵カサルヽ場合ニ．常ニ一樣ニ同樣ナ疾患ヲ發來スルモノデナイコトハ．古クヨリ知ラレタ事デアル．有症狀感染ノ中ニモ．極メテ輕度ナルモノヨリ．生命ヲ奪フ迄ノ差異ノアルコトモ亦周知ノ事デアル。多クノ細菌性疾患．卽チ「チフス」．「パラチフス」．赤痢．「コレラ」．「ヂフテリア」等ニ於テ．此現象ガ認メラレ．然カモ無症感染ハ健康保菌者等ト呼バレ．自個ハ終生ソレニヨツテ發症スルコトナク終ハルモノモアルシ．又身體的環境ノ變化ニヨツテ發症スルコトモアルコトガ報告セラレテ居ル。又此菌株ガ他人ニ傳播シタ場合ニ．必ズシモ他ヲ保菌者タラシメズニ．多クハ有症感染ヲスラ起スモノデアル．肺炎菌ノ如キ常時人體ノ咽頭部ニ保持セラレ居ルモノガ相當ニ多イ。然ルニ之ニヨツテ．諸種ノ免疫體．感染防禦體ノ構成ヲ見ルコトナク．寒冒．風邪等ニ際會シテ．終ニ深ク侵入シテ．肺炎ヲ惹起スルコトモ略ヽ承認セラレタ事實デアル。「ヂフテリア」菌等ニ於テモ之ト類似ノ事實ガアルラシイ．「パラチフス」保菌者ガ．數年後發病シタ例ノ報告ガアル．是等健康保菌者ト有症感染者トノ間ニ於ケル所謂免疫體ノ發生ノ相違ハドンナ具合デアルデアラウカ．知リタイ事柄ノ一ツデアル．又如何ナル身體的狀態ノモノガ．無症感染ヲ起スモノナリヤノ點モ是非知ラナクテハナラナイ事柄デアル。

若シ一群ノ人ガ．一樣ニ同一株ノ菌ニ侵カサレタル場合ニ何程ノ割合ニ發病シ．何程ノ割合ニ保菌者トナルカハ．疫學的ニハ是非決定シタイ事柄デアルガ．却々解決困難ナル要求デアル。ソレハ各個人ノ體質ノ相違ノミデナクテ．侵襲スル病原體ノ方ニモ菌量．威力等ニ關係シ．又第三ノ要素トシテハ氣候．風土等ノ環境．其他今日尙不明ノ因子モ關係スルカラデアルガ．然シ余等ハ最近．本邦ニ於ケル．2回ノ赤痢爆發ニ於テ．多少此點ヲ觀察シ得ベキ機會ヲ得タ．其1ハ昭和10年2月．川崎市ニ於ケル赤痢爆發デアツテ．水道水ノ汚染セラレタ爲メデアルコトハ疑ハナイ。人口15萬人中．約1700人(1.1%)ノ發病者卽チ有症感染者ヲ見．爆發直後ニ於ケル健康保菌者ハ約6%デアツタ。爆發後2週日目ヨリ數週ニ亙リ．數萬人ノ檢索ヲ本所ニ於テ精細ニ遂行シタノニヨルニ．約2.2%ノ保菌者．卽チ無症感染者ヲ見テ居ル．此事件ハ赤痢ノ流行トシテハ最モ不適當ナ極寒ノ季節ニ於ケル觀察デアルガ．尙少クトモ感染率ハ約7.1%トイフコトニナツテ居ル．其他大半ノモノハ無症感染スラ受ケナイトイフコトハ．非常ニ興味アル事實トイフテヨイ。

昨年9月(昭和12年)大牟田市ニ赤痢ガ爆發シ．コレ亦水道水ノ汚染ノ爲メデアツタ．ソシテ今回ハ夏期ノ赤痢流行季節ノ末期デアツタガ爲メカ．又ハ其他ノ因子モ相違スル爲メカ．罹患率ハ遙カニ高クナツテ居ル．卽チ同市ハ．人口略ヽ10萬デアツテ．9月25日ニ多數ノ病者ヲ見．30日ノ調査ニヨルト6.519名(6.5%)ノ病者ヲ見．10月8日(約2週日目)ニハ8.452名(8.5%)ニ達シタ．此內ニハ二次感染モアラウガ．

赤痢ノ潛伏期ノ最長2週日ヲ考慮スルト．第一次感染者モアルト見テヨカラウ。川崎市ノ例ヲ玆ニ延用シテ6％ノ健康保菌者ガアツタトスルト．約14％ガ．感染シタコトニナルノデアル。又同一條件ノ許ニ某小學校生徒192名ガ．一樣ニ此汚染水道水ヲ飲ミ21名(10.9％)ノ有症感染者ヲ見タ報告モ此時ノ一事實デアツタ．赤痢ニ罹病率ノ高イ小學生徒デアツタカラ．一般住民ノソレヨリモ．有症感染ノ高カツタコトハ首肯出來ル事實デアルト共ニ．小兒ノ如キニ於テスラ一樣ニ有症感染ヲ惹起シナイトイフコトハ興味アル事實トイフテヨカラウカ．川崎市．大牟田市ノ此不幸ナル2個ノ事實ハ．夏．冬等ニ於テ．水道水ノ汚染ガアツタ場合ニ何程ノ有症．無症ノ感染ヲ見ルモノデアルカヲ知ル一疫學的事項デアルコトハ申ス迄モナイト同時ニ．此種ノ事實ハ有史上．著者ノ寡聞．之ヲ知ラナイノデアル．尙此際考ヘタイコトハ．此有症．無症感染ノモノト．菌ヲ攝取シテモ．全然腸管ヲ素通リサセタモノトノ．身體的ノ相違ハ．何ニアルデアラウカ．是非追究シナケレバナラナイ事柄デアル。

Virus 病ニ於ケル無症感染

Virus 病ニ於テモ．近時廣汎ナル檢索ニヨツテ．無症感染ノアルコトハ略〻確實デアル樣ニ思ハレル。之ニ對シテ．不顯性感染 (Inapparante Infektion) ト特ニ言フテ居ラルヽガ．實際ハ．無症狀感染ノコトデアル。

日本流行性腦炎ニ無症感染ノアルコトハ三田村篤志郎氏等(昭和12年)ガ健康人ノ血液．口腔液．健康動物(家鼠．馬．雀)ノ血液內ニ Virus ヲ見出サレテ居ルコトカラ明ラカニナツタ．氏等以外ニモ．1.2之ト類似ノ所見ヲ得テ居ル人モアルガ．要スルニ可ナリ廣範圍ニ於テ．又相當濃厚ナル狀態ニ於テ．無症狀感染ナルモノガ行ハレテ居ルヤニ思ハレル．然ラバ．有症感染ト．無症感染トノ相違ハ何ニヨツテ起ルモノデアラウカ，細菌性疾患ノソレニ於ケルト同樣ニ完全ニ未解決デアルト同時ニ．此無症狀感染ヲ起スノニ Virus ヲ傳播スルモノハ．三田村氏等ノ言ノ如クニ蚊ニヨルモノヽミデアラウカ．其他ノ方法ハ考ヘラレナイモノデアラウカ．(例ヘバ泡沫傳染．其他ノ吸血昆蟲等ニヨル媒介等々)今後殘サレタル重要問題デアル。

玆ニ無症狀感染ノ有無ヲ主張スル有力ナル事實トシテ．Virus 殺滅體(Virulizidin)ナルモノガ．可ナリ濃厚ニ健康人獸ニ發見セラルヽ事デアル。日本流行性腦炎ニ關シテハ(竹內松次郎．高木逸磨．小林六造．三田村篤志郎氏等々)多數ノ報告ガアリ．明ラカニ Virus ノ侵襲ヲ蒙ツタガ爲メノ反應產物デアルトイフコトデアル．本病以外ノ Virus 病ニモ同樣ナル物質ノ出現ガアル．卽チ跳躍病 (Rivers, Schwentker, Zibson)．黃熱(Soper)．「インフルエンザ」(Francis, Shope．吉田圭子．井出正典)．脊髓前角炎(Kolmer)．St Louis 腦炎(Wooley, Webster, Fite & Clow)等々ノ報告ガ見ラレル．玆ニ起ル問題ハ次ノ樣ナコトデアル。此 Virulizidin ノ存在ハ同時ニ Virus ノ存在ヲ意味スルカ．言ヒ換ヘルト．特種ノ Virus 殺滅體ノアル間ハ身體ノ何處カニ．Virus ヲ保有シテ居ルノデアルカ．或ハ嘗テ罹患シタガ．旣ニ Virus ハ消失シテ．免疫體ノミ殘存シテ居ルモノト考フベキカ．又殺滅體ヲ保有スルモノハ嘗テハ Virus ニ感染シタモノト言ヒ得ルヤ (一般ニ感染シタモノト言ツテ居ル) 等ノ點デアル。著

者ハ玆ニ家兎ノ血清內ニ極メテ高度ニ殺滅體ヲ發見シテ居ラル、高木逸磨氏等ノ報告ヲ手ニシ．且ツ同氏ハ大正13年頃ヨリ既ニ家兎ニ腦炎病毒ヲ罹患セシメ得タトノ報告ヲ發表シテ居ルヲ思ヒ合セ．且ツ今日多クノ學者ガ．Virulizidin ノ存在ハ感染ヲ意味スルモノデアルトイフコトヲ事實トスルト．家兎ハ可ナリ高イ感染率ヲ示スモノデアルト言ヒ得ルト思フ。然シ「マウス」等ト相違シテ．無症感染ガ非常ニ多イトイフコトモ亦同時ニ言ヒ得ルシ．日本流行性腦炎ノ Virus 病毒ヲ動物ニ感染セシメ得タ最初ノ人ハ吾ガ高木博士デアルトイフテヨイ樣ニ思フ。

惡性腫瘍發生ニ關スル新知見

惡性腫瘍發生ノ原因ニ關スル學說ハ種々アル．古ハ Virchow ノ刺戟發生說ヲ實驗的ニ立證シタノハ Fiebiger ノ寄生蟲性癌．山極勝三郎．市川厚一氏等ノ「タール」癌デアル。Teutschländer ハ外因．素質竝ニ夫等ヘノ頻回暴露ノ3ツヲ數ヘテ居ル．此說明ヲ如實ニ爲シテ居ルモノハ Cook, Hieger, Kennaway & Mayneord (1932) ノ 1—2 5—6 Dibenzanthracen ニ癌原性ヲ認メタ實驗デアル．又佐々木隆興．吉田富藏氏等(1934)ハ猩紅紅ノ主要原子因タル O-Amidoazotoluol ヲ「ラッテ」ニ經口的竝ニ皮下接種シテ．肝癌ノ發生ヲ來サシメ得タコト．之レト近似ノ性狀アル「バター」黃ノ內服ニヨツテ肝癌ノ發生アルコトハ木下良順氏(1936)ノ實驗的所見デアツテ．極メテ興味アルモノガアル．是等ノ物質ガ如何ナル具合ニ組織ニ作用シテ．癌ノ發生ヲ招來スルカハ．明答ヲ與ヘラレテハ居ナイガ．研究ハ微ニ入リ．細ニ穿ツ樣ニナツテ．近ク解決セラルヽ域ニ達スルノデハナイカト思ハル、節ガアル．左ニ1．2ノ所見ヲ附記シヤウ。

中原和郎．藤原正氏等(昭和12年．癌)ノ發表ニヨルニ．從來ノ發癌實驗ニハ．可檢材料ヲ皮膚．皮下．筋肉內．經口的投與等ノ方法ニヨツテ居タノニ反シテ．3:4 Benzpyrene ヲ．雌性「マウス」ノ腹腔ニ．注入シテ100日ヨリ150日ニ亙ルモノニハ腹腔ニ大ナル肉腫ノ發生ヲ見タトイフテ居ルコトデアル。

西山保雄氏(昭和10．11年癌)ノ報告ハ極メテ注目スベキモノガアル．卽チ25 gdl ノ濃厚葡萄糖液ヲ體重100瓦ノ「ラッテ」ノ背部皮下ニ每日1回4 c.c.宛ヲ注入シタノニ．5ケ月以上繼續スルコトガ出來タ動物ニハ．約25%ニ巨大ナル肉腫ノ發生ヲ見．試獸ノ生命ヲ奪フニ至ツタトイフコトデアル．O-Amidoazotoluol ヲ同時ニ飼養シタ「ラッテ」ハ54%ニ背部ニ肉腫ノ生成ヲ見タトイフ。極メテ注目スベキ事實ト言ハナケレバナラナイ．葡萄糖ノ如キ人獸ヲ通ジテ．體成分トシテ必要缺クベカラザルモノヽ異常大量ヲ瀕回注入スルコトニ依ツテ惡性腫瘍ノ發生ヲ見タトイフ事實ハ．從來人體ニ異種デアルモノヽ送入ニヨツテ起ルソレトハ非常ナル相違點ト申サネバナラナイ。

大塚一郎．長尾直亮氏等(昭和11年癌)ハ o-m′ Dimethylazobenzol ヲ含ム玄米飼料ニヨツテ．大黑鼠ノ膀胱粘膜ニ例外ナク乳嘴腫ガ出來ルコトヲ見出シ．翌3年(癌)長尾直亮氏ハ 4′—oxy—2:3′— Dimethylazobenzol ヲ含ム玄米飼料ニヨツテモ同樣ノ所見ヲ得テ居ル．是等ノ所見ト Leonelle C. Strong (昭和12年癌)ノ混合「オートミール」飼養ニヨツテ．「マウス」ニ約4.8%ニ偶發癌ヲ認メルトイフ事實トヲ照合スルト．使用スル食品ノ如何ニヨツテ．如何ニ惡性腫瘍ノ發生ニ影響アルヤヲ思ハセラレ

ルノデアル。

天野重安．富田隆雄氏等（昭和12．13年癌）ハ腫瘍發生ノ全身性素因ニ關スル檢索ニ於テ「レチチン」「コレステリン」ガ腫瘍發生ヲ促進シ．又男性「ホルモン」モ促進性作用ガアルトイヒ．人體ニ於テ．「ヘパトーム」ハ著ルシク男子ニ多イ事實ト照合スルト興味アル事柄トイツテヨイ．此樣ニ外來ヨリノ種々ノ因子ガ關係スルト同時ニ．個體ノ素質ガ或程度ノ意義ヲ有シテ居ルコトハ疑ヲ置ク餘地ガナイ樣ニ思フ。

惡性腫瘍ノ發生ニ個體素質ガ關係アル樣ニ又．腫瘍ノ治癒ノ上ニモ影響ノアルコトハ想像シ得ラルヽ事柄デアツテ．胃癌等ヲ完全ニ切除シ得ナイ場合ニ．屢〻殘サレタ部分ハ．手術操作ヲ加ヘルコトナシニ．治癒スルコトノアルノハ．臨牀家ノ實驗スル所デアル．此方面ヲ實驗的ニ立證シヤウトノ企テガ．河合直治．神部信雄．濱崎元．尾辻和夫氏等（昭和11年癌）ニヨツテナサレタ．ソレハ「マウス」癌ノ部分的切除ニ於ケル所見デアツテ．腫瘍組織ヲ健康動物ニ移植シタ場合ニ自然ニ吸收．治癒セラルヽヨリモ，姑息的切除ヲ爲スト．盛ニナル發育ヲ示ス腫瘍ノ殘留組織ガ．可ナリ善ク吸收シ．完全ニ治癒シテ．其割合ハ約三倍ノ數ヲ示ストイツテ居ルコトデアル．申ス迄モナク．腫瘍ノ發育ニ對シテハ．生體ニハ之ヲ阻止セントスル樣ニ作用スル性質ノ發來．喚起ガアリ．兩作用間ニ大ニ拮抗シテ居ルノデアルガ．終ニ腫瘍ノ發育力ガ打チ勝ツ場合ニハ宿主ノ生命スラ奪フニ至ルノデアルノガ．人工的ニ．腫瘍ノ一部ヲ切除スルト．玆ニ發育阻止作用ノ方ガ打チ勝ツコトガ屢〻アルモノデアツテ．終ニ遺殘ノ腫瘍組織ハ發育ヲ停止スルノミナラズ．完全ニ死滅シ盡スニ至ルコトガアルノデアル．問題ハ此發育阻止作用ヲ爲スモノハ．何ンデアルデアラウカガ．殘サレタル研究點デアツテ．各個人ノ既存ノ素質ナリヤ病的狀態ニヨツテ喚起セラレタモノナリヤ．等々デ今日ハ全ク不明デアル．之レヲ發癌素質ト照合シテ見ル時．丁度對象的デアツテ．興味アル事柄ト申シテヨイト信ズル。

腫瘍發生ト濾過性病原體

米國ノ野兎ニ Shope 等ニヨツテ發見セラレタ一種ノ可植性乳嘴腫ハ濾過性病原體ニヨツテ發生セラルヽモノデアリ．之レヨリ癌腫ノ發生ガアルコトハ．多クノ人々ニヨツテ認メラレテ居ル．兎ノミナラズ．犬ニモ此種ノ乳嘴腫ガアルコトハ．本邦ノミナラズ廣ク世界ノ知ル所デアル．惡性腫瘍ト Virus トノ關係ハ見直スベキ時期ニ到達シテ居ル．卽チ Rous ノ肉腫 Barnard Gye ノ發癌性物質．「タバコ．モサイク」病ノ Virus 等々ニツイテ．其後餘リ多クノ研究ハナイガ．問題ハ上述ノ樣ナ諸種ノ化學的物質ノ送入ニヨツテ腫瘍ノ發生ヲ見ルノト．Virus ニヨルモノトノ關係ハ如何ニ解決スベキカノ點デアル。

腫瘍細胞ノ發生ノ原基ハ．何レモ生體ニ於ケル細胞ニアルコトハ申ス迄モナク．ソシテ．何ニカノ作用ニヨツテ．性質ガ變化シテ異狀ニ發育ヲ營ム樣ニナリ．玆ニ腫瘍ヲ形成スルニ至ルト見做シテ．此ノ何ニカノ作用ナルモノガ．或ハ化學的物質デアツタリ．或ハ Virus デアツタリスルト考ヘタナラバ．一應ハ解說ハ付ク樣ニモ思ハレルガ．然シ此ノ何ニカノ作用ガ働キカケタナラバ．每常腫瘍ノ發生ガアルカドウカト

イフニ．ソレハソウデハナイ．ヤハリ．個體．局所ニ素因ノアル必要ガアル．然カモカヽル部位ニ特種ノ作用ガ1回働イタダケデハ發生シナイ．相當多イ回數ニ於テ．可ナリ久シク作用サセル必要ガアルコトモ．略ヽ首肯出來ル事柄デアル．玆ニ於テ重大ナル謎ハ或種ノ作用ハ．上記ノモノダケデアルカ．或ハ光線．熱線等ノ物理的作用ニヨツテモ發生スルノデハナイカトイフ點モアル。確カニ光線「ラヂウム」線等ニヨツテ．發癌ノアルコトハ臨牀家ノ認ムル所デアル。然ラバ．熱線又ハソレヨリ一層短カイ．2—3m位ノ超短波線ノ作用ニヨツテハ如何ナルモノデアラウカ．殘サレタル研究事項デアル。尙知リタイコトハ．各個體又ハ局所ニ於ケル素因デアル．O-Amidoazotoluol ノ內服ニヨツテ肝癌ガ發生スル．濃厚葡萄糖ノ瀕回皮下注射ニヨツテ肉腫ノ發生ノアル如キ事柄ガソレデアル．然カモ此際癌腫トナリ肉腫トナル相違ハ何ニヨツテ招來セラルヽモノデアラウカ唯ダ原基トナル細胞ノ相違ト見做スベキカ。

尙著者ハ近時實驗的ニ腫瘍ノ發生ニ關スル研究ガ內外ニ於テ非常ニ旺盛ニ行ハレテ居ルコトハ慶賀スベキ事デアルト思フガ．此種ノ實驗ニヨツテ得ラレタ事實ハ．直ニ人體ニ適用シ得ルヤ否ヤノ點デアル．勿論全然適用不可能ナリト言フモノデハナイガ其所ニアル程度ノ注意ト考慮トヲ拂ハナケレバナラナイ事柄ト思フ．卽チ「マウス」ノ如キニハ容易ニ癌ヲ發生スルガ．「ラッテ」デハ之レニ反シテ．肉腫ヲ作リ易イ．家兎．海猪ニ至ルト然カク容易デハナイ．牛．馬．豚．羊ニ於ケル實驗ハ餘リナイ．猿ニ於テモ少イ．況ンヤ類人猿ニ於ケルソレハ未ダ聞カナイガ．各動物ノ種類ニヨツテ全ク同ジ樣ナ操作ニ對スル反應ニハ夫々特異ナ點ガアルコトハ．何人モ否ムコトノ出來ナイ事實デアル．一種ノ動物ニ於ケル所見ヲ全動物ニ應用スルコトハ困難デアル．例ヘバ家雞ニハ O-Amidoazotoluol ニヨツテ發癌シナイトイフコトニ徵シテモ首肯出來ルコトヽ思フ．故ニ一動物種ニ於ケル實驗的所見ハ畢竟其種ノ動物ニノミ適用スル事柄デアツテ．他種動物況ンヤ人類ニ直ニ適用セントスルコトハ．相當ノ無理ガ存スルコトヲ考慮ノ內ニ置ク必要ガアル．トイフコトヲ．玆ニ附記シテ置キタイノデアル。

眞性高血壓症ノ原因ニ關スル研究

人體ニ見ル眞正高血壓症ト同一狀態ガ．動物ニモアルカ否ヤハ．今日知ラレテ居ラナイ．又動物ニ實驗的ニ恒久性高血壓狀態ヲ喚起スルコトモ．却々ニ困難ナル問題デアツテ．若シ果シテカヽル狀態ヲ實驗的ニ發來セシメ得タトシタナラバ．此方面ニ於ケル知見ニ一步ヲ進メタモノト言ヒ得ル．近時此點ニ關シテ．米國ノ1．2ノ學者ヨリ興味アル所見ヲ發表セラレ．實驗的研究ニ成功シタヤニ思ハレルモノガアル。ソノ點ニ觸レル前ニ一言高血壓症ニ觸レテ置キタイ。

眞正高血壓症ノ原因ハ今日充分明ラカデナイ．通常40歲以下ノ人ニ見ルコトハ稀デアル。又或種ノ體質ト關係ガアリ．遺傳的ニ見ラレルガ．Palmer 等ハ20歲前後ノモノニ．時ニ140—150 mm Hg 壓ノモノヲ見．潛伏性高血壓症ガアルトイツテ居ル．兎ニ角重要ナルコトハ如何ナル體質ガ關係スルヤトイフ點デアル．辻寬治氏ハ心筋．血管壁筋等ニ特種ノ素因ガアリ．加フルニ過勞竝ニ「コレステリン」過剩ガアルト．玆ニ高血壓ヲ招來スルトイツテ居ル。1個ノ觀察ト見做スベキモノデアル．然ラバ．此心筋．

血管壁筋ニ於ケル特種ノ素因トハ如何ナルモノナリヤハ．大ニ研究スベキ點デアルト思フ。

Harry Goldblatt (米國ノ Cleveland 大學病理教室) ハ 1934 年ニ Hanzal & Summerville ト共ニ犬ノ腎臓大動脈ニ銀ノ鎹(カスガイ)ヲ嵌メテ貧血ヲ起サシメ．收縮期及擴張期ノ血壓ノ亢進ヲ認メタ由ヲ報告シタガ．尙餘リ世ノ注意ヲ喚起シナカツタ．然ルニ 1937 年ニ數頭ノ「マカクス」猿ニ同一ノ方法ヲ行ヒ．恒久性ノ血壓亢進症ヲ喚起サセルコトガ出來テカラ．非常ナル注意ガ喚起セラルヽニ至ツタ．此ノ所見ハ可ナリ多クノ人々ニヨツテ追試セラレ承認セラレテ居ル。卽チ犬ニ於テ一側ノ腎血管ノ狹窄ニヨツテハ一時的血壓亢進ガアルノミデアルガ兩側狹窄ニヨリ數年ニ亙ル亢進ヲ見．擴張期ノ亢進スラ見ルトイヒ．其實驗方法モ色々改良セラルヽニ至ツタ．猿ニ於ケル實驗ハ相當困難デアルガ．兩側腎動脈ノ狹窄ニヨリ屢〻動物ハ斃死スルガ．之レニ成功スルト收縮期 300 mm 擴張期 200 mm 水銀壓ヲ示ス (正常ハ約 120 對 80 mm) モノスラ生ジタ．然カモ年餘ニ亙ツテ生キテ居ルトイフ．注目スベキ所見デアル．(猿血壓計側ハ Riva-Rocci 法ニヨリ腹部ヲ緊迫シテ．股動脈音ヲ聽診スルカ．又ハ股動脈ニ針ヲ插入シテ直接ニ測定スル方法ヲ用ヒテ居ル)．是等ニヨツテ．血壓亢進．特ニ萎縮腎症ニ於ケル血壓亢進ノ由來ガ多少伺ハレテ來タノデハナイカト思ハレル。

Goldblatt 等ノ實驗的所見ト血管ノ變化．萎縮腎トノ關係ヲ見直シテ置キタイ．原發性萎縮腎 Genuine Schrumpfniere ト老人性萎縮腎 Senile arteriosklerotische Schrumpfniere トハ區別スベキモノトナツテ居ル。前者ハ比較的若年者ニ既ニ見ラレ．全身ノ細小動脈ニ硬化ガアル．腎臓デハ小葉間動脈．特ニ直走動脈絲毬體輸入管等ニ特ニ强イ變化ガアリ．血行障碍．細尿管．絲毬體ニ變性ヲ招來シ．爲メニ徐々ニ腎臓萎縮．高血壓症ヲ喚起スルモノデアル．Gull & Sutton, Sanator, Johres, Brooks 等ノ詳細ナル研究ガアル．主要病變トシテハ．細小動脈ノ筋層ニ纖維增殖 Arterio-kapillāre Fibrosis ガ起ルトイフ．之ガ腎臓ノ細小動脈ニ主トシテ起ル場合ハ眞正萎縮腎トナリ．全身性ニ現ハレル時ニハ高血壓症々狀ヲ招來スルトイハレ．此後者ノ場合ニハ腎臓ノ細小血管ニハ約半數以上ニ．此種ノ變化ガ見ラレテ居ルトイフコトデアル．此種ノ事實ト．Goldblatt 等ノ動物實驗トヲ照合スルト．極メテ興味アル問題デアル。

高血壓症ノ療法トシテ近時超短波照射ガ應用セラレ．多クハ頭部ヲ照射スルガ．私等ハ腹部ヲ照射シテ見テ居ルガ．ヤハリ照射直後ニハ屢〻 30—40 mm Hg 壓位降下スル．血管收縮ガ寬解セラルヽ爲メデアルカ．擴張神經ノ活動ノ爲メデアルカ不明デアルガ．血管運動神經(迷走．交感)ニ影響ヲ及ボス結果デアルコトハ疑ナイ．是等ノ點ハ今後研究シテ見タイ事柄デアル。

寒冒ト流行性「インフルエンザ」

此兩者ニ關スル研究ハ歐米ニ於テ可ナリ廣汎ニ行ハレテ居ルコトハ．昨年モ一言シテ置イタ．然ルニ本邦ニ於テハ尙目星シイ此方面ノ研究ガナイコトハ殘念デアル．何故デアラウカ．所謂寒冒ト流行性「インフルエンザ」トハ同一デアルトイフ所見ガ．次

第ニ世ニ認メラレツヽアル。Virus ニヨツテ起ルモノデアツテ．之ガ豚等ニ見ル「インフルエンザ」ノソレト．同一ナリトイフ人ト近似ノモノデアルトイフ人トアル．又茲ニモ Virulizidin ノ產出．其性狀等ガ問題トナツテ來テ．之ヲ治療界ニ應用シヤウトスル企テスラ見ラレテ居ルコトハ注目スベキコトデアルカラ．再ビ茲ニ歐米研究者ノ所見ノ要點ヲ拔粹スルコトヽスル。

寒冒ノ病原體ニ關スル實驗ハ 1914 Leipzig ノ Kruse ノソレガ始メデアリ．然カモソノ所見ハ一般ヨリ認メラレツヽアル．歐洲大戰ノ初期ニ於ケルモノデアルト思フト．一層興味ガアル．氏ノ助手ノ某ニ時々鼻加答兒．所謂寒冒ニ侵カサレルモノガアツテ．此人間ノ寒冒發症時ニ鼻咽頭ヲ洗滌シ．濾過シ之ヲ 14 人ノ健康者ノ鼻ニ塗布シタノニ．3 日ノ後ニ 4 人ニ發病シタ．次ギニ 36 人ノ學生ニ同樣ニシタラ．15 人ニ發病シタトイフ事實デアル．其後米國デ Foster ガ同樣ノ實驗ニ成功シ．多クノ追試者ガ現ハレタノデアル。

此實驗的所見ト流行性「インフルエンザ」ノ所見トノ關係デアルガ．「ウィルリチヾン」等ノ檢索ヨリシテ同一 Virus デアラウトイフコトニナツタ．Dochez 等ガ「シンパンジー」ニ同樣ノ實驗ヲ爲シ．又他方咽頭部ノ細菌ノアラユル種類ノ檢索等ヲ爲シ．茲ニ於テモ同樣ノ所見ニ達シタ。

「ウィルリチヾン」等ノ檢索カラ Shope ノ見出シタ豚ノ「インフルエンザ」ノ Virus ハ現在人ニ見ル Virus トハ「ヴァリアント」ノ關係ニアルモノト思ハレルトイフコトニ意見ガ大體一致シ Laidlaw ハ鷄胎兒ニ於ケル培養デ繼代スルコトガ出來．此 Virus ハソレ自個デハ人ニ重イ病症ヲ起サナイガ．之レニ Pfeiffer 菌又ハ肺炎菌等ノ混合感染ガアルト重症化スルトイフコトニナツテ居ル。興味アル事實デアル。

「ウィルリチヾン」ハ馬又ハ家兎ノ血淸ニハ見ラレナイガ．「フェレット」ニ感染サセ．其肺乳劑ヲ上記ノ動物ニ注入スルト多量ニ產出セシメルコトガ出來ル．之レニヨツテ治療及豫防用血淸ヲ製出スルコトガ出來ルトイフ業績モ見ラレルニ至ツタ。

Smarodintseff (Leningrad 1927) ハ「インフルエンザ」病毒ヲ吸引サセ．72 名中．3 分ノ 1 ニ本病ヲ感染サスコトガ出來．Andrews, Smith, Laidlaw 等ノ不成功ナリシ所見ヲ訂正シタ．露國ノコトデアルカラ何程信ヲ措イテヨイカ不明ダガ．ソノ潛伏期ハ 2．3 日デアリ．病症ハ定型的デアツタ．然カモ罹病者ハ血淸內ニ殺病毒素ノナイモノ．少イモノデアリ．罹病後增量シタトイフ。「Am. J. M. Sci. 194, 1937)

「インフルエンザ」病原體研究ノ概要本病ガ傳染病デアルコトハ想像セラレテ居タガ．確證ハ得ラレナカツタノニ．最近ニ至ツテ．英米ノ研究所ノ學者ニヨツテ．之レガ濾過性病原體ニヨル疾患デアリ．豚ニ見ルモノト同一カ極メテ近似ノモノデアリ．實驗的ニ豚．「フェレット」及「フェレット」ヨリ「マウス」ニ或ハ直接「マウス」ニ病原體ヲ罹患サセルコトガ出來ルト言ハレ．Virus ノ大サハ可視性ノ限界下ニアルヤニモ言ハレテ居ル．世界各國ノ研究者ハ今後恐ラク英米ノ是等ノ研究者ノ業績ノ追試ヲ餘儀ナクセラレ．之レヨリ一歩出ントスルニハ相當大掛リナ研究ヲ爲サナクテハナラナイデアラウ．茲ニ英米研究者ノ所見ヲ歷史的ニ一瞥シテ見タイ。

米國 Princeton ノ Rockfeller 研究所ノ Richard E Shope ガ 1931 年ニ豚ノ「インフルエンザ」ニ關スル所見ヲ發表シ．濾過性病原體ト Pfeiffer 氏菌トヲ同時ニ感染サスト特有ナル症狀ヲ起ストイツタ．之レヨリモ尙注目スベキハ倫敦ノ國民研究所ノ Smith, Andrews, Laidlaw ノ 1933 ノ發表デ．本患者咽頭ノ洗滌液ヲ「フェレット」ノ鼻腔ニ注入スルコトニヨツテ本動物ヲ確實ニ感染サセルコトガ出來．肺炎ヲ惹起スルトイフコトデアル．又人ノ恢復期血淸ニハ滅殺素ガアルトイフコトモ知ラレタ．Shope ハ此所見ヲ完全ニ承認シテ居ルノミナラズ．Pfeiffer 氏菌ハ不要デアルシ．又豚ノ「インフルエンザ」ハ「フェレット」ノソレト全然同一デアルトイフコトモ認メタ。「マウス」ニ病原體ヲ移植スルコトヲ見出シタノハ 1934 デ上記英國ノ三研究者ト紐育ノ研究所附屬病院ノ R. Francis & Magill デ．兩者殆ンド無關係ニ行ハレタ．卽チ何レモ罹患「フェレット」ノ肺臟ノ乳劑ヲ「マウス」鼻腔ニ注入スルノデアル．之レニヨリ「マウス」ハ特有ナル肺炎ヲ惹起スル。馬ヲ免疫シテ．病毒ヲ中和スル血淸モ作ルコトガ出來ルトイヒ。最近 Shope ハ「フェレット」ヲ通過サセズニ直接ニ「マウス」ニ病毒ヲ移スコトガ出來ルト迄イフテ居ル．是等ノ研究ハ今後大ニ發展スベキ可能性ガアル。

淋巴球性脈絡膜炎．一名．良性腦膜腦炎

本症ニハ極メテ色々ノ名稱ガ附セラレテ居リ．相當古クカラ知ラレテ居タガ．判然ト1個ノ獨立シタ疾患ト見做サルヽ樣ニナツタノハ．極ク最近デアリ．然カモ Virus ニヨツテ惹起セラルヽモノデアルラシイ．流行性腦炎ノ研究ノ八ケ間數イ今日．當然注意セラルベキ疾患デアツテ．本邦ニ於テモ．屢〻實驗セラレテ居ルコトモ確實デアル．鹽谷不二雄氏（昭和12年日本傳染病）ガ詳細ニ之ニツイテ記載シテ居ラレル。今玆ニハ本病ガ獨立疾患デアリ．之ト同一又ハ極メテ近似ノ病原體ガ．「マウス」．或ハ猿等ヨリ分離セラレテ居ルトイフコト．流行性腦炎ト如何ナル關係ニアリヤヲ一言シテ注意ヲ喚起シタイ．

本病ノ特徵ノ 2.3. 此疾病ハ特有ナル良性急性ノ腦膜炎デアツテ．腦脊髓液ニハ單核細胞ヨリ多核細胞ニ至ル迄ノ多種多樣ノ變化ガアルガ．淋巴球ノ多イコトガ特有トセラレテ居ル．勿論細菌等ヲ檢出スルコトガ出來ナイシ．發症原因ト認ムベキモノガナイト同時ニ．流行性腦炎ト相違シテ流行性關係ガ殆ンド見ラレナイ．諸種ノ腦膜炎ノ症狀ハ見ラレルガ．一過性デアツテ．後遺症ヲ殘サズ．又殆ンド死ノ轉歸ヲトルモノガナイ．季節的關係ハ流行例モ．散發例モ共ニ晩夏ヨリ秋ニ多イ．冬ニ全然見ラレナイト言フノデモナイ。Stooss 等ニヨルト．巴里ニ 1910—13 年ノ夏ヨリ秋ニ亙ツテ．主トシテ小兒ニ見ラレタノガ流行性ノモノヽ尤モ著ルシイモノデ．之ガ世界ニ於ケル最初ノモノデアル樣デアル．斯クシテ全世界ニ廣ツタ樣ニ言ハレル．本邦ニ於テハ大正8年三輪信太郎．翌年三浦操一郎氏ノ報告ニソレラシイモノガアル．西川治良兵衞氏ノ昭和11年ノ報告ハ 40 有餘例デ．最モ多數デアル．兎ニ角．本邦ニモ．本病ノアルコトハ確實ト思ハレルガ．尙Virus ヲ確實ニ分離シ得タトイフ確實ナ報告ヲ見テ居ナイ．米國等ノ報告デハ．動物ニ移植スルコトガ出來ルラシイノデ．是非試ミナケレバナラナイト同時ニ流行性腦炎 Virus ノ如ク多少性狀ニ相違アルカモ知レナイ．

研究スベキ事項ト信ズル。

本病 Virus ノ動物ヘノ移植實驗: Scott & Rivers (昭和9年. 1934年) (米國 Rockefeller 研究所) ガ. 人ヨリ「マウス」ニ接種出來タトイフ報告. 同ジク米國ノ Armstrong 及ビ共同研究者 (昭和9年 1934年) ハ他疾患デ斃レタモノヽ腦ヲ. 猿. 「マウス」ニ移植. 同一 Virus ヲ得タトイフ報告. 米國ノ Traub (昭和9年) ハ健康「マウス」腦ヨリ Virus ヲ分離シ. 是等ノ Virulizidin 所見又ハ病理解剖學的ニモ同一デアツテ. 從ツテ. 同一 Virus ナリトイフ報告等ハ注目ニ値スルト思フガ. 果シテ彼等ノ言ノ如ク同一物ナリヤ否ヤ. 研究スベキ事項ト思フ. 然カモ近時本邦ニ於テハ. 日本流行性腦炎 Virus ト家畜等ニ見ルソレトノ異同研究ガ相當ニ重大ニ論議セラレテ居ル際デアルシ. 特ニ健康「マウス」. 猿ノ Virus ハ注意シナケレバナラナイ所見ト思フカラ玆ニ上記三氏ノ動物實驗所見ノ要點ヲ抄錄スルコトヽスル。

Scott & Rivers ハ Rockfeller 研究所使用者ノ2例ノ定型的漿液性腦炎ノ腦脊髓液ヲ Albino Swiss mice ノ腦內. 腹腔內ニ接種. 罹患セシメ. 此「マウス」腦ヲ繼代シ. 同樣ノ症狀ヲ呈シタトイフ. 患者ノ血液ヲ天笠鼠ノ腦內ニ注入. 罹患セシメ得タ. 剖檢所見ハ. 腦膜. 脈絡膜叢ニ輕イ炎衝ガアリ. 單核細胞ノ浸潤ガアツタ. 此病原體ハ濾過性デアリ. 恢復期患者血清ニハ. Virulizidin ガアルコトヲ立證シタト同時ニ Armstrong & Lillie Traub ノ分離シタ病原體ト免疫學的ニ同一デアルコトヲ知ツタ. 又 St. Louis 腦炎 Virus ハ中和シナイガ. 玆ニ奇妙ナコトハ Philadelphia ニ流行シタ本症者17名ノ恢復期血清ハ上記ノ Virus ヲ中和シナカツタトイフコトデアル。

Armstrong & Lillie (1934) ノ實驗ヲ略述シタイ. St. Louis 腦炎患者ノ腦ヲ猿. 「マウス」ニ移植中. 偶然一新 Virus ヲ分離シ. 上記ト同樣ノ剖檢所見ヲ認メ. 淋巴球性脈絡腦膜炎ト稱シ. 日本ノ流行性腦炎. Herpes Virus トハ相違スル. ソシテ此 Virus ノ由來ハ不明デアルトシタ. 翌年 Armstrong Wooly ハ腦炎. 脊髓前角炎ノ Virus ヲ猿ニ移植中ニ分離シ. 同研究所ノ猿ノ間ニ傳染シ. 人ヘモ傳染可能デアラウト言ヒ. 同年同氏ト Dickens ハ本症患者恢復期血清ニヨツテ中和セラルヽコトヲ見出シ. 且ツ Scott & Rivers, Traub ノ Virus ト同一デアリ. 猿. 「マウス」. 天竺鼠等ニ存スルト述ベテ居ル。

Traub (1936) ハ一見健康ナル「マウス」腦ヨリ一新 Virus ヲ分離シ. 是ガ上記ニ Virus ト同一デアルガ. Theiler ノ「マウス」ノ偶發性腦炎ノソレトハ相違ストイヒ. 「マウス」天竺鼠ニ移植可能. 家兎ニハ不能トイフテ居ルガ. 此 Traub ノ剖檢所見ニハ脈絡叢ニ單核細胞ノ浸潤アル外ニ腦皮質. 小腦. 腦脚. 脊髓前角等ノ神經細胞ニ變化ガアルコトハ他ト相違ガアル樣ニ思フ. 本邦ニ於テモ. 健康「マウス」ノ腦ヨリ Virus ヲ分離シ得タトイフ人ガアル. 是等ノ異同ハ今後必ズ研究スベキ事項トナルハ申ス迄モナイ。

英國ノ Findlay, Alcock & Stern (1936) ハ中樞神經病デ斃レタモノヽ腦. 健康「マウス」腦ヨリ Armstrong ノ分離シタト同一ノ Virus ヲ分離シタトイフ。

之ヲ要スルニ人體ニ見ル良性ノ急性腦膜炎ハ．夏期ニ見ル流行性腦炎トハ臨牀上ニモ亦剖檢的ニモ．病原的ニモ相違シテ居ル疾患ト見做スコトガ穩當ト思フ．ソシテ此病原體ガ果シテ．Scott. Rivers 等ノ研究ノ如クニ．「マウス」等ニ移植可能ナルモノデアラウカ．果シテ可能ナリトシテ．ソレガ．「マウス」．猿等ニ見ルモノ．又ハ家兎等ニモ見ル Virus ト如何ナル關係ニアルモノナリヤハ確定シナケレバナラナイ事項トナツテ來タ。

「プロントジル」

治療醫學界デ．近時著目スベキ新製劑ハ少クナイ．邦人ノ手ニナルモノデハ「ヴィタカンファー」．竝ニソレニ類似ノ合成劑．「ブホタリス」等ノ强心劑ハ特筆スベキモノデアラウ．又多クノ殺菌性製劑ガ報告セラレテ居ルガ．「プロントジル」ノ如ク．略ゝ一般ニ其效果ヲ認メラレタモノモ．多クハアルマイ．特ニ婦人科性化膿性疾患ニ應用セラレ．然カモ．其作用機轉ハ細菌ニ直接作用スルノデハナクテ．ヤハリ．組織細胞ノ轉調ニヨルモノデアルラシイコトハ．私ニ强イ感銘ヲ與ヘルモノデアルカラ．本劑ニツイテ．左ニ一言ヲ費シタイ。

Prontosil Bayer ハ 4-Sulfonamido -2′, 4-Diaminoazobenzol ノ鹽酸鹽デ．卽チ「アゾ」色素ノ誘導體デ專賣品デアル．今日ハ Prontosil album ナルモノガ報告セラレ．大ニ使用セラレテモ居ル．Domagk ニヨツテ．連鎖狀球菌又ハ葡萄狀球菌ノ特殊殺菌劑トシテ推奬セラレ．內外ニ多クノ報告ガ見ラレ何レモ略ゝ之ヲ認メテ居ル．著者ニハ全然無效デアツタ 2．3 ノ經驗ガアル．又强イ貧血ヲ喚起シタトイフ報告モアリ．左程ニ效果的デナイトイフ者モダンダン現ハレテ來タ．「アンプル」劑ハ皮下．筋肉．及ビ靜脈內ニ．錠劑ハ經口及ビ注腸用ニ使用スル．注腸ノ際ニハ普通 5％葡萄糖液又ハ生理的食鹽水ニ 5—7 錠位ヲ溶カシタモノヲ點滴スル．何故ニ葡萄糖液ニ溶解スルカハ不明デアルガ恐ラク刺戟ヲ小ニスル爲メデアラウ．今後此種ノモノニ關スル研究檢索ト共ニ新製劑ガ提供セラルヽコトヽ信ズル．由來「アゾ」化合體ハ種々ノ方面ニ利用セラレテ居ル．卽チ酸性化體デアル Trypanblau ハ其名ノ如ク「トリパノゾオマ」ニ．中性化合體タル Diamidoazotuluol ハ上皮細胞ニ作用シ終ニ癌腫性ニ迄化生スルコトハ周知ノコトデアル．鹽基性化合體ニハ其鹽酸鹽タル Chrysoidin ノ如キ殺菌劑ガアル．邦製品ニハ Gerison (Para-aminophenyl-Sulfamid) 等々約十種類程アル相當用ヒラレテ居ル。玆ニ極メテ興味アルコトハ．Prontosil ハ試驗管內ニ於テハ殆ンド殺菌作用ガナイコトデアル．(1．2ノ報告ハ．コレニ反スルガ)．「サルヴァルサン」ト同樣ニ先ヅ臟器細胞ニ作用シ．斯クシテ殺菌作用ガ現ハレルト思ハレル。

實驗的黴毒ニ關スル注目スベキ業績

實驗的先天黴毒ニ關スル研究

黴毒ニハ先天性．遺傳性ノ罹患アルコトハ．多數ノ臨牀所見ニヨツテ立證セラレテ居リ．屢ゝ親子ノ間ノミデナク．孫ニ至ル迄．確實ニ罹患セル場合ガ知ラレテ居ル．曾孫ニモ及ブトイフ人モアル．確實デハナイガ．可能デアルト思フ．此先天性．遺傳性黴毒ノ發來スル機轉ニツイテハ種々ノ考察ガアル．卵子性感染．精絲性感染ノ

可能ヲ說キ．之ヲ遺傳黴毒ト言フテ居ル．卽チ睾丸．卵巢等ニ黴毒性病變ガ起リ．卵細胞又ハ精絲ニ *Treponema pallidum* ガ混在シタ儘．幸ニシテ受胎シタトスルト．玆ニ胎兒ノ初期ヨリシテ．感染ガ起ルモノデアル．然シ又．黴毒症ノアル時期ニ於テハ *T. pallidum* ガアル局所ノ病竈カラ溢ルヽバカリ血行ニ入リ．タトヘ卵巢．睾丸等ニハ．殆ンド認メ得ベキ變化ノナイ位ノ際ニ卵子又ハ精絲ニ *T. pallidum* ガ混入スル可能性ハナイトハ言ハレナイ．殊ニ下ニ述ベル實驗的所見カラモ．ソノ可能ナルコトハ言ヒ得ルト思フ。

精絲竝ニ卵細胞ガ受胎スル時ニハ共ニ健全デアツタノガ．母體ノ何處カニ黴毒性病竈ガアリ．其所ヨリノ病原體ガ胎盤ヲ通過シテ．健康胎兒ヲ侵カスコトハ考ヘラルヽノミナラズ．之ガ又實際ニ非常ニ多イモノトサヘ考ヘラレ．Lesser ハ之ヲ先天性黴毒ト呼ンデ．前者ノ卵子．精絲感染ヲ遺傳性トイフテ區別シテ居ル。

母體ハ幸ニシテ黴毒性ノ病竈ヲ作ラナイ．先ヅ健康デアルガ．男子ニ黴毒性ノ變化ガアリ．然カモ．生殖器以外ニ病竈ガアツタ際ニ．精絲ニ病原體ガ混入シテ．所謂精絲感染ヲ惹起スルコトガアルカ否ヤモ．考ヘ得ルコトデアルガ．實證スルコトガ出來ナカツタガ，次ノ實驗デ此點モ明確ニ立證シタ．極メテ興味ガ深イコトヽイフテヨイ。

以上ノ樣ナ色々ナ機轉ニヨツテ．遺傳黴毒ノ發來ノ可能性ハ考ヘラレルノデアルガ．未ダ實驗的ニ立證スルコトガ出來ナカツタ．然ルニ．高木逸磨氏ハ此點ニツイテ．多年ニ亙ツテ．家兎ヲ用ヒテ精細ニ研究セラレ．望ンデ得ラレナカツタ多クノ所見ヲ以テ．上記ノ謎ヲ實驗的ニ立證セラレタコトハ特筆スルニ値スルモノガアラウト思フ．時偶〻此方面ニ多クノ苦心ヲ拂ハレタ Uhlenhuth ハ高木氏ノ實驗成績ヲ親シク見テ．三嘆之ヲ久シ．余ガ多年苦心ヲシ．求メテ得ラレナカツタ所見ヲ今日日本デ見ントハ豫期シナカツタ．何處ニ發表セラレ居ルカト叫バレタノデアツタ．(實ハ高木氏ハ未ダ本報ヲ發表シテ居ラレナイ)玆ニ同君ノ所見ノ要點ヲ述ベルコトヽスル。

高木氏ハ家兎ニ *T. pallidum* ヲ罹患セシメルノニ．獨特ノ部位ヲ選ンデ居ル．ソレハ家兎ノ鼻根部デアル．豫メ此部ヲ木槌ニヨツテ．輕打シ．皮下組織ニ損傷ヲ作ツテオキ．斯クシテ．强力ナル家兎性 *T. pallidum* ヲ接種シタノデアル．局所ハ機械的刺戟ニヨツテ．抵抗減弱セル爲メカ．極メテ容易ニ，然カモ立派ナル病竈ヲ喚起シ．久シキニ亙ツテ存在シテ．自然的治癒ヲ來スコトガ割合ニ少イトイフ．此種ノ動物ハ幸ニシテ榮養ガ餘リ衰ヘナイ．生殖慾モ保持セラレテ居ルノデアル．之レガ睾丸．又ハ陰脣等ニ病竈ヲ作ツタノトハ非常ナル相違デアツテ．多クノ人々ノ實驗ノ失敗ハ實ニ玆ニ存スルノデアル．卽チ生殖器ニ病竈ヲ作ルト．生殖慾ヲ失フテ．受胎セシメルコトガ出來ナイノデアル．高木氏ノ實驗ノ成功ハ．此病竈ヲ作リ得タコトニ存スルコトハ申ス迄モナイガ．又他面此種ノ動物ヲ交配分娩セシメル迄ニハ．相當細心ノ注意ヲ必要トスルコトハ言フ迄モナイ．兎角．實驗シタ動物ノ其後ノ觀察ニ萬全ヲ缺クコトノ尠クナイ研究家ノ多イ今日ニ於テ．頂門ノ一針トナスニ足ルト信ズル。

高木氏ハ雌性ノ兎ニ黴毒性病竈ヲ作ラシメ．雄性ノソレハ健全ナルモノヲ用ヒテ．

交配シ．數系ニ於テ．數回ノ分娩ヲ行ハシメ．然カモ一病母ヨリ．多數ノ仔兎ヲ得テ．觀察シテ居ル．其要點ヲ一言スルト．同時ニ受胎シタ胎兒ガ假リニ數頭アツタトスルト．發育不良．死兒，分解吸收等々ノモノト共ニ一見健全ラシキモノ等ガ混有シテ居ルコトガ多イ。10數回ノ分娩ニ於テ常ニソレデアリ．胎兒ヨリモ．胎盤ヨリモ *T. pallidum* ヲ檢出シテ居ラレル．之レニヨツテ．生殖器以外ニアル母體ノ病竈ヨリ．受胎後 *T. pallidum* ガ．胎盤ヲ通過シテ胎兒ニ移行スルコトヲ確證セラレタノデアル。

雄性家兎ノ鼻根部ニ病竈ヲ作リ．之レヲ健康雌兎ト交配シタ際ノ所見ハ．興味ガアル。此際ハ雌兎ガ病竈ヲ有シテ居ル時ニ比較シテ．黴毒兒ヲ出スコトガ少イガ．然シ屢〻極メテ顯著ナルモノガ現ハレ．其變化ハ雌性罹患ノ場合ト全ク同樣デアツタ．卽チ此際ハ胎兒ノ罹患率ハ低イケレドモ．確實ニ黴毒罹患ヲ發來セシメルコトガ出來ルノデアツテ．然カモ1回ノ交配ニヨツテ．此事實ガ現ハレルコトヨリシテ．次ノ事ガ言ハレヤウ．卽チ黴毒病變ノ盛ンナル時期ニ於テハ．*T. pallidum* ハ善ク血行ニ侵入シテ．睾丸等ニ認メ得ベキ病變ヲ惹起スルコトナクシテ．精液內ニ混入シ．受胎シタ卵子ヲ侵カシ．之ニ黴毒性變化ヲ惹起シ得ルトイフコトデアル．況ンヤ睾丸等ニ病變ガアツタナラバ．此種ノ事ガ起ルノハ當然デアル。之ヲ要スルニ此實驗ニヨツテ．精絲．精液感染ノ可能ナルコトモ明ラカニスルコトガ出來タコトハ．極メテ重要ナル事實デアツテ．此際．常ニ母體ニ顯著ナル黴毒性ノ變化ヲ惹起スルニ至ルモノデモナイコトモ亦注目スベキ事柄デアル。以上ノ實驗ニヨリ．親子間ノ黴毒罹患ノ關係ハ略〻明ラカニナツタ．孫．曾孫等ニ於ケルソレハ如何ナルモノデアルヤハ．是非究メナケレバナラナイ事柄ト信ズル。

Treponema pallidum ノ純培養ニヨル動物ノ罹患

病原體ノ檢出確定ニ當ツテ．Koch ノ所謂ノ三原則ガ充サレルベキコトガ必要デアル．卽チ總テノ病竈ニ於テ每回非常ニ多數ニ發見セラルベキコト．實驗的ニ感染可能ナルコト．純培養ヲ得テ，之ニヨル感染ガ可能ナルベキコト等デアル．黴毒ノ病原體ガ Schaudinn, Hoffmann, Neufeld, Gonder (1905) ニヨツテ．發見セラレルニ及ンデ．眞ノ病原體ナルヤ否ヤニ關シ多年甲論．乙駁デアツタガ．上記ノ二原則ハ完全ニ滿タサレタ．然ルニ第三項ニ至ツテハ終ニ滿足スベキ業績ヲ見ルニ至ラナカツタ．カヽル際ニ野口英世氏(1912)ガ特種ノ培養基ヲ案出シテ．家兎睾丸ノ實驗的黴毒竈カラ材料ヲトツテ．*T. pallidum* ノ培養ヲ爲シ．終ニ純培養ヲ得ルコトハ出來タガ．ソレヲ以テ．動物ニ接種シテ．陽性成績ヲ得ルコトガ出來ナカツタ．最モ同氏ハ之ヲ家兎睾丸ニ接種シテ陽性成績ヲ得タトイフ報告ヲ出シテ居ルガ．多クノ人々ノ追試ニヨツテハ．終ニ承認ヲ得ルコトガ出來ナイ．爲メニ野口氏ノ純培養ハ．果シテ *T. pallidum* ノ純培養ナルヤヲ疑フモノスラ現ハレテ來タ次第デアル．高木逸磨氏ノ實驗ニヨルニ野口株ヲ用ヒテ．家兎．「マウス」ノ腹腔內ニ注入シテモ6時間位ノ裡ニ消失スル．偶〻心血內ニ發見セルモノヲ純培養シテ．再ビ腹腔內ニ注入スルコトヲ繰リ返ヘシテ．毒力ヲ高メル樣ニシテ．感染試驗ヲ爲シテモ．終ニ感染ヲ陽性ナラシメルコトガ出來ナカツタト言ハレテ居ル．他ノ人々ノ類似ノ實驗ニ於テモ略〻同樣ノ所見ニ到達シテ居ル．其他

數氏ノ人々ガ他ノ方法ニヨツテ純培養ヲ得. 動物實驗ニ陽性成績ヲ得タトイフコトデアルガ. 世ノ承認ヲ得ルニ至ラナイ. 爲メニ *T. pallidum* ノ病原性ヲ決定スル上ニ於テ. 此點ハ全然滿足シ得ル所見ニ達スルコトガ出來ズニ最近ニ至ツタノデアル。

然ルニ高木逸磨氏(昭和12年本所集談會發表)ハ, 特種ノ培養基ヲ考案セラレ(兎肝「パパイン」消化液. 「ペプトン」. 食鹽. 乳清. 「ふのり」液ヲ用ヒ pH 7.2) 培地ハ2本ノ試驗管ニ入レ. 互ニ小試驗管ニヨツテ連接シ. *T. pallidum* ハ上記ノ培地ニ. 他管ニハ普通肉汁ヲ入レ之レニ大腸菌ヲ接種シテ. 密栓スル. 以テ培地ヲ嫌氣性タラシメルト. *T. pallidum* ハ盛ンニ發育シ. 然カモ. 純培養ヲ得. 三代迄ハ確實ニ家兎ニ接種陽性デアルノミナラズ. 12例ノ麻痺狂患者ニ接種シテ. 2例ハ局所ニ硬結ヲ作リ. 重感染ニスラ成功シタノデアル。尙氏ニヨルニ其形態ハ. 野口株ノソレト聊カ相違ガアルトイハレテ居ル. 同氏ノ此所見竝ニ報告ガ. 恐ラク世界ニ於テ. 此方面ニ於ケル最初ノモノデアル樣ニ思フト同時ニ. *T. pallidum* ガ黴毒ノ病原體トシテ始メテ. Koch ノ三原則ヲ充タシ得タト言フテヨイト信ズル。

黴毒ノ發熱療法ト組織ノ轉調

黴毒性疾患ノミナラズ. 諸種ノ疾患ニ發熱療法ガ應用セラルヽ樣ニナツテ來タ. 特ニ淋毒. 關節「リウマチス」. 黴毒性神經性疾患等ニ可ナリ應用セラルヽ範圍ガ廣ク相當認ムベキ效果ガ擧ゲラレテ居ルコトモ事實デアル。他方發熱ノ方法モ色々報ゼラレ. 應用セラレテ居リ. 麻痺狂ニ「マラリア」ヲ罹患セシメルコトハ今モ昔モ同樣デアルガ. 他ノ疾患ニハ. 化學的藥劑ニヨル發熱. 熱浴療法等ガアリ. 小穴正德氏ハ硫黃含有蒸氣浴ヲ用ヒテ. 主トシテ急性淋毒ニ對シテ著效ヲ納メテ居ルト報ジテ居ル.「ラヂオテルミー」ニヨル發熱モ此方面ニ利用シ得ルコトハ申ス迄モナイ。

矢田與久氏(聯合微生物. 昭和13年)ガ發熱療法ニヨル治癒機轉ニ關シテ下ノ樣ナ實驗ヲ報告シテ居ル. 之レニヨルト. 發熱其物ニヨル直接作用ト見做スヨリモ. 熱線ニヨツテ. 組織細胞ガ轉調シテ. 玆ニ初メテ. 病毒ヲ滅殺スルシ. 非病原性疾患ハ. 此轉調ニヨツテ. 良轉スルモノト思ハルトイフ結論ニ到達シタノデアル. 誠ニ興味アル事實ト申シテヨイト思フ. 實驗ノ要點ヲ述ベテ見ヤウ。

家兎ノ睾丸ニ黴毒ヲ接種シテ. 相當顯著ナル狀態ニ達シタ際ニ. 一列ノ動物ハ「ラヂオテルミー」ニヨツテ. 全身性ニ41. 2度ニ發熱サセル. 他列ノ動物ハ. 特別ノ裝置ヲ施シタ熱浴鑵ノ內ニ入レ. 頭部ハ外ニ露出サセ. 上記ト同一溫度ニ置キ. 略ヽ同一時間ノ間. 同樣ニ操作スルト. 睾丸ノ黴毒性變化ハ日ヲ經ルニ從ツテ消褪シ. 治癒スル. 「ラヂオテルミー」ニヨル全身性發熱ノモノハ. ソレニヨツテ. 後遺症ヲ見ルコトナクシテ全治スルノガ殆ンド常デアルノニ. 熱浴鑵ニ入レタ動物ハ. 非常ニ高イ率ニ於テ角膜ニ轉移ヲ生ジテ來ル. 之レハ極メテ顯著ナル事實デアル. 角膜以外ノ頭部ノ組織. 特ニ鼻根部等ニ現ハレルコトモアルガ. 其發症率ハ低イ. 此事實ヨリ次ノ3ツノ事ガ考ヘラレル. (1)熱浴鑵ニ入レタモノハ. 頭部ノ組織ガ. 熱線作用ヲ受ケナイコトガ「ラヂオテルミー」ニヨルモノト非常ナル相違デアル. 卽チ此部分ダケハ. 轉調シテ居ナイ. 爲メニ. 生殘セル「スピロヘータ」ガ此部ニ來ルト. 親和性ノ强イ角膜ニ固

著スルノデアル．(2)熱浴鑵ニ入レタ動物ノ角膜轉移ハ．無處置ノ黴毒家兎ニ見ルヨリモ．遙カニ多イ率ニアルコトハ．「スピロヘータ」ガ熱線ノ影響ニヨリ．病竈ヲ離レ安住ノ地ヲ求メテ行クコトガ多クナル樣ニ思ハレルコトデアル．(3)角膜ト黴毒「スピロヘータ」ノ親和性トノ關係ハ人體ニ於テモ屢〻實驗セラレテ居ル事柄デアツテ．著者ノ經驗デモ．遺傳黴毒ノ母ニヨツテ．其子ガ角膜．其他眼球組織ニ顯著ナル病變ヲ起シテ居ル例ヲ見テ居ル．同樣ノ報告ハ西歐ニモアル．角膜ニ病變ノ來ルノハ．全ク强イ親和性ノ現ハレト見做スベキコトデアツテ．然カモ之ガ同時ニ熱線ニ作用セラレルト．轉調セラルヽモノト言フテヨイト思フ。尙矢田氏ハ黴毒「スピロヘータ」ノ純培養ヲ用ヒテ．種々ノ熱線ヲ作用サセ．直接ニ死滅スル溫度ノ檢査ニヨルニ．大體45度以上ヲ要スルコトガ明ラカニナリ．此溫度ニ於テハ動物ハ完全ニ斃死スルノデアツテ．上記ノ治癒機轉ハ疑モナク．熱線ノ直接作用デナイコトハ言明シ得ルト思フ．卽チ．組織ノ轉調ノ結果ト見做スコトガ穩當デハアルマイカ。

角膜ヘノ轉移ノ機轉ニツイテ．聊カ考案スル爲メニ色々ノ實驗ヲ行ツテ居ルガ．其一ハ睾丸黴毒ノ家兎ノ鼻根部ヲ輕打損傷スルカ．猩紅紅ノ如キヲ注入シテオクト．好ンデ此部ニ轉移ガ出來ル．然カモ．熱浴鑵ニ動物ヲ入レルト．一層轉移ガ多クナルノデアル．之ハ「ラヂオテルミー」照射ノ動物ニ於テハ顯著ニ現ハレナイ事實ガアツテ．卽チ組織ニ抵抗ノ減弱シテ居ル所ニ好ンデ病毒ガ轉移スルモノト言ヒ得ルノデアル．此事實ヲ角膜轉移ノソレニ利用シ得ルナラバ．角膜ト黴毒「スピロヘータ」トノ間ニハ特種ノ親和性ガアルトイフヨリモ．或ハ角膜組織ハ他體組織ト可ナリノ相違ガアルコト等ヲ思フト．是等病毒ノ侵襲ヲ防禦スル力ガ．著ルシク低イ結果デハナカラウカトモ思ハレル．斯ノ如キ事柄ハ．黴毒「スピロヘータ」以外ノモノニモ見ラルヽ事デアルヤモ知レナイ．眼房水ハ免疫學上ニハ可ナリ特種ノ立場ニアルコト等ヲ思ヒ合スト．興味アル事實ト申シテヨイト思フ。

組織ノ轉調ト治癒機轉ニツイテ

矢田氏ノ實驗ハ此他ニモ尙色々アルガ．黴毒症ノ發熱療法ノ治癒機轉ニハ組織ノ轉調ガ重要ノ意義ノアルコトハ上述デ知ラレタト思フ。近時化學療法ノ多クハ．化學藥品ガ．直接ニ病原體ニ作用シテ．滅殺スルトイフ Ehrlich ノ考ハ漸ク改定セラレナケレバナラナクナツテ來テ居ル．「サルヴァルサン」ノ黴毒．再歸熱性「スピロヘータ」ニ對スル作用ニツイテモ Levaditi 一派ハ直接作用デナイトイフテ居ル．「マラリア」ニ對スル規尼溫ノ作用ニ於テモ同樣デアル．「アメーバ」ニ對スル「エメチン」「ヤートレン」等ノ作用モ到底直接作用デハ何等ノ效果ヲ現ハサナイ位ノ稀薄サニ於テ．既ニ著效ガ現ハレルノデアル．Uhlenhuth 等ガ大ニ研究セラレタ「アンチモン」等ニ於テモ著者ハ同樣ノ考ヲ持ツテ居ル．卽チ日本注血吸蟲ニ對スル「アンチモン」ノ作用ノ如キガソレデアル．多クノ化學療法ハ特異性ニ作用スル組織ノ轉調デアルトイフタナラバ．相當ニ異論ガアルカモ知レナイガ．ドウモソウ考ヘナケレバナラナイ樣ニ事實ガ現ハレテ來テ居ル。

組織ノ轉調(Umstimmung)トハ何ニカト言フニ．之ハ極メテ難解ナル研究問題デア

ル．然シ追究スベキ事柄デアルコトハ申ス迄モナイ．色々ノ操作ニヨツテ組織ハ夫々特異的ニ轉調スル．熱ニヨルノト．化學藥品ニヨルノト．同一轉調トハ思ヒタクナイ．即チ黴毒「スピロヘータ」ガ滅殺セラルヽノニ．熱線轉調ニヨルノト．「サルヴァルサン」轉調ニヨルノトハ．相違ガアルノデハナカラウカ．又組織ノ轉調ハ細胞自個ニアルノデアラウカ．體液ニアルノデアラウカ．又兩者ニ來ルノデアラウカ等々．考ヘテ來ルト．吾等ノ前ニハ極メテ復雜多岐ノ事件ガアル．單ニ組織ノ轉調トイフガ．何ニガドンナ風ニ變化シ．ソレガ如何ナル具合ニ病原體ニ作用スルノデアルカ．完全ニ遺サレタル研究項目デアルト信ズル。

Vitamin 化學ノ進歩

昨年ノ記念會ニ於テモ．Vitamin 化學ノ目覺シイ進歩ニツイテ一言シテオイタ．今回ハソレヨリモ尙一歩ヲ進メテ來テ居ルカラ．ソレニ少シ觸レテオキタイ．此目覺シイ進歩ノ原因ハ色々アルガ．之レガ又研究者ニハ誠ニヨイ參考トナルト思フ。

Vitamin A.

此化學ニツイテハ獨逸ノ Kuhn 等ノ研究ガ預ツテ大ナルモノガアル．植物界ニ廣ク存スル Carotinoid α, β, γ-Carotin, Caricaxanthin ニ其作用ガ最モ著名デ．之ト黃色々素．Chlorophyll ノ中ニ存スル Carotene 內ニ多ク存スル．動物ハ植物ヨリ來タモノヲ貯藏スルトイハルヽガ．肝油ニ見ル樣ナ Vitamin A ハ植物界ニハ見ラレナイ．何故デアラウカ．細菌ノアル種類ハ之ヲ作ル働キガアリ．今日約百種類モ知ラレテ居ル。Vitamin A ノ組成ハ $C_{20}H_{30}O$ トイフコトニナツテ居ルガ．之ニ近似ノモノニA作用アルコトハ確實デアル。

Vitamin D ハ紫外線デ照射セラレタ Ergosterin $C_{28}H_{44}O$ デアリ．Sterin 列中ニハ．之ト近似ノ作用アルモノガ他ニアルラシイ．此研究ニハ Pohl, Windaus, Hess, Rosenheim, Webster 等．獨英ノ研究者ノ力ガ預ツテ大ナルモノガアリ．Windaus, Linsert (1932) 等ハ結晶形ノ有力ナルモノヲ得テ．之ニ D_2 ト命名シテ居ル。肝油內ニ澤山アリ．之ヨリ分離シヤウトシテ却々ニ成功シナカツタノガ．偶然ニ Sterin 照射ニヨツテ．同樣ノ作用アルコトニ氣付キ研究ハソレヨリ進ンダノデアル。

Vitamin B

此種類ニハ $B_1B_2B_3B_4$‥‥等ガアルト言ハレテ居ル。Vitamin B_1 ハ抗神經炎性ノモノデ．大嶽 (1931)．Tschetsche (1932) 等ニヨツテ．$C_{12}H_{16}N_4SO_2$, $C_{12}H_{18}N_4SO_2$ 等ノ組成ヲ報告セラレ．米糠．酵母等ヨリノ分類セラレタ。

Vitamin B_2 Györgyi, Kuhn, Wagner-Jauregg (1933–34)

ニヨツテ．動植物界ニ廣ク存スル Flavin ナル色素デアルコトガ知ラレ．之ヲ缺如スルト．生物ハ發育シナイト言ハレテ居ル．1例ノ組成ヲ示スト Lactoflavin ハ $C_{17}H_{20}N_4O_6$ デ．B_1 ト相違シテSガナイ．此種類ノモノハ澤山アルラシイ。

B_3, B_4 等ノ化學ハ尙確實デナイ。

Vitamin C

本種ハ抗壞血病性ニ作用シ．ソレガ「オレンジ」．「レモン」．「トマト」等ニ澤山アル

コトモ一般ヨリ認メラレテ居ル。Szent-Györgyi (1928) ガ牛ノ副腎等カラ還元性ノアル $C_6H_8O_6$ ナルモノヲ分離シ之ガ Ascorbin 酸デアリ．同氏．Tillmann, King 等ニヨツテ．抗壞血病性ニ作用スルコトガ知ラレタノデアル。

玆ニ注意スベキコトハ．犬．鼠．鷄等ハ體內デ此酸ヲ合成スルコトガ出來ル．爲メニ此種ノ動物ヲ用ヒテ．實驗的壞血病ヲ起サセルコトガ出來ナイ．鼠ト共ニ齧齒類ニ屬スル海猪．特ニソノ若イ動物ハ．此物質ノ缺乏ニ極メテ敏感デアルコトハ．動物實驗ヲ爲ス際ニハ餘程注意シナケレバナラナイ事實デアル。尙 Szent-Györgyi ガ．本酸ヲ發見シタノハ．還元性ニ着目シタタメデアルト言フ．ソシテ．此物ニ抗壞血病性作用ガアルトイフコトハ．色々ノ暗示ヲ受ケル樣ニ思フ．人體竝ニ動物體ノ諸般ノ生物學的機能ハ酸化．還元ニ重大ナル影響ヲ有シテ居ルコトハ申ス迄モナイ．又諸種ノ疾病ニヨツテ．夫々特有ナル點ガアルノデアル．壞血病ニ於テハ．酸化．還元ノ機序ハ如何ナル具合ニ變化スルモノデアルデアラウカ．知リタイ事柄デアル．又本 Vitamin ガ結核等ニ使用セラルヽノモ．首肯セラルヽ點ガナイデモナイ．之ヲ佐藤秀三．柳澤謙氏等ノ「チオスルファート」ニ結核阻止作用ノアル所見ノ報告ト照合スルト興味ガ深イ。

「ホルモン」，「アウトホルモン」ニ關スル研究

高峰讓吉氏ニヨツテ 1900 年「アドレナリン」ガ發見セラレ．ソノ後ニ至ツテ Sterling ニヨツテ Hormone ナル名稱ヲ學會ニ提案セラレタ．其後「ホルモン」ニ關スル研究ハ割合ニ盛ンニハ行ハレテ居ナカツタ．特ニ純粹ナルモノヽ抽出ニ至ツテハ．僅ニ Kendall (1919), Harington (1926) ニヨツテ Thyroxyin ノ組成ヲ發表セラレタ．Insulin ハ久シク明ラカデナカツタガ Abel (1927) 等ガ．略〻之ヲ明瞭ニシタ觀ガアル。然ルニ最近ニ至ツテ．「ホルモン」ノ研究ハ非常ニ旺盛ニ行ハルヽ樣ニナツタコトハ Vitamin ノソレニ關スルト同樣デアル。又 Autohormon 及ビ之レニ關スル所見ガ內外ノ學者ニヨツテ報告セラレ．心臟「ホルモン」ニ關シテハ．恐ラク Adenosin 燐酸デアラウト迄言ハレル樣ニナツテ來テ居ル．玆ニハ「ホルモン」ノ研究中所見ノ總テヲ述ベルコトハ．其本意デハナイ．特ニ注意スベキ性「ホルモン」ニ關スル研究ノ最近ノ所見其他 2．3 ノ事實ニツイテ一言シタイト思フ。

性「ホルモン」

極メテ多種多樣ノ「ホルモン」ガ報告セラレテ居ル中デ．性「ホルモン」位．世人ノ注意ヲ惹キ．同時ニ深ク研究セラレ．臨牀上ノ應用モ亦多イモノハ．他ニアルマイト思ハレル位デアル．特ニ女性「ホルモン」ニ於テソレデアル．今之ヲ一言シヤウ。

男性「ホルモン」(睾丸竝ニ尿中ヨリ得ル)．女性「ホルモン」中卵胞「ホルモン」(卵巢竝ニ尿ヨリ得ル)．黃體「ホルモン」及ビ腦下垂體前葉「ホルモン」ニハ卵胞．睾丸．黃體ヲ刺戟スルモノガアル(腦下垂體及尿中ヨリ得ル)。此樣ニ性「ホルモン」ガ．夫々ノ臟器ヨリ得ラルヽ外ニ．尿ヨリ得ルコトハ注目ニ値スル。

男性「ホルモン」ヲ睾丸ヨリ分離シタノハ Mc Gee (1928) 及ビ其門下ノ人々デアルガ．尿ヨリ分離シタノハ Funk (1929) デアリ．尿ヨリ分離スルコトガ出來ルニ至ツテ

材料ヲ豐富ニ得ラル、樣ニナリ Butenandt (1931) ハ其結晶形 $C_{16}H_{26}O_2$ ノモノヲ見出シテ居ル. 其效果ヲ決定スルノニハ鷄冠發育測定(幼鷄). 精嚢細胞復活現象測定 (マウス)等ニヨルノデアルガ. 又老衰現象ノアルモノニ使用スルト. 食慾ハ旺盛トナリ. 皮膚ハ滑澤トナリ. 新陳代謝ハ嵩リ諸種ノ神經症狀ハ消失スルトイハレテ居ル。

卵胞「ホルモン」卽チ發情「ホルモン」ニ就テハ膣垢細胞反應ニヨツテ. 其存在ガ確實ニ知ラレ. 上記ノ通リ濾胞デアルハ勿論ダガ. 尿中ニ多量ニ排出スル. 之ニツイテ玆ニ詳細ニ述ベル必要ハナイ。

男性「ホルモン」 Androsteron $C_{19}H_{30}O_2$. 卵胞「ホルモン」 Esterin $C_{18}H_{22}O_2$ トヲ比較スルト男性「ホルモン」ニ一原子ノ炭素ガトレ. 脫水作用ヲ施スト卵胞「ホルモン」ニナルノデアル。黃體「ホルモン」ハ $C_{21}H_{30}O_2$ ト言ハレ. 尿中ヘハ. 卵胞「ホルモン」トナツテ現ハレルトイフ. 極メテ近イ關係ノモノデアルト同時ニ又男性「ホルモン」トモ又極メテ近似ノ形ノモノデアルコトガ知ラレタト思フ. 且上記ノ化學的構造竝ニ組成ハ. 未ダ一般的ニ認メラレタ譯デハナイガ. 是等ノモノガ近似ノモノデアルトイフ1個ノ事實ガアル, ソレハ男子ノ尿中ニ女性「ホルモン」ガ相當多量ニ排出シ. 又女性ノ尿. 特ニ月經時ノソレニハ相當ニ多イトイフコトデアル. Zondek ハ男女共ニ身體內デ先ヅ男性「ホルモン」ヲ作リ. 之ガ脫水作用ヲ受ケルト女性「ホルモン」ニナル. 何レガ多イカ少イカハ. 各性ニヨツテ. 特有デアルトイフテ居ル。又上記ノ三性「ホルモン」ハ類脂體中ノ「コレステリン」 $C_{27}H_{46}O$ 「コプロステリン」 $C_{27}H_{48}O$ 等ニ類似シテ居ル組成竝ニ構造ヲ有シテ居ルコトハ興味ガ深イ。

以上ハ性「ホルモン」ノ極最近ノ所見デアルガ. 尙勿論完全ニ決定ノ域ニ達シテ居ナイ. 今後益〻新知見ノ加ハルベキ對象物デアルト信ズル。

上皮小體「ホルモン」

「カルチウム」代謝ト重大關係ヲ有スルモノデ Tetanie ノ療法ニ使用セラル、モノニ Parathormon, Parathyroid Parathyreoidin ノ如キ製劑ガアル。

副腎「ホルモン」

副腎髓質「ホルモン」ハ Adrenalin デアルコトハ申ス迄モナク. 交感神經刺戟劑トシテ廣ク應用アルコトモ周知デアルガ. 吳健氏ガ進行性筋萎縮症ニ用ヒテ居ラル、コトハ興味アルコトデアル。

副腎皮質「ホルモン」トシテ Cortin, Interenin, Pancortex ノ如キモノガ抽出セラレテ居ルガ研究ハ進ンデ居ナイ. アヂソン氏病等ニ用ヒタモノモ效果ハ確實ニ至ラナイ。

腦下垂體前葉「ホルモン」

之レニ關シテハ Zondek, Aschheim 等ノ熱心ナル研究ニヨツテ相當ニ明瞭ニナツタ. 氏等ニヨルニ Prolan A, B, 胎盤ヨリ出ルモノニ Trophoblasthormon トイフ名稱ヲ與ヘタ. Aハ卵胞ノ成熟. 女性「ホルモン」ノ產生ヲ促シ. Bハ卵胞ノ顆粒細胞ヲ黃體細胞ニ變ジ. Lutein ノ分泌ヲ促シ. 卵胞ノ成熟ヲ抑ヘル作用ガアルトイハレテ居ル. 非常ニ澤山ノ製劑ガアル. 卽製品ニハ「プベローゲン」(友田) ガアリ. 外國品ニハ

材料ヲ豐富ニ得ラルヽ樣ニナリ Butenandt (1931) ハ其結晶形 $C_{16}H_{26}O_2$ ノモノヲ見出シテ居ル. 其效果ヲ決定スルノニハ鷄冠發育測定(幼鷄). 精嚢細胞復活現象測定 (マウス)等ニヨルノデアルガ. 又老衰現象ノアルモノニ使用スルト. 食慾ハ旺盛トナリ. 皮膚ハ滑澤トナリ. 新陳代謝ハ嵩リ諸種ノ神經症狀ハ消失スルトイハレテ居ル。

卵胞「ホルモン」卽チ發情「ホルモン」ニ就テハ膣垢細胞反應ニヨツテ. 其存在ガ確實ニ知ラレ. 上記ノ通リ濾胞デアルハ勿論ダガ. 尿中ニ多量ニ排出スル. 之ニツイテ玆ニ詳細ニ述ベル必要ハナイ。

男性「ホルモン」 Androsteron $C_{19}H_{30}O_2$. 卵胞「ホルモン」 Esterin $C_{18}H_{22}O_2$ トヲ比較スルト男性「ホルモン」ニ一原子ノ炭素ガトレ. 脫水作用ヲ施スト卵胞「ホルモン」ニナルノデアル。黃體「ホルモン」ハ $C_{21}H_{30}O_2$ ト言ハレ. 尿中ヘハ. 卵胞「ホルモン」トナツテ現ハレルトイフ. 極メテ近イ關係ノモノデアルト同時ニ又男性「ホルモン」トモ又極メテ近似ノ形ノモノデアルコトガ知ラレタト思フ. 且上記ノ化學的構造竝ニ組成ハ. 未ダ一般的ニ認メラレタ譯デハナイガ. 是等ノモノガ近似ノモノデアルトイフ1個ノ事實ガアル, ソレハ男子ノ尿中ニ女性「ホルモン」ガ相當多量ニ排出シ. 又女性ノ尿. 特ニ月經時ノソレニハ相當ニ多イトイフコトデアル. Zondek ハ男女共ニ身體內デ先ヅ男性「ホルモン」ヲ作リ. 之ガ脫水作用ヲ受ケルト女性「ホルモン」ニナル. 何レガ多イカ少イカハ. 各性ニヨツテ. 特有デアルトイフテ居ル。又上記ノ三性「ホルモン」ハ類脂體中ノ「コレステリン」 $C_{27}H_{46}O$ 「コプロステリン」 $C_{27}H_{48}O$ 等ニ類似シテ居ル組成竝ニ構造ヲ有シテ居ルコトハ興味ガ深イ。

以上ハ性「ホルモン」ノ極最近ノ所見デアルガ. 尙勿論完全ニ決定ノ域ニ達シテ居ナイ. 今後益〻新知見ノ加ハルベキ對象物デアルト信ズル。

上皮小體「ホルモン」

「カルチウム」代謝ト重大關係ヲ有スルモノデ Tetanie ノ療法ニ使用セラルヽモノニ Parathormon, Parathyroid Parathyreoidin ノ如キ製劑ガアル。

副腎「ホルモン」

副腎髓質「ホルモン」ハ Adrenalin デアルコトハ申ス迄モナク. 交感神經刺戟劑トシテ廣ク應用アルコトモ周知デアルガ. 吳健氏ガ進行性筋萎縮症ニ用ヒテ居ラルヽコトハ興味アルコトデアル。

副腎皮質「ホルモン」トシテ Cortin, Interenin, Pancortex ノ如キモノガ抽出セラレテ居ルガ研究ハ進ンデ居ナイ. アヂソン氏病等ニ用ヒタモノモ效果ハ確實ニ至ラナイ。

腦下垂體前葉「ホルモン」

之レニ關シテハ Zondek, Aschheim 等ノ熱心ナル研究ニヨツテ相當ニ明瞭ニナツタ. 氏等ニヨルニ Prolan A, B, 胎盤ヨリ出ルモノニ Trophoblasthormon トイフ名稱ヲ與ヘタ. Aハ卵胞ノ成熟. 女性「ホルモン」ノ產生ヲ促シ. Bハ卵胞ノ顆粒細胞ヲ黃體細胞ニ變ジ. Lutein ノ分泌ヲ促シ. 卵胞ノ成熟ヲ抑ヘル作用ガアルトイハレテ居ル. 非常ニ澤山ノ製劑ガアル. 卽製品ニハ「プベローゲン」(友田)ガアリ. 外國品ニハ

Glandul, Hypophysol, Hypoplentin, Hypototal, Praehypophen, Anteron, Antuitrin, Hypophorin, Anteglandol, Praephyson, Hypophysin 等々デアル。

腦下垂體後葉「ホルモン」

誰デモ Pituitrin ヲ考ヘルノデアルガ. Kamm (1928) 以來ノ研究ニヨルト此 Hormon ニハ二種アリ一ハ子宮筋ノ收縮ヲ促スモノ (Orastin) ト腸蠕動ヲ强盛ニシ. 利尿抑制作用ヲ爲スモノ (Tonephin) ノ如キモノガ知ラレテ來タ. 尙研究ヲ進ムベキモノト思フ。

學術集談會

去ル5月17日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ. ソノ演題ハ次ノ樣デアツタ。

演　題

1. 實驗的結核症ニ於ケ基礎新陳代謝　續木　正大君
2. 近代高層建築ノ環境學的研究(續報)　宮本　正治君
3. 過敏症ニ關スル實驗的研究(續報)「アセチュール・ヒョリン」「ショック」死ニ就テ. 及ビ過敏性「ショック」發來ノ機序ニ關スル再檢討　中村　敬三君・千明　三郎君
4. ウエルチ氏瓦斯壞疽菌ノ免疫學的研究(第5報)　小田　通男君・宮崎正之助君
5. 精製葡萄狀球菌「トキソイド」ノ局所療法ニ就テ　鹽田　時夫君・細谷　省吾君・永井　吉郎君・林　阿安君
6. (1)精製葡萄狀球菌「トキソイド」注射ニヨリテ生ズル免疫體ノ消長
   (2)加熱ニヨリテ毒性消失セル葡萄狀球菌毒素ノ注射ニヨリテ生ズル抗毒素ニ就テ　細谷　省吾君・永井　吉郎君・林　阿安君・鹽田　時夫君

故山田信一郎博士追弔會

5月30日ハ故山田博士ノ1週忌ニ當リ. 廣島高師尙志會・神田高等女學校・傳染病研究所共同主催デソノ追弔會ガ一橋學士會館デ行ハレタ。午後5時開會. 來會者各自任意ニ故博士寫眞ニ禮拜シ. 次イデ故人ノ山東省ニ於ケル俤ノ映畫2卷ガ供覽サレタ。6時半食卓ニ就キ. 宮川博士司會ノ下ニ次々ニ以下ノ樣ナ故人ヲ偲ブ話ガアツタ。先ヅ佐藤博士故人ノ長逝當時ノコトヲ. 諸橋氏師範學校同窓トシテ故人ノ靑年時代ヲ. 早川氏廣島高師關係ニツキ. 三田村博士故人ノ學究態度ヲ. 魚川氏神田高女ニ於ケル故人ノ女子敎育ニ關スル抱負ヲ. 天羽氏東京高校ニ於ケル故人ノ生物學敎授振リヲ. 川口氏友人トシテロンドン滯在中ノ遺事ヲ. 夫々語ツテ後宮川司會者ガ挨拶ヲ述べ. 山田未亡人ニ代ツテ故人ノ叔父加藤氏ノ謝辭ガアツテ. 充分故人ヲ偲ビ感激ノ深イ一夕ノ會ヲ終ツタ。

傳染病研究所記念日

6月1日ハ本所ノ記念日デ. 而モ今年ハ創立第40週年ニ當リ. 時節柄精神的緊張裡ニ午前11時ヨリ紀念式ガ行ハレ(所長式辭前載). 正午カラ食堂デ祝宴ガハラレタ。尙午後1時カラ陸軍軍醫學校敎官石井大佐ノ厚意ニヨツテ今次事變ノ戰場映畫ヲ映寫シ. 一同戰地ニ於ケル勇士ノ御苦勞ヲ目ノアタリニ見テ皇軍ニ對スル感謝ノ念ヲ一人深クシタ。

江崎氏凱旋ス

カネテ應召中デアツタ江崎唯人氏ハ去ル4

月10日召集ヲ解除サレ，5月7日歸所シタ。

高木・石井兩所員竝ニ相良・中川氏渡支ス

高木所員ヲ班長トスル上記氏等ハ4月20日東京驛發北支ニ向ツタ。尙高木氏ハ防疫班編成ノ爲メ5月12日一先ヅ歸京シタ。

學友會へ寄附

金11圓65錢也	中川綿一郎君
金53圓52錢也	高野正男君
金41圓60錢也	關屋重德君
金150圓00錢也	鈴木餘四郎君

人事異動報告 昭13．6．3現在

發令月日	辭令	官職	氏名
4．30	任傳染病研究所技手		鐵本總吾
	(傳染病研究所業務囑託ヲ解ク)		
			柳井時正
			井田清
	(各通)		森成禎二
			補永茂夫
			村江通之
			小田通男
4．30	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		
			增山忠俊
			蘆田光三
			廣濟法圓
			矢部正澄
			福見秀雄
			川上立太郎
	(各通)		香川修事
			伊藤英太郎
			小川俊太郎
			佐藤金治
			羽田幸雄
			田崎忠勝
			梶原秀信
			澤田利貞
			福井覺
4．30	依願解囑		大久保蕭
5．11	任公衆衛生院教授兼傳染病研究所技師	如故	
	厚生技師兼傳研技師敘高等官三等		野邊地慶三
〃 20	依願解囑		山田誠
〃 23	依願免本官	技手	森和雄

「東京醫學雜誌」22巻 1304-1306 1938
22巻 1304 1938

雜　　報

學術集談會

去ル6月16日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ．ソノ演題ハ次ノ樣デアツタ。

演　題

1. 顯微鏡寫眞ニ現レル微粒子體ノ大イサニ就テ　野田省吾君
2. 微生物類ニ及ボス種々 Glykoside 類ノ影響ニ就テ(第1報)　東風睦之君
3. 「トリコモナス」ニ關スル研究 第4報 牛ノ生殖器「トリコモナス」ノ培養ニ就テ　森下哲夫君
4. 家蛹ノ內部構造 第1報 消化器系統ニ就テ　森下哲夫君
5. 家蛹ト再歸熱「スピロヘータ」トノ關係　森下哲夫君
6. BCG 人體接種ノ所見　酒井皐二君
7. 瓦斯壞疽豫防ニ關スル研究　小田通男君・宮崎正之助君・新井三九雄君
8. Frei 反應ニ關スル研究　橋本康義君
9. 家蠶膿病病毒ノ限外濾過試驗　矢追秀武君・渡邊靜雄君

田中正稔君死去

昭和6年本所ニ入所．赤痢研究室ニ於テ幾多貴重ナ研究ヲナシ．昭和10年滿洲國新京ニ國立衞生技術廠ノ創立セラレルヤ阿部廠長ノ片腕トシテ迎ヘラレ．新興友邦ノ衞生方面ノ基礎確立ノ爲活躍中デアツタ田中正稔君ハ去ル5月末．風邪ヲオシテノ過勞ガ原因トナツタカ病床ニ就キ肺炎ト診斷サレタ。病狀意外ニ重ク阿部廠長ハジメ同僚諸君ノ晝夜ヲ分タヌ手厚イ看護モ空シク．遂ニ6月9日午前3時35分不歸ノ客トナツタ。急ヲ聞イテ馳セツケラレタ御母堂モ間ニ合ハヌ急逝デアツタガ翌10日ニハ新京ニ於テ官民多數參列シテ盛大ナ廠葬ガ行ハレタ。

故田中正稔君追悼會

田中君ノ訃報ヲ半信半疑デアツタ在京ノ友人達モ15日御兩親同僚ノ加地君等ニ護ラレテ雨ノ帝都ニ悲シキ無言ノ歸京ヲシタ遺骨ヲ迎ヘテ哀悼ノ念更ニ切ナルモノガアツタ。傳研ヲ中心ニシテ生前ノ友人有志ガ發起シ．二十日追悼會ヲ行ツタ。當日ハ御兩親ノ御參列ヲ得．本所會議室內生花ニ飾ラレタ臺上ニ同君ノ寫眞及滿洲國皇帝陛下ヨリ下賜サレタ柱國章ヲ安置シテ．午後3時宮川所長ノ弔辭ヲ矢追先生代讀．參會者順次ニ燒香シタ。傳研關係ノ諸先生．先輩．同僚．後輩ハ勿論ノコト．大學ノ同級生．講習生其他數百名ノ參列者ノアツタコトハ實ニ故人ノ遺德ノ然ラシムル所デアルト思ハレタ。

4時ヨリ食堂ニ茶菓ヲ用意シテ故人ヲ偲ブ會ヲ催シ．故人ト親交最モ厚カツタ小栗君ノ聲涙共ニ下ル愛惜ノ司會ノ辭ニ次イデ加地君カラ發病ヨリ死去ニ至ル病狀ノ詳細ナ報告ガアツタ。矢追先生赤痢研究室主任トシテ故人ノ業績ヲ述ベレバ．次ニ故人ヲ信ジ且愛スルコト深カツタ長與總長ハ立ツテ「凡ソ人生ニ悲慘ナコトヽ云ツテ色々ノ準備ガ出來テ之カラ活躍ショウトスル若イ人ガ不幸病魔ノ侵ス所トナツテナクナルコト程悲慘ナ事ハナイ。同君ノ如ク羽力正ニ成ツテ之カラ大陸ニ雄飛ショウト云フ時ニコノ不幸ニアツタコトハ痛嘆ニ堪エナイ。私ハ同君ノ學問的業績ニ就テ

ハ餘リ知ラナイ。然シ故河本君ニ紹介サレテ初メテ同君ヲ知ツタ時カラ之ハ安心シテ事ヲ託スルコトガ出來ル男ダ．何カ大キナ仕事ヲスル男ダト感ジテ居タ。今トナツテハ致シ方ナイガ友人達ガ故人ノ遺志ヲツイデコノ貴重ナ死ヲ無駄ニシナイ樣ニシナクテハナラナイ。ト追悼ノ言葉ヲ述ベラレタ。田宮先生諧謔味ヲ交ヘテ故人ノ逸話ヲ話サレ．佐藤•小島兩先生モ色々ト追憶談ヲサレタ。更ニ大學ノ同級生代表時永•塚本兩君ノシミジミトシタ思ヒ出話ヤ．一緒ニ研究ヲシテ居タ宮木君ノ話ガアリ．渡邊•岡本兩君カラ傳研內ノ故人ノ有リシ日ノ話ガアツタ。最後ニ清水君カラ弔電ノ披露ト故人ノ全然畑違ヒノ知人カラノ追憶ノ手紙ノ朗讀ガアリ．最後ニ1分間ノ默禱ヲシテ故人ノ冥福ヲ祈ツタ。(清水)

進藤氏凱旋ス

昨年8月18日召集サレ．爾來佐世保海軍病院部員トシテ勤務中デアツタ海軍軍醫大尉進藤宙二氏ハ去ル6月16日召集ヲ解除サレ．6月25日歸所シタ。

支那事變應召者調

氏　名	應召年月日	備　考
中村　敬司	12. 7.19	
西下　止夫	,, 7.29	
江崎　唯人	,, 8.15	13.4.10 除隊
進藤　宙二	,, 8.26	13.6.16 除隊
金澤　謙一	,, 8.17	
中神　清一	,, 7.17	
篠田　茂	,, 8.22	
松本　信	,, 7.28	
鈴木　良次	,, 8.15	
大原　良之	,, 8.17	13.4.7 除隊
神子　謙	,, 8.27	
飛田　義雄	,, 9.13	
中野　豐策	,, 9.12	
米倉　秀雄	,, 11. 6	
鈴木　勝治	,, 12. 5	
石井信太郎	,, 12. 5	13.4.8 除隊
寺山　廣喜	12.12.18	
北川　安信	13. 3. 1	
輕部彌生一	,, 4.25	
森藤　靖夫	,, 5. 5	
增山　忠俊	,, 5.12	
柳井　時正	,, 6.20	
出井　勝重		
中山　富雄		
市川　收		
田部邦之助		
福山　榮三	12.11. 7	
高野　正男	13. 3. 1	
濱口　廣成	,, 5.17	

學友會へ寄附

金12圓42錢也　田中芳雄君
金37圓97錢也　森下哲夫君
金9圓86錢也　中川錦一郎君
金14圓97錢也　中川錦一郎君

人事異動報告　昭13.7.1現在

發令月日	辭令	官職	氏名
5.31	研究生退學		續木正大
,, ,,	同		須賀井忠男
6. 8	岡山縣下ヘ出張ヲ命ズ	教授	宮川米次
,, 9	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		安倍胤一
,,10	同		續木正大
,, ,,	同		須賀井忠男
,,16	同		酒井菊雄
,,15	敍正四位	從四勳三教授	宮川米次
,,24	依願免本官	技手	山岸精實
,,25	任長崎醫科大學教授	東京帝國大學助教授	內野豐生
	敍高等官五等		
,,29	任傳染病研究所技師	敍高等官五等　助教授	矢追秀武
,,29	研究生退學		鈴木餘四郎

「実驗医学雜誌」22巻 (85) 1938

22巻 1535 1938

雜　　報

進藤君上海へ赴任ス

進藤宙二君ハ上海自然科學研究所研究員トシテ7月15日東京驛發赴任ノ途ニツカレタ。

宮川所長ノ滿支視察

宮川所長ハ去ル8月4日東京驛發滿支ノ防疫視察ノ旅ニ出ラレタ。

中山君北京へ赴任ス

中山高志君ハ同仁會醫員トシテ8月4日同會北京醫院へ赴任サレタ

學友會へ寄附

一金 72 圓 25 錢也　鈴木餘四郎君
一金 6 圓 58 錢也　中村敬三君
一金 140 圓 91 錢也　橋本康義君
一金 116 圓 32 錢也　中島五六君

人事異動報告　(昭和13.8.3日 現在)

發令月日	辭令	官職	氏名
8.24	公衆衛生院講師ヲ囑託ス		
		技手	柳澤謙
7. 1	陞敍高等官五等		
		助教授	羽里彦左衛門
,, ,,	敍正四位	教授	高木逸磨
,, ,,	研究生入學許可 (第二研究部)		松兼正司
,, 7	依願解囑		伊藤英太郎
,, ,,	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		重福太郎
,, 11	研究生入學許可 (第二研究部)		河野重成
,, ,,	上同(第五研究部)		金子禮治
,, 13	依願免本官	技手	進藤宙二
,, 30	公衆衛生院ヘ出向ヲ命ス	技手	栃内寛
8. 1	研究生入學許可 (第四研究部)		岡田豐

22巻 (9号) 1938

雜 報

中込亘君戰病死

昭和4年本所入所以來檢査部ニ於テ孜々トシテ研究ニ從事シ貴重ナ幾多ノ業績ヲ擧ゲラレ．本年春陸軍技師ニ任官セラレタ中込亘君ハ．任地哈爾賓ニ於テ御活躍中去ル8月初メ不幸病魔ノ侵ストコロトナリ．同僚ハモトヨリ石井部隊全員ノ誠心込メタ看護モ空シク．途ニ8月18日殉職サレタ。

8月20日午後2時哈爾賓ニ於テ盛大ナ部隊葬ガ行ハレ．同時刻傳研ニ於テモ一同屋上カラ遠ク哈爾賓ノ空ニ向ツテ一分間ノ默禱ヲ捧ゲ同君ノ冥福ヲ祈ツタ。遺骨ハ同僚石光博士ニ奉持サレテ9月8日東京驛ニ悲シク無言ノ凱旋ヲシタ。尙翌9日ニハ軍醫學校主催ノ下ニ築地本願寺ニ於テ同博士等ヲハジメ29名ノ石井部隊戰死戰傷病死者ノ合同葬並慰靈祭ガ擧行サレ．軍民多數參列シテ盛大嚴肅ヲ極メタ。

學友會へ寄附

金 23圓32錢也　桑島謙夫君

金 9圓78錢也　木口三郎君

人事異動報告　昭13.9.5日現在

發令月日	辭令	官職	氏名
8. 1	兼任傳染病研究所技手	助手	栃内 寛
〃	研究生入學許可(第二研究部)		佐竹 隼人
8. 9	滿洲國及中華民國ヘ出張ヲ命ズ	教授	宮川 米次
8.10	傳染病研究所長宮川米次滿洲國及中華民國出張不在中代理ヲ命ズ	教授	三田村篤志郎
〃	依願免本官(北京同仁會醫院)	技手	中山 高志
8.15	滿洲國ヘ出張ヲ命ズ(哈爾賓ヘ)	教授	小島 三郎
8.16	研究生退學許可(北京同仁會醫院)		野上 隆
8.25	任厚生技師 敍高等官六等	技手	山口 正義
8.31	研究生滿期退學		八田 善保
8.31	研究生滿期退學		矢田 與久
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託ス(醫局)		川崎 治
〃	右 同 (同)		八田 善保
〃	研究生退學ヲ命ズ		川崎 治

酒井皐二論文正誤表

BCG 人體接種ノ所見

(實驗醫學雜誌．第22巻．第8號)

頁	行	誤	正
1400	上ヨリ9	0.1cc 舊-Tuberkulin	舊-Tuberkulin 0.1cc
1401	上ヨリ4	經續	繼續
〃	下ヨリ11	接種スル外	接種スル時
〃	下ヨリ1	BCG 浮游膿度	BCG 浮游液濃度
〃	下ヨリ1	Krirschewsky	Kritschewsky
1402	下ヨリ1	A. Bichmann	A. Brichmann

22巻 1900 1938

「実験医学雑誌」 22巻 1900—1901 (10号) 1938年

雜 報

江崎君再ビ應召

4月中旬一旦召集ヲ解除サレテ凱旋シタ江崎唯人君ハ去ル9月26日再ビ召集サレテ勇躍出征シタ。

學術集談會

去ル9月29日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ．演題ハ次ノ樣デアツタ。

1. Dutton 株ノ血小板帶荷現象 (Rieckenberg 反應)特ニ再發性變化ノ經代還元性ニ就テ　須賀井忠男
2. 細菌學及ビ血清學的領域ニ於ケル諸種「アルカロイド」類ノ生物學的意義ニ就テ　長谷川秀治

故中込君追悼會

哈爾賓ニ於テ8月18日戰病死サレタ陸軍技師故中込亘博士ノ追悼會ガ9月29日學術集談會ニ引キ續イテ講堂デ行ハレタ。會ノ次第ハ次ノ樣デアツタ。

1. 開會ノ辭　八田貞義
1. 默　禱　小栗一好
1. 追悼ノ辭　三田村篤志郎
1. 追憶談　石光薫
1. 閉會ノ辭　小島三郎

尙所長ニ代ツテ述ベラレタ三田村教授ノ追悼ノ辭ハ次ノ樣デアツタ。

故中込亘君ヲ想フ

三田村　篤志郎

我等ノ友人醫學博士中込亘君ハ去ル8月18日ハルビン市ニ於テ溘焉トシテ逝カレマシタ。8月10日ノ頃カリソメノ病ガ嵩ジ遂ニ君ガ憂慮スベキ狀態ニ陷ラレタコトヲ聞キマシタ時ニ我ガ傳染病研究所ニ籍ヲ置クモノハ君ヲ深ク知ルト知ラザルノ別ナク驚キニ言葉モ出ナカツタノデアリマス。君ガ1日モ早ク全快サレルコトヲ我々ハ心ヨリ念ジテ居リマシタノニ．君ハ遂ニ立タズ悲シクモ急逝サレマシタ。遠キ異境ノ風土ト皇軍ニ從ツテノ劇務ガ君ノ病ヲ重カラシメタモノト想像シ尊敬ト悲痛ノ念ニ滿タサレルモノデアリマス。

今日我々ハ茲ニ相集ツテ君ガ生前最モ深キ關係ヲ持タレタコノ研究所ニ於テ．シカモ君ガ嘗テ幹事トシテ多大ノ勞ヲ致サレタ我ガ學友會ノ集談會ニ於テ．君ヲ弔ヒ君ヲ想ハントシテヲリマス。

故中込君ハ明治32年9月8日山梨縣中巨摩郡鏡中條村ニ中込惠十郎及ビ春子ノ御兩方ノ第5男トシテ生レマシタガ不幸ニモ幼ニシテ兩親ヲ失ハレ．長兄尙也氏ノ庇護ノ下ニ長ジ．甲府中學校．第二高等學校ヲ經テ．昭和2年12月東京帝國大學醫學部ヲ卒業シ．越エテ昭和4年4月25日我ガ傳研ノ人トナラレマシタ。技手トシテ小島博士ノ檢査部ニ入リ．本年3月10日陸軍技師トシテ北滿石井部隊ニ職ヲ奉ゼラレルマデ前後9年間我々ノ中ニ居ラレタノデアリマス。

人生ノ第一歩ニ於テ兩親ヲ失フトイフ最大ノ不幸ヲ嘗メラレタ君ノ一生ニハ其後モ波立チ風吹ク日ガ多カツタノデアリマシタ。大學ニアツタ時ニモ大學ヲ終ヘタ後ニモ君ハ屢々重イ病ニ冒サレマシタ。カクシテ君ノ進路ハ兎角阻マレ勝チデアリマシタ。

傳研ニ入ツテカラ元來蒲柳ノ質デアル君ハ10年1日ノ如ク休ム日トテナク孜々トシテ學ニ勵マレマシタ。コレ君ノ克己ト忍耐ト攝生トノ賜デアリマシテ同學ノ我々ノ以テ範トスルニ足ル所デアリマス。シカモ此間ニ於ケル君ノ生活ハ安易ノ生活デハアリマセンデシ

タ。家ヨリ財ヲ得ルコトノ少ナカツタ君ハ傳研デ得ル薄給ヲ以テ主ナル生活ノ資トナシ荒キ人生ノ浪ヲ押シ切ラレタノデアリマス。艱難ハ人ヲ玉ニスト申シマスガ，君ハ幾多ノ人生ノ波浪ノ中ニ喘ギツヽ定メシ君ノ人格ヲ磨カレタコトヽ思ヒマス。君ガ酒及ビ煙草ヲ嗜マズ，自ラ持スルコト儉素デ，事物ニ接シテ几帳面デアリ，一旦決スレバ貫イテ止マナイ强イ意志ノ所持者デアツタコト等ハ一ニハ君ノ境遇ニヨル修養ノ結果デアツタデシヤウ。シカシ君ノ患難ノ生活ガ君ヲ陰鬱卑屈ノ性格ニ導カナカツタ事ハ君ノ生來ノ資性ニ人ニ勝レタ美點ガ多分ニ包藏サレテキタタメデアリマセウ。嚴格ト同時ニ極メテ溫厚謙讓デアツタ君ガ周圍ノ人々ニ和氣藹々タル印象ヲ與ヘタコトハ君ニ接スル凡テノ人ノ感得シタトコロデアリマス。マタ君ガ一面儉素厘毫ヲモ苟クモシナイト共ニ半面デハ絕對ニ義理ヲ缺クコトナク，事物ニ出過ギルコトハ微塵モナカツタガ人ニ對シテハ丁寧親切ヲ極メタ如キ君ヲ知ル人ノ遍ク認メタトコロデアリマス。カクシテ君ハ師ニ對シテハ從順ニシテ忠實，同輩ニ對シテハ謙遜ニシテ信實，若キ人ニ對シテ溫良ニシテ親切デアリマシタ。君ノ性格ヲ概評スレバ實ニ缺點ノ無イノガ唯一ノ缺點デアルトデモ言ヒタイ位デアリマス。

中込君ハ昭和6年12月仙臺ノ人五味千秋氏ト結婚サレマシタ。御兩君ノ結婚ハ不幸ニシテ子女ニ惠マレマセンデシタガ，家庭ハ爾來7年間琴瑟誠ニ相和シ，ソノ御互ニ相敬シ，相愛シ，相知ルサマハ，實ニ文字通リ一身全體ノ境地デ，ヨソノ見ル目ニモ羨ヤマシイ程デアツタト承ツテヲリマス。元來學問以外ニハ趣味ノ少ナカツタ君ニ人生ノ春ガ芽バヘタモノト我々モ喜ヲ一ニシテキタノデアリマスガ。月ニムラ雲，花ニハ嵐，君ガ折角ノ安息ノ家ヲ他處ニシテ實ヲ結バズ惜シクモ急逝サレタノハ返ス返スモ遺憾ノ次第デアリマス。

最後ニ學者トシテノ君ノ跡ヲ追フテ君ヲ偲ビタイト思ヒマス。君ノ研學ノ態度ハ君ノ人格カラモ想像出來ルヤウニ眞摯ソノ物デアリマシタ。學問ノタメニ學問ヲスルト云ヒ，マタ學ヲ樂ムト云フ如キハ君ノ研學ノ心境デアツタラウト考ヘマス。我ガ研究所ガ何人カノ君ノ如キ人ヲ持ツテキルコトハ何ニモ勝ル幸福デアリ，マタ誇リデアルト信ジマス。

君ガ一人マタハ他ト協同シテ成遂サレタ學問上ノ業績ハ必ズシモ數多クハアリマセンガ，ソレニヨツテ君ノ研學ノ態度ト君ノ將來ニ伸ムベキ有爲ノ才ヲ知ルコトガ出來ルノデアリマス。君ノ業績ノ種類ハ大體之ヲ分ツテ3乃至4種トナスコトガ出來マス，ソノ一ツハ細菌ノ抵抗性ニ關スルモノデ，小島博士ト共ニ消毒藥檢定法ノ規準トナルベキ基礎實驗ヲ完成サレタ如キハ斯界ニ於ケル極メテ有益ナ業績デアリマス。更ニ君ハ結核菌ニ對スル各種ノ「クレゾール」ノ殺菌力ヲ檢シ，最近デハ液體空氣ノ細菌ニ及ボス影響ニツイテ研究ノ歩ヲ進メラレテヲリマシタ。第二ノ種類ノ業績ハ還境醫學ニ關スル衞生學的ノ研究デ，本研究ハ上述ノ液體空氣ニ關スル研究ト相俟ツテ寒地衞生學上資スル處多ク，率ヒテハ我國ノ國防上ニモ寄與スルニ到ルモノデアツタラウト信ジマス。君ノ第三種ノ研究ハ河本，小島兩博士ト協同デナサレタ「マラソン」競走者ノ生理ニ關スルモノデ運動醫學ニ寄與スルトコロ尠クナカツタノデアリマス。君ノ第四種ノ研究ハ細菌ノ生物學的性狀ニ關スルモノデ之ニ屬スル「サルモネラ」菌屬ノ生物學的性狀ヲ檢査サレタ研究ハ我國ニ於ケル此ノ種ノ研究中衆ニ先ツモノヽ一ツデアリマス。マタ赤痢菌及ビ大腸菌ノ「デヒドロゲナーゼ」ニ關スル研究ハ君ノ博士論文デアリマスガ，此研究ニヨツテ赤痢菌及ビ大腸菌ノ分類學上ノ重要ナ一規準ガ發見サレタノデアリマス。

我ガ研究所ハ既ニ多數ノ研究者及ビ臨牀家ヲ滿洲及ビ支那ニ送ツテキルノデアリマス。我々ノ使命ハ研學デ我等ノ意圖ハ平和デアリマス。コノ學術ノ戰場ニ於テ我々ハ既ニ山田，田中，中込ノ三君ヲ失ヒマシタ。シ

カシ我々ノ勇氣ハ之ニヨツテ寸毫モ碎ケルモノデハアリマセン。タトヘ北滿廣野ノ寒風吹キ荒ムトモ，中支山嶽ノ炎熱身ヲ焦ストモ，我々ノ同志ハ彼地ニ學問ノ戰ヲ戰ヒ續ケルデシヤウ。マタ後ニ續ク我々ハ怯マズ新手ノ兵士ヲ彼地ニ送ルデシヤウ。カクシテ逝ケル我々ノ友ノ弔ヒ合戰ニ力限リ戰ヒ續ケルデアラウコトヲ我々ハ茲ニ嚴肅ニ誓フモノデアリマス。

我等ノ友中込君。君ハ我々ノウチニ，我ガ傳染病研究所ノウチニ限リナク生キテキマス。

學友會へ寄附

一金16圓25錢也　酒井皐二君
一金41圓61錢也　坂野信雄君
一金20圓26錢也　岡本啓君

人事異動報告　昭和13.10.4.現在

發令月日	辭令	官職	氏名
9.15	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		佐藤金治
9.19	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		小川俊太郎
9.20	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		佐藤三郎
10.1	研究生入學許可（第二研究部）		井上幸助
〃	右同（第三研究部）		山田貢
〃	右同（附屬醫院）		羽田一重
〃	陞敍高等官四等	技師	矢追秀武

實驗醫學雜誌

(傳染病研究所研究業績報告)

第二十二卷　第十一號　昭和十三年十一月二十日發行

原　　著

近代高層建築ノ環境學的研究

第一篇　化學的性狀ヨリ觀タル環境ニ就テ

(昭和13年8月1日受付)

東京帝國大學傳染病研究所第四研究部(小島三郎教授指導)

宮　本　正　治

目　次

緒　言

第一章　供試建物ノ概況ニ就テ

第一節　供試建物ノ工事概要

第二節　供試建物ノ衛生設備概要

第一項　換氣系統ニ就テ

第二項　供試建物ノ空氣調整裝置ニ就テ

第三項　供試建物全體ノ換氣狀況

第四項　調査中ノ各室ノ狀況

第二章　實驗方法

第三章　實驗成績

第一節　再循環空氣ノ CO_2 量ノ時間的變化ニ就テ

第一項　實驗方法

第二項　實驗成績

第二節　混合空氣ノ CO_2 量ノ時間的變化ニ就テ

第一項　實驗方法

第二項　實驗成績

第三節　各室空氣ノ CO_2 量ノ時間的變化ニ就テ

第一項　實驗方法

第二項　實驗成績

第四節　CO_2 量ヨリ見タル室內空氣ノ平面的分布狀況

第一項　實驗方法

第二項　實驗成績

第五節　本章ノ小括及ビ考察

第四章　總括及ビ考察

結　論

引用文獻

22巻 (11号) 1938

線ハ日ニヨリ甚シイ變動ヲ示シテキル。コノコトハ「プロタミン-チンク-インシュリリ」ノ作用ガ一樣デハナイコトヲ暗示シテキル。コレハ吸收ノ差カ，或ヒハ「インシュリン」再賦活ニ關係アル因子ニヨルモノト考ヘラレル。

尙コレラノ例ニ於テハ，食後ニ於ケル血糖値ノ異常上昇ヲ防ギ得ナイコトガ，明瞭ニ示サレテキル。コレハ徐々ニ吸收サレルコトカナ，當然豫期サレルコトデハアルガ，コノ點カラハ，直チニ作用スル普通「インシュリン」ヲ食前ニ與ヘル方ガ，ヨリ生理的ダト考ヘラレル。

更ニソノ緩徐ナ吸收ニヨリ，シバシバ無症狀性低血糖ヲ起スガ，カヽル低血糖ハ適度ノ高血糖ヨリ遙カニ危險デアル。從ツテ「プロタミン-チンク-インシュリン」ヲ與ヘル場合ニハ，特ニ夜間ニ血糖ヲ測ルコトガ非常ニ重要デアリ，外來治療ニ於テ使用スルニハ，從來ノ「インシュリン」ニ比シ遙カニ危險ダト思フ。

(金子)

雜 報

後藤君出征ス

去ル10月25日醫局ノ後藤敏夫君ハ召集ヲ受ケ，勇躍出征ノ途ニ就カレタ。

學術集談會

10月27日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ，下記ノ樣ニ學術集談會ガ催サレタ。

演題

1. 鼠蹊淋巴肉腫病原體ノ組織培養法ニヨル知見補遺　直鍋清明
2. 肺炎雙球菌溶血毒素ニ就テ　新井三九雄
3. 葡萄狀球菌ノ毒素，抗毒素竝ニ抗毒性免疫ニ關スル研究(續報)　細谷省吾，林阿安，永井吉郎

學友會ヘ寄附

一金23圓84錢也	桑島謙夫君
〃 29圓76錢也	中山高志君
〃 3圓72錢也	宮本正治君
〃 18圓90錢也	田中哲之助君
〃 18圓90錢也	矢追秀武君
〃 13圓56錢也	酒井皐二君

人事異動報告　昭和13年11月2日現在

發令月日	辭令	官職	氏名
10. 8	依願解囑		香川修事
10.21	依願免本官	技手	松井守一
10.27	任臺灣總督府中央研究所技師敍高等官四等		中島壽
10.27	中華民國ヘ出張ヲ命ス	教授	高木逸磨
10.31	依願解囑		江島眞平
10.31	依願解囑		安川隆
10.31	任傳染病研究所技手		宗像昇
			羽田正一
			市川行正
			田中繼雄
			津本淳三
			金子讓
			阿部康男
10.31	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		以上7名
10.31	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		續木正大
			川崎治
			入田善保
10.31	依願解囑		降旗武臣

田中哲之助・寺田清二論文正誤表

流行性腦脊髓膜炎雙球菌ヨリ得タル
特異免疫元性ヲ有スル有毒物質ニ就テ

（實驗醫學雜誌. 第22卷. 第9號）

頁	行	誤	正
1611	第2表中	3萬4千×	6萬4千×
1612	第4表中	キ	++
,,	下ヨリ5	黑紫色. 發赤	質ニヨル發赤
,,	下ヨリ4	質ニヨル周圍紅色	黑紫色. 周圍紅色
1614	上ヨリ2	反之名5	反之5名
,,	下ヨリ14	ソノ物質 0.52mg	ソノ物質 0.5—2mg
1617	第10表	Fehling 水解後—	Fehling 水解後 ++
,,	,,	Biuret ++	Biuret +
,,	,,	Tichlor 醋酸	Trichlor 醋酸
,,	下ヨリ5	少量. 針狀結晶	少量ノ針狀結晶
1621	上ヨリ 1 (7)	1924	1925
,,	上ヨリ10(15)	Scher H	Scherp H
,,	上ヨリ12(17)	28	23
,,	下ヨリ10(21)	Newells	Newell S.
,,	下ヨリ 9(22)	Newells Ferro	Newell S. Ferry
,,	下ヨリ 9(22)	321	325
,,	下ヨリ 7(24)	昭和11年	昭和10年

22巻(12号) 1938

マツテキルノミヲミタ。

勿論著者等ノ研究ハ數ガ少ク，觀察期間モ短カイカモ知レヌトイフコトハ認メル。ニモ拘ラズ，コレダケノ事實ニテモ今マデ諸文獻ノ斷定ニ對シテ重大ナ疑問ヲ投ゲカケルニ充分デアルト思フ。コレニヨツテ更ニ赤洗ノ價値ニ就テ充分ノ檢討ガ行ハレルコトヲ希望スル。 (金子)

雜 報

學術集談會

去ル11月24日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ，下記ノ樣ニ學術集談會ガ催サレタ。

演題

1. 結核海猿ノ臓器組織呼吸ニ關スル研究 大林容二
2. Slide Cell Culture ニ關スル研究 清水文彦
3. 猩紅熱ノ豫防接種ニ就テ 矢追秀武

學友會ヘ寄贈

一金63圓88錢 相良 貞直君
一金16圓58錢 栗本 珍彦君
一金29圓59錢 山岸 精實君
一金19圓17錢 續本 正夫君
一金17圓16錢 八田 貞義君

人事異動報告 13年12月2日現在

發令月日	辭令	官職	氏名
11. 1	陞敍高等官三等	技師	長谷川 秀治
11. 1	佛領印度支那ヘ出張ヲ命ズ	助教授	羽里彦左衛門
11.11	依願解囑		中島 壽
11.28	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		朝比奈正二郎
11.30	任傳染病研究所	技師	山極 三郎
	敍高等官四等(五級俸下賜)		

以上